

全国方言談話データベース 日本のふるさとことば 集成 : 第1巻 北海道・青森

著者	国立国語研究所
ページ	1-259
発行年	2006-03-30
シリーズ	国立国語研究所資料集 ; 13-1
URL	http://doi.org/10.15084/00002241

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第1巻 北海道・青森

国立国語研究所資料集 13-1

国立国語研究所
2006

国書刊行会

刊行のことは

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成18年3月

独立行政法人
国立国語研究所長 杉 戸 清 樹

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子、CD-ROM、CD）には、以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

北海道中川郡豊頃町1978

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【年中行事、昔の生活の様子】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf+方言音声wave(ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

青森県弘前市1979

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【弘前の昔の風物詩】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳pdf+方言音声wave(ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
wave ファイル，ステレオ

CD-ROM は，CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点に御配慮のうえ，お使いください。

2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記(2)は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように、明記してください。
あわせて、成果物を国立国語研究所に御寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒190-8561

東京都立川市緑町3591-2

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：042-540-4339

4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CD の作成については、平成9(1997)～17(2005)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第1巻 北海道・青森

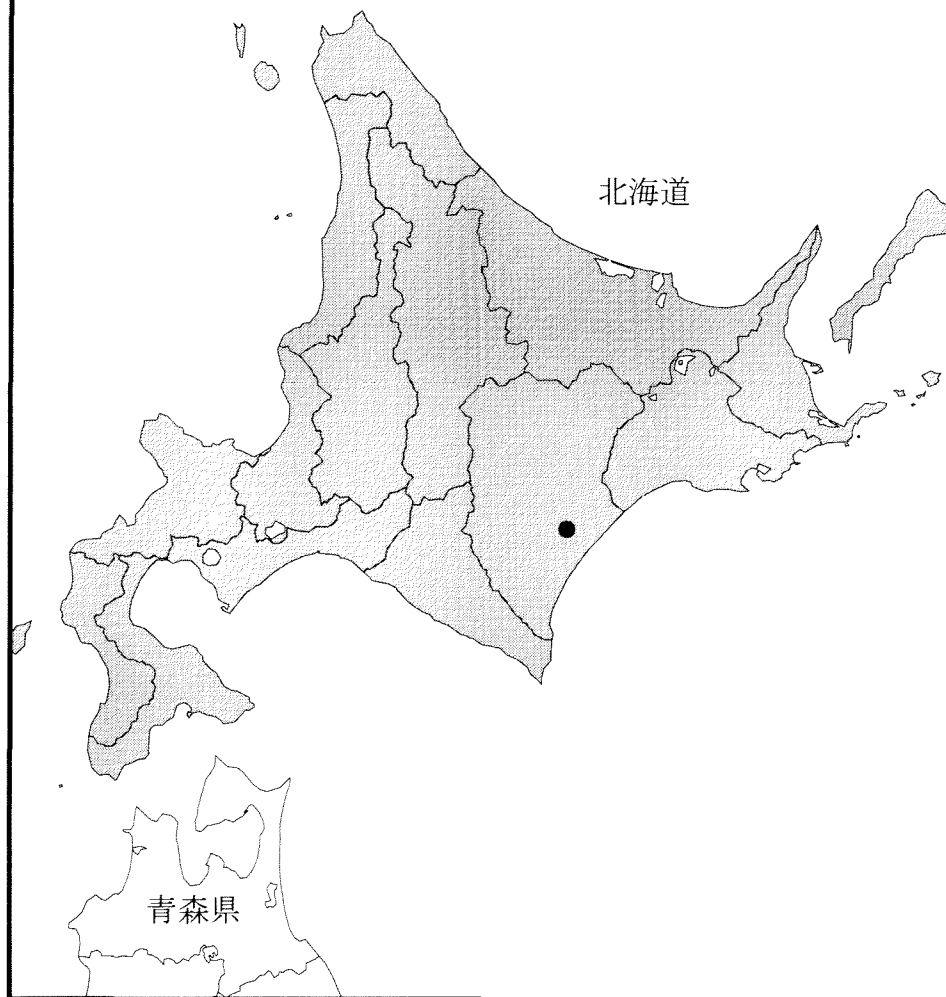
目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
 I. 北海道中川郡豊頃町1978	 11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	20
談話	25
【年中行事，昔の生活の様子】	26
注記	135
 II. 青森県弘前市1979	 143
地図	144
話者・担当者	145
解説	146
凡例	154
談話	159
【弘前の昔の風物詩】	160
注記	225

作成・公開の経緯	229
「各地方言収集緊急調査」について	231
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	235
「各地方言収集緊急調査」地点地図	240
各地方言収集緊急調査補助全体計画	241
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	242
各地方言収集緊急調査実施要領	243
各地方言収集緊急調査の実施について	246
調査実施上の留意事項について	248
「全国方言談話データベース」について	254

**I . 北海道中川郡豊頃町
1978**

北海道中川郡豊頃町



北海道中川郡豊頃町1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	遠藤 八重子
	鈴木 義美
	若原 トクイ
収録担当者	小野 米一
文字化担当者	小野 米一
共通語訳担当者	小野 米一
解説担当者	小野 米一

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	小野 米一
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

北海道中川郡豊頃町1978解説

収録地点名

ほっかいどう と かしちょうなががわぐんとよころちゅうしゅべつ にのみや
北海道十勝支庁中川郡豊頃町牛首別 (通称・二宮)

収録地点の概観

位置

豊頃町は、北海道の東部、十勝平野に広がる十勝川の河口に位置し、東南部は太平洋に面する。東西34.2km、南北35.4km。東は浦幌町^{うらほろちよう}、北は池田町^{いけだちよう}、西は幕別町^{まくべつちよう}、南は大樹町^{たいきちよう}に隣接する。

交通

豊頃駅は、根室本線帯広駅から約38km、約1時間のところにある。豊頃駅から豊頃町中心部の茂岩^{もいわ}までは、約3.3km、バスで約5分。茂岩から帯広市へはバスが便利で、約34km、約1時間である。

地勢

豊頃町の北東部を斜めに流れる十勝川を挟む平坦地のほか、全体に海拔100m前後または200m以下くらいの丘陵地がある。二宮地区は、牛首別川とその支流の久保川沿いに細長く広がる。夏は太平洋に発生する濃霧の影響を受ける。冬は積雪量はさほど多くないが、日夜の寒暖の差が激しい。

行政区画

十勝内陸地方にはもともとアイヌ民族が多く住んでいたが、明治以降入植が始まり、大津がその門戸として移民や物資の出入りでにぎわい繁栄を誇った。1906(明治39)年、二級町村制施行により、河西支庁^{かさい}十勝郡大津村と河西支庁中川郡豊頃村が誕生、二宮はこの豊頃村に属する。1932(昭和7)年、河西支庁から十勝支庁に改称。1955(昭和30)年、豊頃村に大津村の大部分を編入し、1965(昭和40)年には町制を施行して豊頃町となった。

戸数・人口

1978(昭和53)年7月現在、世帯数1,612戸、人口6,175人、うち二宮は世帯数134戸、人口628人。人口は減少の傾向にあり、この10年余りで約4,000人少なくなった。大部分が離農によるものである。

産業

豊頃町の基幹産業は農業であり、農家戸数が全町の34%を占める。水田は減反政策のため減少してきているが、畑作は馬鈴薯、ビートを主軸に大型化が進んでいる。一方、酪農経営が推進され、牛（乳牛・肉用牛）の飼育頭数は全人口の1.5倍に達する。二宮は、地元の小学校教員、郵便局員、商店主のほかはすべて農家である。水田耕作が多かったが、減反により大部分の農家が酪農と畑作に転向した。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

北海道の方言は、大きく道南地方および沿岸地帯の海岸方言と、それ以外の内陸部農村地域や諸都市などの内陸方言とに二分される。海岸方言は、主として東北地方（特に青森・秋田）の出身者によって形成され、東北方言（特に北奥方言）と共通する特徴がある。内陸方言は、明治以後の全国各地からの移住者たちによって形成され、共通語化が非常に進んだ、同時にまた北海道という地域に根ざした言語状態を呈している。

二宮は、地域的には内陸方言に属する。二宮は福島県相馬地方からの団体入植地で、周辺地域に比べて方言上いくぶん異なる面がある。二宮のことは、相馬弁の特徴を受け継ぎつつ、共通語化が進んできている。北海道移住2世では、まだ相馬弁の特徴が多く観察されるが、3世ではそれが薄くなり、4・5世ではほとんど北海道共通語化している。

以下には、北海道移住2世のことはの特色を挙げる。

音韻

- (1) 母音「イ」と「エ」の混同が若干見られるが、さほどはなはだしくはない。時に語頭の「イ」が「エ」に近くなることがある。仮名で書く時には、「イ」と「エ」をまちがえる人が少なくないようである。
- (2) 連母音の「アイ」「アエ」は、融合して「エァ」[ɛ:] となる。ただし、「エー」[e:] との区別を特に持つわけではなさそうである。

サトゲァーリ（里帰り）

- (3) 「キ」は、時に「チ」に近く聞こえることがある。

- (4) 北東北方言に見られる「クッ」「グッ」のような発音は聞かれない。
- (5) 「シ」と「ス」, 「チ」と「ツ」, 「ジ」と「ズ」は, ほぼ [ʃi] [sü], [tʃi] [tsü], [dʒi] [dzü] であって, それぞれ区別があるが, 時に混同も見られる。
- (6) 「セ」「ゼ」が口蓋化した「シェ」「ジェ」は聞かれない。
- (7) 拗音のウ段音「キュ」「ギユ」「シュ」「ジュ」「チュ」などが時に直音化して「キ」「ギ」「シ」「ジ」「チ」となることがあるが, 多くない。
- (8) 語頭で「ヒ」が「シ」に発音される傾向が著しい。また, 「ソ」が「ホ」と発音されることもある。北東北方言に見られる「ファ」「フィ」「フェ」「フォ」のような発音は聞かれない。

シト (人)

シシモチ (菱餅)

シナ (雛)

シル (昼)

ホノ (その)

ホシテ (そして)

- (9) カ行音・タ行音は, 語頭以外で濁音のガ行音・ダ行音に発音されることがかなり多い。

ダガラ (だから)

ユギ (雪)

カゲデ (掛けて)

イマミダイニ (今みたいに)

モデル (持てる)

ホドント (ほとんど)

- (10) ガ行音は, 語頭では破裂音, 語頭以外では鼻濁音である。

ショ-カツ (正月)

ニンキ-ョー (人形)

- (11) 語頭以外のザ行音・ダ行音・バ行音の前には, 軽い鼻音が添えられることがある。

カンズ (数)

コンドモ（子ども）

オンボエ（覚え）

- (12) ガ行音・ザ行音・ダ行音が清音化することがある。

キョージ（行事）

ハシメ（始め）

トーチ（湯治）

- (13) ラ行音は弱まることが多く、促音・撥音・長音に変化したり、消滅したりする場合がある。

ツクレッケドモ（作れるけれども）

ヤンナイ（やらない）

マーデ（まるで）

イワレガラ（言われるから）

- (14) 撥音「ン」が語頭に現れることがある。

ンマ（馬）

ング（行く）

- (15) 1音節語を長めに発音する傾向がある。

コー（子）

サー（差）

テー（手）

ヒー（日、火）

ホー（穂）

- (16) 福島県相馬地方は、いわゆる一型アクセントの地域であり、二宮にもそれが持ち込まれていて、「箸」と「橋」、「雨」と「飴」などのアクセントを区別していない。

文法

- (1) 敬語はほとんど用いられない。

- (2) いわゆる一段活用動詞の命令形は、「ミロ」（見ろ）、「デロ」（出ろ）など、口語尾である。なお、北海道全域では「ミレ」「デレ」のようなレ語尾が有力である。

- (3) 受身表現には、「レル」「ラレル」のほか「エル」「ラエル」も使う。過去の受身に「ラッチャ」を使う。

イマシメラッチャー（戒められていた）

- (4) 使役表現には「セル」「サセル」のほか「ラセル」も使う。

コシカケラセツカラ（腰かけさせるから）

- (5) 推量表現には「ベ」を使う。意識としては「ベー」でなく、「ベ」であり、「ペ」は使わない。

イマ ヤッテ ナイベ（今 [は] やってないだろう）

トーッテタンダベ（通っていたんだろう）

アリカ°タインダベナー（ありがたいのだろうね）

- (6) 断定表現には「ダ」を使うが、その仮定形は「ダラ」である。

オシエラレテンダラ（教えられているのなら）

- (7) 打消表現には「ナイ」および「ナイ」が音変化した「ネー」「ネ」を使う。時に「ン」が使われることもある。

オセランネー（教えられない）

ツクンネ（作らない）

シラン（知らない）

- (8) 「タ」を過去のほか完了として使う。過去には「タッタ」も使う。

アソコサ イッタッター（あそこへ行っていた）

カンカ°エタッタ（考えていた）

- (9) 主格を示す「が」「は」、対象を示す「を」「が」などは、使われないことが多い。

アメ フッタラ（雨 [が] 降ったら）

オラ ムスメ イル（私 [は] 娘 [が] いる）

ゴハン イレル（ごはん [を] 入れる）

- (10) 方向・場所を示す「サ」の使用が盛んで、その用法の幅が広い。

ムコサ イッタラ（向こうへ行ったら）

ベンジョサ アカリ ツケテ（便所に明かり [を] つけて）

- (11) 逆接確定条件を表す「けれど（も）」は、「ゲント（モ）」のほか、「ケント（モ）」「ケンド（モ）」「ゲンド（モ）」、さらに「ゲンチョモ」「ケッチ

ヨモ」「ゲンニヨモ」など、同じ個人のなかでもさまざまに発音されている。

ユーゲントモ（言うけれども）

モッテキタゲンド（持ってきたけれど）

オレーダケダゲンドモ（お礼だけだけれども）

(12) 「ハー」「ホレ」などを間投詞として多く使う。

キョーダイヨリモ ハー ダイイチバンニ

（兄弟よりも、はあ、第一番に）

イマ ホレ タベナイガラナ（今 [は]、ほら、食べないからね）

（以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。）

北海道中川郡豊頃町1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタダナー↓

よく やったんだなあ。

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//// 「文字」 なんですな。

[]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| A に対して |

[]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「北海道01-1」は CD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「北海道01-1」「北海道01-2」……「北海道01-6/02-1」……「北

海道17-10」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分のトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, 01↑02, ………16↑17, 17↑のように表示される。

第1巻のCD(73分32秒)には、北海道中川郡豊頃町の談話、【年中行事、昔の生活の様子】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラック No.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p. 26・ℓ . 1	p. 31・ℓ . 17	0:02:28
02	p. 31・ℓ . 19	p. 39・ℓ . 3	0:02:34
03	p. 39・ℓ . 5	p. 45・ℓ . 19	0:02:28
04	p. 46・ℓ . 1	p. 48・ℓ . 5	0:00:44
05	p. 48・ℓ . 7	p. 55・ℓ . 9	0:02:26
06	p. 55・ℓ . 11	p. 61・ℓ . 17	0:02:21
07	p. 61・ℓ . 19	p. 68・ℓ . 7	0:02:27
08	p. 68・ℓ . 9	p. 76・ℓ . 15	0:02:35
09	p. 76・ℓ . 17	p. 83・ℓ . 19	0:02:27
10	p. 84・ℓ . 1	p. 86・ℓ . 11	0:00:52
11	p. 86・ℓ . 13	p. 94・ℓ . 17	0:02:45
12	p. 94・ℓ . 19	p. 97・ℓ . 7	0:00:51
13	p. 97・ℓ . 9	p. 105・ℓ . 17	0:02:40
14	p. 106・ℓ . 1	p. 110・ℓ . 11	0:01:29
15	p. 110・ℓ . 13	p. 117・ℓ . 15	0:02:26
16	p. 117・ℓ . 17	p. 125・ℓ . 15	0:02:42
17	p. 125・ℓ . 17	p. 134・ℓ . 15	0:02:51
計			0:37:06

北海道中川郡豊頃町1978談話

収録地点 ほっかいどう と かちしちやうながわぐんとよこちやうししゅべつ
北海道十勝支庁中川郡豊頃町牛首別 (通称・二宮) にのみや

収録日時 1978(昭和53)年10月20日

収録場所 北海道十勝支庁中川郡豊頃町牛首別 二宮生活館

話題 年中行事, 昔の生活の様子

話者

A	男	1907(明治40)年	(収録時71歳)	農業
B	女	1908(明治41)年	(収録時70歳)	商業, 農業
C	女	1912(明治45)年	(収録時66歳)	農業

調査者

男	(収録談話中に発話なし)	大学教員
男	(収録談話中に発話なし)	豊頃町教育委員会社会教育主事

収録時間 (CD) 37分06秒

【年中行事，昔の生活の様子】

話し手

- A 男 1907(明治40)年生 (収録時71歳)
B 女 1908(明治41)年生 (収録時70歳)
C 女 1912(明治45)年生 (収録時66歳)

1 A：トシクレート ユーノワ マー、
歳末と いうのは まあ

↑01

ライネンノ ジュンビ、ダト オモーンダナ？ (C ハイ)
来年の 準備だと 思うんだね。 (C はい)

シー、デ ドンナ テードニ マー、 アンタカ°タ
うん それで どんな 程度に まあ あなたたち[は]

オレノ カンカ°エワ マー、アー イマ ユー トリ
私の 考え[で]は まあ ああ 今 言う とおり

マー、ユキ フル クニナモンダガラー
まあ 雪[が] 降る 国だから

ア ニワノ フユカ°コイガラ デテ ダンダント
ああ 庭の 冬囲いから 始めて だんだんと

ショーカ°ツノ ガンタンニワ ヤスムンダ ト ユー ゴトデ
正月の 元旦には 休むんだ と いう ことで

北海道 01-2

イッショーケンマー、ユギー フル フランワ ベツニ シテモー
一生懸命[に] 雪が 降る 降らないは 別に しても

オソラクー フル トシモ アレバ フラン トシモ アッタワナ？
おそらく 降る 年も あれば 降らない 年も あったよね。

(B ー) (C ー)

(B うん) (C うん)

デ マー、エー オンナトシテノ ソノー、
それで まあ、ええ 女としての その

オショーカ°ツ ムカエンノ ジュンビカ°サー。 ー。
お正月[を] 迎える[ため]の 準備がね。 うん。

2 C：モチツキ ジュンビ、{笑} (A ー マー)
餅つき[の] 準備 {笑} (A うん まあ)

イチバン テマ タイヘン、 (A ー)
いちばん 手間[が] たいへん[だ] (A うん)

イソカ°シーノワ モジツキダナー↓。
忙しいのは 餅つきだね。

3 A：マー モチツキ マエニ ソノー、マー オツネー[1]
まあ 餅つき[の] 前に その まあ 冬中

エー マー タベル ヤサイノ ジュンビ アル。
ええ まあ 食べる 野菜の 準備[が] ある。

北海道 01-3

4 C : アー ヤサイノ ムロ〔2〕イリ〔3〕ナー↓。 ンーン。
ああ 野菜の 室入れね。 うん。

5 A : ンー。 ダガラサー↓ ムカシワ マー、
うん。 だからね 昔は まあ

ムロナンテー ユー ゴトカ° アッテモ イマノヨーナ
室なんて いう ことが あっても 今のような

カンビシタ モノデ ナガッタ ト モーランダ。
完備した もので〔は〕 なかった と 思うんだ。

マー ウチニ チーサナ ムロデ、 ダエンド、
まあ うちに〔あったのは〕 小さな 室× だけど、

イマー〔4〕 カゴイカタモー、 オーキカッタワナ？
まあ 囲い方も 大きかったよね。

タンベル コトカ° オーキカッタガラ↓。
食べる ことが 大きかったから。

6 C : ソーダナ？ ヤサイデモ オー (B ンー)
そうだね 野菜でも うん (B うん)

7 A : ダイコンデモ マー、 イモ〔5〕デモー
大根でも まあ ジャガイモでも

タクサン タベタ ト ユー ゴトデ ンー
たくさん 食べた と いう ことで うん

8 C : コンクリデ ナイカラ
コンクリートで ないから

タダ アナ ホツカラ
ただ 穴[を] 掘るから [=掘っただけだから]

ミズワ ワ ワクシ (A ンー ンー)
水は × 湧くし (A うん うん)

アンマリ ハヤク ムロ イレット (A ンー)
あんまり 早く 室[に] 入れると (A うん)

アメ フツタラ カワミズ デタラ
雨[が] 降ったら 川[の]水[が] 出たら

ムロエモ ハイッテクルシテ (A ンー ンー)
室へも 入ってくるしで (A うん うん)

アケ°タリ イレタリ シタ コトモ アルシ。
[野菜を室から]上げたり 入れたり した ことも あるし。

(A ンー) (B ンー) ンー。
(A うん) (B うん) うん。

イマワ ソンナ ゴト ナイゲドナ?
今は そんな こと[は] ないけどね。

9 A : マ ソレ ヨーイシテ オショーカ°ツー ムカエテー
まあ それ[を] 用意して お正月を 迎えて

オショーカヅツ タノシミデ マー ワレワレワ モー (B アー)
お正月は 楽しみで まあ 私たちは もう (B ああ)

マー イマモッテ オレワ ガンタンマイリ スイルワー↓。
まあ 今もって 私は 元旦参り[を] するよ。

(B ンー ンー) X1 サント オレワ。

(B うん うん) X1 さんと 私は。

10C: ワチラモ ガンタンマイリワ マイトシ ネ?
私たちも 元旦参りは 毎年 ね。

11B: タイテ トシニナ?
たいてい[の] 年にね。

12A: マイネン
毎年

13C: キョネンワ ジッチャン ナグナツタガラ、
去年は おじいさん[=夫][が] 亡くなったから

イカナカッタケド。
行かなかったけど。

14A: ソーユー コトデー オショーカヅツ マダ タノシミダワナ?
そういう ことで お正月は また 楽しみだよね。

(B ンー) マー オボンヨリワ イマノ

(B うん) まあ お盆よりは 今の

15C : ソーダネ? オショーガツ
そうだね。 お正月[は]

16B : ユックリ デキッカラナ?
ゆっくり できるからね。

17A : ユックリ デキルシー、 ナントナク マー、 イチネンノー
ゆっくり できるし、 なんとなく まあ 1年の

ハジマリダ ト ユー キブン ソノモノモ マー (B ンー)
始まりだ と いう 気分 そのものも まあ (B うん)

ヒジョーニ コー ウギウギシタ オショーカ°ツ キブンニ
非常に こう うきうきした お正月 気分[=が]

マーダ ヌケナイ。 ンー。 デ ムカシノヨーニ
まだ 抜けない。 うん。 それで 昔のように

マー、 アー オショーカ°ツノ コーサイカ°ナ?
まあ ああ お正月の 交際がね

コレワ カワッタ ト オモーヨ↓。 ムカシワ ヤッパリー
これは 変わった と 思うよ。 昔は やっぱり

18B : カワッタネー↓。
変わったね。

01↑02

19A : マー、 キョーダイヨリモ ハー[6] ダイイチバンニ
まあ 兄弟よりも はあ 第一番に

北海道 02-2

マ　　ハー　マー　プラグ[7]ノ　ネンシカイ　ヤッテー
まあ　はあ　まあ　集落の　　年始会[を]　やって

マー　オタカ°イ　イタリ　キタリ　シナカッタラ
まあ　お互い[に]　行ったり　来たり　しなかったら

ダメダ　ト　ユー　ゴトデ　ヤットツタガラ。(C　シー)
だめだ　と　いう　ことで　やっていたから。(C　うん)

シー。(B　ヤ)　ゴネンシモノ、
うん。(B　×)　御年始物[は]

イマミダイニ　イッショービンデ　ナカッタエド
今みたいに　1 升瓶で[は]　なかったけど

ムカシ　ナンダッタ、　テヌク°イガ？
昔[は]　なんだった？　手ぬぐいか？

20C：{笑}　テヌク°イ　　ノシサ　ア　ナー↓。
{笑}　手ぬぐい[に]　のしを　ああ　ね。

21A：ゴネンシト　カイテ
「御年始」と　書いて

22C：ノシサ　イレテ　ゴネンシダナンテ↓。
のしを　入れて　「御年始」だなんて。

23A：エー。　ソーシテ、　イッテ　ゴツツォニ　ナッテ
ええ。　そうして　行って　ごちそうに　なって

24B : ヤーッパリ アレカイ? アノ Aサンノ ホーモ
やっぱり あれかい あの Aさんの ほうも

ムカシワ アノ、マワリバンデ? ネ
昔は あの 輪番で ね

アノー ブラクノ シトカ° ズット コー イキ、コトシワ
あの 集落の 人が ずっと こう 行き、今年は

25C : シンネンカイカ?
新年会か?

26B : ンー コトシワ Bデ ヤッタラ ツキ°ワ
うん 今年は B[の家]で やったら 次は

X 2 ッテ ユーヨーニ
X 2 って いうように

27A : ア ムカシナ?
ああ 昔ね。

28C : ムカシ
昔

29B : ムカシワ マワッタンデショ?
昔は 回ったんでしょう?

30A : ウン マワッタノ↓。 イマミタイニ ジョーカイナンテ
うん 回ったんだよ。今みたいに 常会なんて

ジョーカイジョーナンテ ナカッタモノ。(C {笑})
常会場なんて なかったもの。(C {笑})

マー オソラクー ジョーカイジョー デキター ッテ ユーノワ
まあ おそらく 常会場[が] できた と いうのは

マー ワレワレ マー
まあ 私たち[が] まあ

ハンブン コシテガラ[8]ダベ。
[人生の]半分[を] 越してからだろう？

31C : ジョーカイジョー デキテモ ソノー
常会場[が] できて も その

サイショ デキテモ アノー (B ンー)
最初 できて も あの (B うん)

マワリバンデ (B マワリバンデ) ヤッテキタヨナ？
順番で (B 順番で) やってきたよね。

32A : アー ソーダヨ。 ソノー、 オショーカ^ッツナンテ マーデ[9]
ああ そうだよ。 その、 お正月なんて まるで

ムカシノ ジョーカイジョーナント[10] カンタンナ モンダガラ
昔の 常会場など 簡単な ものだから

マー、 タキビー、 ターカナカッタベ アレ。
まあ、 たき火は 焚かなかっただろう？ あれ[は]。

ハジマンノ ジョーカイジョー。

始めの[頃の] 常会場[は]。

ダンダン ストープ ツイテガラ タイテタベ。

だんだん ストープ[が] ついてから 焚いてただろう？

33C：ストープ ツイテカラダベナ？
ストープ[が] ついてからだろうね。

34A：ダー[11] ショーカ°ツナンテ アツバッテ
だから 正月なんて 集まって

ソコデ ノミクイナンテーバ、 ヤランガッタワー↓。

そこで 飲み食いなんていえば やらなかったよ。

ホダガラ モー、 トーバンデー コトシワ Aデ ヤレバー、
だから もう 当番で 今年は Aで やれば

(B ンー) ライネンワ アー Cサンダ ト (B ンー)

(B うん) 来年は ああ Cさんだ と (B うん)

アー、 ソノアトワ Bサンダ ト

ああ、 そのあとは Bさんだ と

トーバンセーデ ウツオ カリテ

当番制で 家を 借りて

35B：マワッテナ？

回ってね。

36A: ヤッテー、 ソシテ コンド マー、 アー ソリヤー
やって、 そして 今度[は] まあ ああ それは

ニンチカイワー ブラクデ ヤンダゲンドモ、
二次会は 集落で やるんだけど、

ヤンドカラ ニセ[12]カ° デルモンダガラー
宿[=当番の家]から ごちそうが 出るものだから

(A ー) ヤンドロク[13]

(A うん) 当番の家の主人[は]

コンド オレエサ コー テ
今度[は] 私の家に 来い と[言って]

コンダ マー、 アルク ワケサナー↓。
今度は まあ [当番の家へ]行く わけよね。

(C {笑}) マズ マー、 シバラク マー

(C {笑}) まず まあ しばらく まあ

37B: ウチラ ナンニモ ナイモンダカラネアー↓
私たち[は] なにも ないものだからね

ソノトキナンカ ドコソコデワ ナニト ナニト ナニー
その時なんか どこそこでは なにと なにと なにを

ゴチソー ダシタ ッテ マー チャント シ
ごちそう[に] 出した って まあ ちゃんと ×

ツケテキテ ソーシテ (A ンー)
つけて [=書きとめて] きて そして (A うん)

アノー ホッ ヤッテ マ アノー トーバン シ、
あの ×× やって まあ あの 当番[が] ×

キタラ カヤサンナンネ ト オモッテ
来たら 返さなくてはならない と 思って

38A: カエサン {笑}
返さなくては[ならない]? {笑}

ソリヤー カタイ [14] カンカ°エデ (B ンー)
それは[なんとも] 固い 考えで (B うん)

39C: パーリ [15] ダカラダナ?
強情張りだからだね。

40B: ヤッタヨ。 (A アー) ンー。
やったよ。 (A ああ) うん。

マワリバンノ トキワ シンパイシテナ?
輪番の 時は 心配してね。

41A: マー ショーカ°ツー、ウーワ シバラク マー
まあ 正月は しばらく まあ

ショーカー°ツ イッパイ ヤットッタガ?
正月 いっぱい やっていたか?

42C : ガンジツワ ドコエモ デーテ
元日は どこへも 出て

43A : ホンデ ナケレバ ネンシカイ
そうで なければ 年始会

44C : エー アルカネ。 フツカー、 (B ンー) カラダッテナ?
ええ 歩かない。 2日 (B うん) からだってね。

45A : イマワー ガンタンニ ネンシカイ、
今は 元旦に 年始会[は]

ブラク ジョーカイジョーデ ヤッテー
集落[の] 常会場で やって

46B : ンー ワカイ シトガ°ナ?
うん 若い 人がね。

47A : ソシテ マー
そして まあ

48B : ウチラー ダイユズリ[16]ニ シタカラ
うちは 代譲りに したから

ワカイ シトシカ イカナイケド。
若い 人しか 行かないけど。

49A : ア、 ハシコ°ー、 ムカシ ハシコ°チュンダ
ああ はしご、 昔 はしごというんだ

マワルツチュー コトワ。(B ンー)
回るといふ ことは。(B うん)

イマー アマリ ヤッテナイヨーダナ?
今は あまり やってないようだな。

02↑03

50C: イマノ ヒトワ ハシゴノミ シナイワ
今の 人は はしご飲み[を] しないよ

(A アー) (B ンー) オショーカーツ。
(A ああ) (B うん) お正月[に]。

51A: ヤー ワレワレノ ドキニワ マー、アー
いや、私たちの 時には まあ、ああ

オヤカカリ[17]ン ドキワ ネンシカイナンター ヤランシー
親がかりの 時は 年始会なんて やらないし

ワカイ トキワ マー カルタトリ[18]ー アルベ。
若い 時は まあ かるた取りが あるだろう?

52C: カルタトリ シタヨー?
かるた取り[は] したな。

53A: シタナ? (C アー) (B ンー) マー オラ
したね。(C ああ) (B うん) まあ 私[は家が]

ガッコムケナモンダガラ ガッコノ センセー チューシンニシテー
学校の向かいなものだから 学校の 先生[を] 中心にして

54B：シタネ？ カルタワ↓。
したね。 かるたは。

55A：カルタトリー。 デ ハナフダツチュノワ
かるた取り。 それで 花札というのは

オッキク ナッテガラダエンド アンマリ コノ
大きく なってからだけれど あんまり この

ノージョー[19]ワー マ ハナフダワ ヤンナイワナ？
[二宮]農場は まあ 花札は やらないよね。

56C：ヤンナイナ？ ココワ ＊＊＊＊＊ ツテ ユーカ ハナフダワ
やらないね。 こは ＊＊＊＊＊ と いうか 花札は。

57A：イマコソ チョイチョイ ヤッテツケドモー ソーユー ソノ
今こそ ちょいちょい やっているけれども そういう その

バクチト ユー コトワ マー イマシメラッチャー
ばくちと いう ことは まあ 戒められていた

シドデ ユタノガー アンマリ フダトカー、
指導で 言ったのか あまり [花]札とか[は]しなかった]。

マー、 ホービキ[20]ナント オボエテルガ？
まあ 宝引きなど 覚えているか？

(C ン?) ホービキ↓。
(C え?) 宝引き[は]。

58C：シラネーナ。 ホービキ。
知らないね。 宝引き[は]。

59B：ワタシワ オンボエテル↓。
私は 覚えている。

60A：オボエテル。(B ン) オラモ アレカ°
覚えている。(B うん) 私も あれが

ソーマ[21]デネー
相馬でね

61B：アノー ミ ミセダッタモンダカラ (A ンー)
あの × 店だったもんだから (A うん)

アノー ショーカ°ツ ミッカカンワ ワカイ シ
あの 正月 3日間は 若い 人たち[が]

ゼンーブ アツマッテキーター、 アノ トショリカ°
全部 集まってきて、 あの 年寄りが

イナイモンダカラ、 チョード イー ネンパイデショ？
いないものだから、 ちょうど いい 年配でしょ？

ダガラ アツマッテキテ、 ソシテ アソンダカラ↓。
だから 集まってきて、 そして 遊んだから。

62C：ドンナ ゴト スンノ ホービキッテ↓。(B ***)
どんな こと[を] するの？ 宝引きって。(B ***)

北海道 03-4

63A：ホービキチューノワ コノ シモサナー↓ (B アー)
宝引きというのは この 紐をね (B ああ)

マー ゴニン イレバナー↓ (B アー) (C ンー)
まあ 5人 いればね (B ああ) (C うん)

ゴホン コシラエテサー↓。 コツツイ オヤー ツイテサー↓
5本 こしらえてね。 こちらに 親が ついてね

アー イッポンサー ナニカ ツキテ ヤンノ↓。
ああ 1本に なにか つけて やるの。

64B：ンダカラネー↓。
だからね。

65A：ホシテ シカケテ アタッタ モノワ ダシタ カネオ
そして ひっかけて 当たった 者は 出した お金を

ミンナ マー、(C アー) モラウ ト ユー
みんな まあ (C ああ) もらう と いう

ホービキ ヤッタモンダナー↓。
宝引き[を] やったもんだね。

66B：ミカン カッテキタリナンカ シテサー↓。(C ンー)
ミカン[を] 買ってきたりなんか してね。(C うん)

67A：ミカンナラ ミカン カケテサー↓。
ミカンなら ミカン[を] 賭けてね。

68B：ショーキ°[22]ニネー↓ ホレガラ ゴモク (A ンー)
将棋にね それから 五目[並べ] (A うん)

カルタ (A ンー) (C ンー) ホービキ (A ンー)
かるた (A うん) (C うん) 宝引き (A うん)

モー アラユル コトオ (A アラ) シテ アソンドノ↓。
もう あらゆる ことを (A あら) して 遊んだの。

69C：ウチラ ホービキナンテ ゼンゼン ＊＊＊＊＊
私は 宝引きなんて 全然 ＊＊＊＊＊

70A：ミセヤダカラ
店屋だから

71B：ンー ミセヤダカラ。
うん 店屋だから。

72A：イヤ オラー ホービキ ＊＊＊＊＊＊
いや 私は 宝引き ＊＊＊＊＊＊

73B：ワカイ シ アツメテ、アツマッテ。(A ンー)
若い 人たちが] ×××× 集まって。(A うん)

ホーシテ ヨルモ ロクニ ネナイデ (A {笑})
そうして 夜も ろくに 寝ないで (A {笑})

マー モチヤキ、ナンテ マー ハー (A ンー)
まあ 餅焼きなんて まあ はあ (A うん)

北海道 03-6

コチトワ ナンモ オモシロクネンダゲッドモ
私は ちっとも おもしろくないんだけど

モチー ヤイテアテカッタリ
餅を 焼いてあげたり

オチャー イレテアテカッタリ {笑}
お茶を 入れてあげたり {笑}

74A: マー カルタワー (B ーン) ガッコーフキンワ ホラ
まあ かるたは (B うん) 学校付近は ほら

ムスメジダイーノ コロマンデ ヤットッタワ↓。
娘時代の 頃まで やっていたよ。

ソシテ ホレ マー コンバンワ ムコサ イッタラ
そして ほら まあ 今晩は 向こうへ 行ったら

オラドリ キテ ホンデ サイコニ
[今度は]私のほうへ 来て そして 最後に

モチナント ヤイテ ゴツツオシテ カエシタモンダ↓。
餅など[を] 焼いて ごちそうして 帰らせたものだ。

75C: マワリバンデナ?
輪番でね。

76A: ーン、マワリバンデ↓。 ソリャー マー ダイブ
うん、輪番で。 それは まあ だいぶん

北海道 03-7

ナカ°イ ヤッタナー↓。 オラ ムスメ イル
長い[間] やったね。 私[は] 娘[が] いる[けれど]

ムスメタチ ミンナ カルタ ヤッタガラ↓。
娘たち[が] みんな かるた[を] やったから。

ガッコノ センセーガ°タ ソーダッタガンナ? トクニ
学校の 先生方[が] そうだったからね 特に。

77C: ソーダ ガッコ チカイカラナ?
そうだ 学校[が] 近いからね。

78B: ソーデショナ?
そうでしょうね

79A: マー モーレツニ ヤッタモンダッタ? アー。
まあ 猛烈に やったものだった。 ああ。

マ ソーユー ゴトカ° ショーカ°ツノ マー
まあ そういう ことが 正月の まあ

タノシミワー アッタゲンドモ イマワ マー トテモ マー、
楽しみは あったけれども 今は まあ とても まあ

デギランネーガラダナ?
できないからだね。

80B: イマワ、 イマワ ドノテード マー ウチ
今は、 今は どの程度 まあ うち

03↑

81A：コーサイガ？ (C ンーン)

交際か？ (C うん)

↑04

ショーカ°ツノ ゴネンシノ イキキカ？

正月の 御年始の 行き来か？

82B：ンー イキキワ↓

うん 行き来は？

83A：ブラクノ イキキ アンマリ シナイヨーダナ？

集落の 行き来[は] あんまり しないようだね。

(B シナイ)

(B しない)

84C：ムカシト チカ°ッテ イマー ホントニ オヤコク°ライデモー

昔と 違って 今は 本当に 親子[の間]くらいでも

ソー シナク ナッタヨナ？ (B ンー)

そう しなく なったよね。 (B うん)

ムカシノヨーニ ハンデニワ。

昔のように 派手には。

85A：シテナイネ。 ンーン。

してないね。 うん。

86B：シナイネ？

しないね。

87A : イマノ ツキアイワ マ キョーダイ↓
今の 付き合いは まあ 兄弟

(B ンー) (C ンー) オヤコ、キョーダイー、カ°
(B うん) (C うん) 親子 兄弟が

イチバン マー。
いちばん まあ。

88B : ンーン ソンナヨダネ？
うん そんなようだね。

89A : インデ ソレモー マー ショーカ°ツク°ライワ マー
それで それも まあ 正月くらいは まあ

キョーダイワ ダイタイ ヤッテルナ？ (B ンー)
兄弟は だいたい やっているね。 (B うん)

オヤオ チューシンニシテ↓ (C アー) キテー
親を 中心にして (C うん) 来て

ソシテ イッター キタリ コー シテルヨダゲンドモ
そして 行ったり 来たり こう しているようだけれども

イトコ ハトコナンテ (B ン、 シナイワ)
いとこ はとこなんて (B うん しないよ)

ユー ゴトマデワ イッテナイナ？ (B ンー) アー。
いう ことまでは いってないな。 (B うん) ああ。

90C：ムカシワ カタカッタンダヨナ？ (A ンー)

昔は [礼儀が]固かったんだよね。(A うん)

(B ソーダネー。 ンー) {笑} オッキク ハンデニ。

(B そうだね。 うん) {笑} 大きく 派手に。

ムカシノ ヒトワ ソーユー コトワ カタイ。

昔の 人は そういう ことは 固い。

04↑

— 中 略 —

91B：ジューヨッカ ン ナッタラ

14日に なったら

↑05

アノ イナボツキ[23]ナンカワ シナガッタ？

あの 稲穂つけなんかは しなかった？

92C：シタヨ？ (A ンー) (B {笑}) {笑}

したよ。(A うん) (B {笑}) {笑}

93B：イマワ シナイ。

今は しない。

94A：ンー、マー アレ、アレワ

うん、まあ あれ、あれは

コショーガツト ユー ゴトダカラ↓。

小正月と いう ことだから。

北海道 05-2

ジューヨッカニワー マー ショーカ°ツノ モチワ
14日には まあ 正月の 餅は

オソラク コノー ノーノハジメ〔24〕ッテ マー
おそらく この 農の始めって まあ

ジューイチンチコロー サケ°チマウガラ。 (C ンー ソーダ)
11日頃〔に〕 さげてしまうから。 (C うん そうだ)

ソステー コショーカ°ツト ユー ゴトデ マタ
そして 小正月と いう ことで また

モチオ ツイター イナボー ツケター ソシテ マー
餅を ついて 稲穂を つけて そして まあ

ウチャー コトシノ ホーサクイワイダ ト ユー ゴトデー
うちの 今年の 豊作祝いだ と いう ことで

トラブツ〔25〕 サケ°テ ソシテ ジューゴ ジューロクト
俵物〔を〕 さげて そして 15〔日〕 16〔日〕と

ユーノカ° コンド マー (C オゼン)
いうのが 今度 まあ (C お膳)

ムカシーワ アノー カセドリ〔26〕ト ユー イミワサー
昔は あの カセドリと いう 意味はね

ソノー コドモノ デキナイー ウチサー
その 子どもの できない 家に

北海道 05-3

ナンチューノカ ソノー、 マー ニンキ° ヨーダカ ナガ
なんというのか その まあ 人形だか なにか[を]

コシラエテー マー オイワイニ ダシテー
作って まあ お祝いに 出して

モノオ モライサ アルッタヨンダナ？
ものを もらいに 歩いたようだな。

95C：ウチラモ コドモン トキ (A アルツカ？)
私たちも 子どもの 時[に] (A [もらいに]歩いたか？)

(B アー) カセンドリ アルツカヨ？ (A アツカカナ？)
(B ああ) カセドリ[に] 回ったよ。 (A あったかな？)

ハナ ナラシテ。 {笑}
鼻[を] 鳴らして。 {笑}

96A：ト、 ドンナ イロ[27]デ ンー
すると どんな 意味で うん

デ ドンナ イロデ アルツカ チュー ゴト、
それで どんな 意味で 回ったか という こと[は]

ソーユー ゴトダツタラシー。
そういう ことだったらしい。

97C：ドンナ イミダモ シラナイデ
どんな 意味だ[ということ]も 知らないで

北海道 05-4

コドモン トキダカラ {笑} オカネ モラウノ。
子どもの 時だから {笑} お金[を] もらうの。

98B：ヤクナカ°シッテ ユー イミデ ナカッタノ。
厄流しと いう 意味で[は] なかったの？

ソーデモ ナイノ。
そうでも ないの？

99A：や、 ヤクナカ°シデ ナイナ。オレノ キータノワ
いや 厄流しで[は] ないね。私の 聞いたのは

ソーユー ゴトトー ソレガラ ソノー
そういう ことと それから その

100B：ハシメタ コロワ
始めた 頃は

101A：アカンボーカ° デキルエータ アルツタモンダ。
赤ん坊が できるように 回ったものだ。

102C：ダッテ アレ センリョーカブナンテ カミニ カイテー
だって あれ 「千両株」なんて 紙に 書いて

(A ンー カイテ) (B アー) ハンジョースルヨーニ
(A うん 書いて) (B ああ) 繁盛するように

(A ンー) コー ナンカ (B ンー) ナー↓。
(A うん) こう なんか (B うん) ねえ。

103 A : マー オラモ アノ カセドリ ハナ ナラスイッテ
 まあ 私も あの カセドリ[には] 鼻[を] 鳴らして

モチ モライサ アルッタモンダワ↓。
 餅[を] もらいに 回ったものだよ。

ダー イマ ゼンゼン ナイ。
 だが 今[は] 全然 ない。

104 C : オカネ クレル ウチモ アルシ
 お金[を] くれる 家も あるし

105 A : オカネ クレル アルッシサネー↓。(C ー)
 お金[を] くれる [家も]あるしね。(C うん)

アソコワ ヨカッタナンテ (C ー) ナー
 あそこは よかったなんて (C うん) ねえ

アルッタモンダヨ↓。
 回ったものだよ。

106 C : タノシミニ シテナー↓ (A ー) ナンケ^ンモ アルッテ↓。
 楽しみに してね (A うん) 何軒も 回って。

107 A : ソーユーノカ^カ マー ジューヨッカ、 マー コシヨーカ^ツツト
 そうというのが まあ 14日、 まあ 小正月と

(B ー) ユー ゴトーダッタ。
 (B うん) いう ことだった。

デ ソノー アー アトニ ショーカ°ツ
それで その ああ あとに 正月[には]

ナニカ オモシロイノ アツカ、 Cサン。
なにか おもしろいの[が] あったかい? Cさん。

108B: ソー、 ネー↓。
そう[だ] ねえ。

109C: イナカタガラ ホンナニ ナー↓。
田舎だから そんなに[はない] なあ。

(B ソー ナイ、ネー↓) カセンドリク°ライデ ナイノ
(B うん ないね) カセドリくらいで[は] ないの?

コショーカ°ツニ スル ッタラナ?
小正月に する[こと] といったらね。

110B: ソーダネ? (C ソー)
そうだね。 (C うん)

111A: マー ソノ コショーカ°ツト ユー コトカ° マー
まあ その 小正月と いう ことが まあ

(B ソーユー) ワレワレワー イマワ ゼンゼン ホノ
(B そういう) 私たちは 今は 全然 その

コショーカ°ツノ コノジモ カンカ°エテイナンドヨナ?
小正月の 「小」の字も 考えていないんだよね。

112C : シーン ホントダ。(A シー) ダッテ オシヨ アノ
うん 本当だ。(A うん) だって ××× あの

コシヨーカ°ツニアー ジューヨッカノ バンニ チャント
小正月には 14日の 晩に ちゃんと

カミサマニ オゼン スエテアケ°ンノ? Bサンナンカ。
神様に お膳[を] すえてあげるの? Bさんなんか。

113B : ウチワ アケ°ナイ。
うちは あげない。

114C : アケ°ナイ。
あげない?

115B : シー。(C シー)
うん。(C うん)

116A : マ モトワ ヤッタゲンドモ イマワ ゼンゼン
まあ もとは やったけれども 今は 全然

117B : イマ モー ハー クズ
今[は] もう はあ くず[れて]

118A : カンカ°エテナイヨード。
考えていないようだよ。

119B : アー ソーユー ホノ ムカシノ シキタリッテ ユー コトワ
ああ そういう その 昔の しきたりと いう ことは

ゼンゼン

全然

120 C : ヤメタノガ。

やめたのか？

121 B : ヤメタ ツチューモノ、 ワタシ ダイカラ

やめた っていうもの、 私[の] 代から

シ シャ (C ー) アマリ フカク

× ×× (C うん) あまり 深く

シラナカッタモンダカラ モー。 {笑}

知らなかったものだから もう。 {笑}

05↑06

122 A : トーダ、 アー モドルゲンドモ

どうだ、 ああ [話が]戻るけれども

トシトリニサー？ (C ー) マー カタイ ウチワ

年取りにね (C うん) まあ 固い 家は

モー チャント オゼンオ ツケテサー↓

もう ちゃんと お膳を つけてね

マー アー ナンチュカ ムカシノー (C ー)

まあ ああ なのというか 昔の (C うん)

マー ゴイッシキー イマ ヤッテツカイ？

まあ ゴイッシキを 今 やっているかい。

ムカシ ヤットンダ****。

昔 やったんだ****。

123 C : ウチンデ ヤルヨ。 カミサマニ チャント
うちで[は] やるよ。 神様に ちゃんと

オゼン ソエテ オカネモ アケ[°]テー オマイリスル?
お膳[を] 供えて お金も あげて お参りする。

124 B : ンー ソレワ ヤルネ? (C ンー)
うん それは やるね。 (C うん)

125 A : ンー ソレワ マー、 マー、 アル カネ アケ[°]テー
うん それは まあ まあ ある お金[を] あげて

(C ****) アー オレーダケダゲンドモ

(C ****) ああ お礼だけだけれども

(C アー オゼン) カゾクノ トシトリニサー (C ンー)

(C ああ お膳) 家族の 年取りにね (C うん)

ムカシワ チャント オゼン コシラエテサー (C ンー)

昔は ちゃんと お膳[を] こしらえてね (C うん)

ワレワレ ヤラセテモラッタンダ?

私たち[は] やらせてもらったんだ。

126 B : オゼン **

お膳 **

127 C : オゼンワ カミサマニダケデ アト テーブルダカラ。
お膳は 神様にだけで あと[は] テーブルだから。

(A テーブル) ムカシワ オゼンダカラ

(A テーブル) 昔は お膳だから

オゼン ソエタゲット (A ンー ンー ンー ンー ンー)
お膳[を] 供えたけれど (A うん うん うん うん うん)

イマ テーブルダガラ ゴチソー タクサン
今[は] テーブルだから ごちそう[を] たくさん

ナラベテ {笑} オミキ イタダイテ {笑}
並べて {笑} お神酒[を] いただいて {笑}

128 B : ソンダネ? (C ンー)
そうだね。 (C うん)

129 A : シテ オトソーナンター、サケデ ヤンノカ?
そして お屠蘇なんて 酒で やるのか?

130 C : オトソーダナンテ {笑}
お屠蘇だなんて {笑}

カミサマノ オミキ ダシタ オノコリ {笑}
神様の お神酒[を] 出した お残り {笑}

131 A : オトソ シテー↓
お屠蘇[を] して

北海道 06-4

132C : アー。(A アー ソーカ) ソシテ ミンナシテ
ああ。(A ああ そうか) そして みんなで

133B : オミキオ アケ°テモ サカ°ッテモ ウチデ
お神酒を 上げても 下がっても うちで[は]

カタズケッ コト デキネンダヨ
片付ける こと[が] できないんだよ

ノマナクテ↓。 {笑}
[だれも]飲まなくて。 {笑}

134C : アー ノム シト イナイカラー↓。
ああ 飲む 人[が] いないから。

135A : ***サセラレテダナ?
***させられてだね。

136B : オミキ スル コノク°ライノ ニホン (C ンー)
お神酒[に] する このくらいの[を] 2本 (C うん)

アケ°ンデショー? (C アン)
あげるでしょう? (C ××)

ソシタラ ツキ°ノ アサ ア コンド サケ°タッテ
そしたら 次の 朝 × 今度 下げたって

ソイツオ カ カタズカネンダヨ。
そいつが × 片付かないんだよ。

137 A : ムカシ ダエド オサケ アカ°ラヌ カミワ ナシ ト、
昔[は] だけど 「お酒 上がらぬ 神は なし」 と[言って]

アケ°ルダケデワ ダメナンダヨ、 カミワ コレ。 {笑}
上げるだけでは だめなんだよ、 神は これ。 {笑}

(B {笑})

(B {笑})

138 C : ウチラ オミキ アケ°タラ ミン°ナシテ アノ
うちは お神酒[を] 上げたら みんなで あの

マワシテ イタダグンダ? {笑}
回して いただくんだ。 {笑}

139 A : マー ン°、 オショ°カ°ツ スキ°タラ
まあ うん お正月[が] 過ぎたら

アー、 セツブンワ° ムカシワ マー、
ああ 節分は 昔は まあ

Cサンケ°ー ド° ヤッタッタ?
Cさんの家は どう やっていた?

140 C : セツブン、 マメ イッテ マメマキ。
節分[には] 豆[を] 炒って 豆まき[をした]。

141 A : ン° マ ソレワ イ°ゲンドモ° オラン トキワ マダ
うん まあ それは いいけれども 私の 時は また

北海道 06-6

イッポ ススンダ ヤリガタ アッタワー↓。(C ンーン)
一歩 進んだ やり方[が] あったよ。(C うん)

マー、 アノ ニボスィオ (C ンー)
まあ あの 煮干を (C うん)

マー ハサンデ ヤイテ (C ンー)
まあ はさんで 焼いて (C うん)

トンプク°チ[28] コー サシタリ (C アー)
戸口[に] こう 刺したり (C ああ)

シテーガラ マー マメ マク マエニ
そうしてから まあ 豆[を] まく 前に

コンド テンキヨホートカナンテ コノー (C {笑})
今度 天気予報とかなんて この (C {笑})

マー ロバタエ ナラベテ
まあ 炉端へ 並べて

142C : ホントダ。(B ンー ンー)
本当だ。(B うん うん)

143A : アルベ?
あるだろう?

144C : ンー。 マックログ ナツタリ ハンコケ°ニ ナツタリ。
うん。 真っ黒く なったり 半焦げに なったり。

145 A : シー コリヤー アー コリヤー イチカ°ツ ニカ°ツ ツキデ
うん これは ああ これは 1 月 2 月[の] 月で

コリヤー マー テンキ イートカ (C シー)
これは まあ 天気[が] いいとか (C うん)

テンキヨホーオ オ ヤッタモンダ コノ セツブンニ↓。
天気予報を × やったものだ この 節分に。

(C ソーダ) ソージュ- [29] オンボエワ
(C そうだ) そういう 覚えは

オレワ ジッチャン ヤンノオ ミテテ (B アー)
私は おじいさん[が] やるのを 見ていて (B ああ)

(C シタゲドー) キオク アルワケサ↓。
(C したけど) 記憶[が] あるわけよ。

146 C : ワチラー ホンナ ニボシーナンテ ユー ゴトワ
私たちは そんな 煮干なんて いう ことは

オヤモ シテ シナイカラ シラナイワナ?
親も ×× しなから 知らないよね。

(A アー アー ソーカ)
(A ああ ああ そうか)

06↑07

147 B : ワタシワ ミタヨ、 オボエ アルヨ?
私は 見たよ、 覚え[が] あるよ。

148C : ゼンゼン シラナイ↓。
全然 知らない。

149B : チーサイ * * * * ?
小さい * * * *

150A : コリヤー マー セツブンチューノワ モー ドコデモ マメマキワ
これは まあ 節分というのは もう どこでも 豆まきは

151C : ンー マメマクワ * * * * *
うん 豆まきは * * * * *

152A : マー ジョーセ イマモッテ コリヤー モー マコマデ
まあ / / / / 今もって これは もう 孫まで

オラモ ヤラセッテッケンドモー マー ソーユー
私も やらせているけれども まあ そういう

ナンダカ ソノー ニボスィー ロバタニ アノ ヤイテ
なんだか その 煮干を 炉端に あの 焼いて

ドブクチ (B ンー) マヨケタナンテ シタリ
戸口[に] (B うん) 魔除けだなんて したり

テンキヨホーニ マメオ ナラベテアツタリ
天気予報に 豆を 並べてあったり

153B : ソーユーノワー シナク ナツタンデ ネーノ。
そういうのは しなく なったので[は] ないの。

- 154 A : ソーユー ゴトワ ヤメタ。(B ンー) (C シナイ)
そういう ことは やめた。(B うん) (C しない)

マー オラワ イヤ、オラニ ナッテガラ
まあ 私は いや 私[の代]に なってから

ヤッタ ゴト ナイモン、ソレワナ? (B ンー ンー)
やった こと[が] ないもの それはね。(B うん うん)

- 155 C : ダッテ マメー、ダケワ マグベサ↓。
だって 豆だけは まくだろう?

- 156 A : マグ。(C ンー) コリヤー モー マメー マー アルスイ
まく。(C うん) これは もう 豆は まあ あるし

- 157 C : イマワー
今は

- 158 A : イッショーマスサ イレテー (C {笑}) (B ンー)
1 升分に 入れて (C {笑}) (B うん)

マー ア、イビス ダイコク フグノカミ、ウチワー
まあ ああ「恵比寿 大黒 福の神、内は」

アー ナニ オニワ ソトー フクワ ウチー ッテ
ああ なに「鬼は 外 福は 内」と[言って]

コリヤー モー ハー ンマヤガラ ゼンブ ソーコガラ ゼンブ
これは もう はあ 馬屋から 全部 倉庫から 全部

マイテ ヤル。 ワタシデ ***

まいて やる。 私で ***

- 159 C : アノ ジブンデ ツクッタ マメデ スルカ? (A ンダー)
あの 自分で 作った 豆で するか? (A そうだ)

カッテ スルカ。 {笑}

買って するか。 {笑}

- 160 A : イヤー マー スコーシ カッタ ヤツオ
いや まあ 少し 買った やつを

- 161 B : ヤルヨネー↓。
やるよね。

- 162 A : マイテサー、 アトワ マメオ
まいてね、 あとは 豆を

ンマヤダニカ マケナイカラー↓。 (C エー)

馬屋にしか まけないから。 (C ええ)

ソーユー ゴトデ ンマヤモ ナヤモ ゼンブ ヤル。

そういう ことで 馬屋も 納屋も 全部 やる。

- 163 C : ヤル、ナー↓。 (A ンー ソレワ マーダ)
やるなあ。 (A うん それは まだ)

ソレワ ヤルゲンドモ イマダラ モー {笑} (A へ)

それは やるけれども 今だと もう {笑} (A ええ)

ウチデ トッタ マメナント (A アー)

うちで とった 豆など (A ああ)

ホントノ スコシデ カッタ マメ。 アト ヒラッテ
本当の 少しで 買った 豆。 あと[で] 拾って

マコ[°]タチ タベルモンダガラ カッタ マメノ {笑}
孫たち[が] 食べるものだから 買った 豆の {笑}

164 A : アー。 ソシテー (B ーン) マンダ トシノ カズダケ
ああ。 そして (B うん) また 年の 数だけ

シャーモンダト
拾うものだと

165 C : ンーン トシノ カズダケ ヒラッテ タベンダトカ ナントカ
うん 年の 数だけ 拾って 食べるんだとか なんとか

166 A : *** ユッテー ショーッテルヨーダ アー。
*** 言って 拾っているようだ ああ。

ソレワ マダ マー ムカシガラノ シキタリガ[°]
それは まだ まあ 昔からの しきたりが

マ ゼンコクテキニ ヤッテルヨーダガラ
まあ 全国的に やっているようだから

テレビデモ ユッテッカラナ?
テレビでも 言っているからね。

167 C : シー マコ°タチモナー↓。(B シー)
うん 孫たちもね。(B うん)

168 A : コリヤー モー ナグナラン ト オモー。シー (B **)
これは もう なくならない と 思う。 うん (B **)

セツブンニ マーダ ナニカ ヤッテル イ キョージ
節分に まだ なにか やっている × 行事[は]

Bサンノ ナイガナー↓。
Bさんの[家では] ないかね。

169 B : ナイネー↓。 ウチモ マメマキク°ライノ モンダネ？
ないね。 うちも 豆まきくらいの もんだね。

(C シー)
(C うん)

170 A : セツブンワ (B シーン) シーン。
節分は (B うん) うん。

171 C : タイカ°イ ソンデ ナイカ、セツブンダラナー↓。
たいがい そうで[は] ないか、節分だとね。

(A シー) オヤノ カタイ ウチデ オヤニ チャント
(A うん) 親の 固い 家で 親に ちゃんと

オシエラレテンダラ ダッテ {笑} (A シー)
教えられているのなら、だって {笑} (A うん)

北海道 07-7

カンタンニ オシエラレタラ ソノトーリ コンドモニ マゴニ
簡単に 教えられたら そのとおり 子どもに 孫に

{笑} (B ンー) ツタ ツタワルダケンデ (B ンー)

{笑} (B うん) ×× 伝わるだけで (B うん)

172A : デ マー、セツブン スキ°タラ オラー モー ハー、
それで まあ、節分[を] 過ぎたら 私は もう はあ

イマダラ モー、バーチャント フタンデ
今だと もう おばあさん[=妻]と 二人で

オンセンノ トーチ イグンダ。
温泉の 湯治[に] 行くんだ。

Cサンラワ オソイカ ハヤイカダゲンドモ (C ***)
Cさんたちは 遅いか 早いかなけれども (C ***)

ミンナ イッテルワナ? (C ンー) アー。シッテ ソノ
みんな 行ってるよね。 (C うん) ああ。そして その

173C : ハルニ ナッタラナ?
春に なったらね。

174A : ハルニ ナッタラ
春に なったら

175C : マイトシ オンセン
毎年 温泉

176 A : ココワ モー ホトント コレー、ソーユー シキタリニ
ここは もう ほとんど これは そういう しきたりに

ナッタヨナモンダナ? マー トショリヤー
なったようなものだね。 まあ 年寄り

モー ハー アー ウチニ イナイデ イッテ マー
もう はあ ああ うちに いないで 行って まあ

トージモ ヤツテクルガー ト ユーノワ モー ダイタイ
湯治も やってくるか と いうのは もう だいたい

07↑08

177 B : シー。
うん。

178 C : ソーダナ?
そうだね。

179 A : トッショリー、バガリデ ナクー ワカイ シトタチモ
年寄りばかりで[は] なく 若い 人たちも

ソーユー ケーコーニ ナッキタヨーダ。
そういう 傾向に なってきたようだ。

ソレタケ マー ユーチャーニ ナツタノカ
それだけ まあ 悠長に なったのか

マター ケンコーオ ホジシテンノガナ?
また 健康を 保持[しようと]してるのかね。

180 C : デモー オンセンナンカ ゼンゼン イッタ コト ナイ
でも 温泉なんか 全然 行った こと[が] ない

ッテ ユー ヒトモ アルガラナー↓。
と いう 人も あるからね。

オンセントーチャー、ワナ？
温泉湯治はね。

181 A : アル。 ンー モー *****
ある。 うん もう *****

182 C : イグ シトワ マイトシー {笑}
行く 人は 毎年 {笑}

183 A : マー イマノ ホノー コーケツアツショーノ シトワ
まあ 今の その 高血圧症の 人は

モー、 マー
もう まあ

184 B : ウチワ オンセン イッタ トギ ナイヨ？
うちは 温泉[に] 行った 時[=こと][が] ないよ。

185 C : ナイノ？
ないの？

186 B : ンー。
うん。

187A : ウソ カタンナー。(B ダッテ {笑})
うそ[を] 言うな。(B だって {笑})

キョネン アノー、アソコサ イッタッター? (B {笑})
去年 あの、あそこへ 行っていた。(B {笑})

アレ オカ°タ[30]サー。{笑}
あれ おがたへ。{笑}

ジッチャント フタリデ イッテタド?
おじいさん[=Bの夫]と 二人で 行ってたぞ。

188B : チョットダモノ↓。{笑}
ちょっとだもの。{笑}

189A : チョット アレダッテ トージノ ウチニ ハイנדアド。
ちょっと あれだって 湯治の うちに 入るんだぞ。

190B : アー ソーカ。
ああ そうか。

191C : サンシューカンク°ライズツ トージモ イクシナ?
3週間くらいずつ 湯治も 行くしね。

192A : アー アー。マー ソーステ オセックー、ワ
ああ ああ。まあ そうして お節句は

マダ コレモ ムカシト ツカ°ッテ ツカ°ウワナ?
また これも 昔と 違って 違うよね。

193 C : チカ[°]ウナ?

違うね。

194 A : ムカシ セックワ ドーユー ゴド シテタ。

昔[は] 節句は どういう こと[を] していた?

ヨメニ キタラ ドンナ。 ヤッパリ ケ

嫁に 来たら どんな? やっぱり ×

195 C : チャント オモチー (B アー)

ちゃんと お餅を (B ああ)

シシモチナンカー アレ シテモラッテ (A ンー)

菱餅なんかを あれ してもらって (A うん)

ワチラ ウチー モッテッタモンダ。 (A ンー)

私たち[は] 実家へ 持っていったものだ。 (A うん)

ジューパコ イレテ。 フタ シテ

重箱[に] 入れて。 ふた[を] して

196 A : サトガューリト セックニ カナラズダカラナ?

里帰りと[いえば] 節句に 必ずだからね。

197 C : ンー ヤラセラレテ↓。

うん やらせられて。

198 A : マー オソラク シシモチオ ツイテー

まあ おそらく 菱餅を ついて

ワレワレ ジダイニワ マー、アー
私たち[の] 時代には まあ

ヨメワ サトエ イッテコイ ト ユーク[°]ライ、
嫁は 里へ 行ってこい と 言うくらい[のことで]

イマ ヤッテナイベ、 コレ。
今[は] やってないだろう？ これ[は]。

199C：イマ シナイワ↓。
今[は] しないよ。

200B：イマワ イマワ ヤンナイネ？
今は 今は やらないね。

201C：ヤンナイ。 イグ キモ ナイシ↓。 {笑} (B ンー)
やらない。 行く 気も ないし。 {笑} (B うん)

202A：ンナ ワレワレ ジダイニ アッタゲンドモ
それなら 私たち[の] 時代に あったけれども

イマノ シトタチワ ヤッテナイ ト↓。
今の 人たちは やってない と[いうことだね]。

203C：アー ヤッテナイナ？
ああ やってないね。

204A：ンー。 ソーユー マー、 ジダイニ ナッタワナ？
うん。 そういう まあ 時代に なったよね。

コノ セックト ***

この 節句と ***

205 C : モーッテワ イガナイゲドー ゴチソーワ ツクルベサナ？
持っては 行かないけど ごちそうは 作るよね。

(A ー)

(A うん)

206 B : ー。 タベル プンワネ？
うん。 食べる 分はね。

207 C : *** ウチデー。
*** うちで。

208 A : セックワ マー タベル モノワ セックド ユー カド[31]ワナ？
節句は まあ 食べる ものは 節句と いう 節目はね。

(B ー) サンカ°ツセックデモー マー、 ホレカラ

(B うん) 3月[の]節句でも まあ それから

ゴカ°ツセックデモー イマワ コドモノ タメニ (C ソーダ)

5月[の]節句でも 今は 子どもの ために (C そうだ)

イッショーケンメー ベツナ カグドデ (C アルカラ)

一生懸命 別な 角度で (C あるから)

マー、 ヤッテルヨーダワ。 サンカ°ツワ シナ、
まあ やっているようだよ。 3月は ひな[を]

マー マー、 オシナサン カザッテ。
まあ まあ おひな様[を] 飾って。

コリヤ マター コドモン タメニー
これは また 子どもの ために。

ヨメ サトゲアーリ マーダ マー
嫁[の] 里帰り[は] また まあ

209C：イマノー ア
今の ×

210A：ナッテー ト モー。
なっている と 思う。

211C：コドモノヒ
子どもの日

212A：ゴカ°ツセックワ アマリ ヤランナー↓。
5月[の]節句は あまり やらないな。

213C：コンドモノヒー、ニ ヤルシナ？ (A エ？ ンー) ンー。
子どもの日に やるしね。 (A え？ うん) うん。

ゴカ°ツセックワ オトコノーコーデモ (A ンー)
5月[の]節句は 男の子でも (A うん)

イル ウチダラナ？
いる うちだとね。

- 214 A : ノボリー タテルク°ライデ ベツダンニー (B **)
のほりを 立てるくらいで 別段に (B **)

ムカシミタイニ ハナショープ ショープ サケ°テー
昔みたいに 花菖蒲 菖蒲[を] さげて

- 215 C : * * * * *
* * * * *

- 216 A : ホテー マー ショープザケ ノムナンチュ ゴトワー
そして まあ 菖蒲酒[を] 飲むなんていう ことは

オラワ マー (C シナイ) トッテアッタゲンドモ (C ナ)
私は まあ (C しない) とってあったけれども (C なあ)

シナグ ナッタナ?
しなく なったな。

- 217 B : ナイネ? ウン ソーシタ コトワ ナイネ。
ないね。 うん。 そうした ことは ないね。

- 218 A : コレ ムカシワ カタガッタド コレワー
これ[は] 昔は 固かったぞ これは。

- 219 C : イーマ カンタン、ダナ? イマダラ {笑}
今[は] 簡単だね。 今だと {笑}

カンタンニ ナッタ。
簡単に なった。

220 B : ムカシワ タンジョービワ ナガッタゲドモ
昔は 誕生日は なかったけれども

イマワ タンジョービワ カタク ヤンデ ナイ？
今は 誕生日は 固く やるので[は] ない？

(C ソーダ)

(C そうだ)

221 A : ンー。 ホンダガラ ソーユー ゴト ヤメテ
うん。 だから そういう こと[は] やめて

タンジョーイワイダケー (B ンー)

誕生祝いだけ (B うん)

222 C : タンジョー、ダナ？ ンー。

誕生[祝い]だね。 うん。

223 A : カワッテキタンデ ナイカナ？ (B ンー) ンーン。

変わってきたので[は] ないかな。 (B うん) うん。

(C カワッテキター)

(C 変わってきた)

08↑09

224 B : ヤッパリ アノー オツキミニ ナツタラ
やっぱり あの お月見に なったら

ダンゴ°オ アケ°テ (C ンー) (A ンーン)

だんごを あげて (C うん) (A うん)

北海道 09-2

シー カヤノ ホー、ナンカオ トッテ スツカリ ホノー
うん カヤの 穂などを とって すっかり その

(A シー) カザッテ (A シー) マー オツキサマノ
(A うん) 飾って (A うん) まあ お月様の

ミール トコサ ダンオ ツクッテ (A シー)
見える ところに 壇を 作って (A うん)

ソシテ ソ、 アケ[°]タモンダッタ (A シーン)
そして × あげたものだった (A うん)

ムカシワネ? ソシテ
昔はね。 そして

225 A : イヤ オツキミチュー ゴトーモ キートッタゲンドモー
いや お月見という ことも 聞いていたけれども

ソノ マー カザル ト ユー ゴトワ オラトコノ オヤダジモ
その まあ 飾る と いう ことは 私の家の 親たちも

(B シナイナ?) マー ヤッタツタカ
(B しないな) まあ やっていたか

マー キオク ナイゲンドモサ (B シー)
まあ 記憶[が] ないけれどもね (B うん)

タダ オレ キータ コトワナ?
ただ 私[は] 聞いた ことはね

北海道 09-3

ハチカ°ッ ジューゴンチニ ナッたら
8月 15日に なったら

マー スイガデモ (B *****)
まあ スイカでも (B *****)

ウリデモ デキル コロモンダカラー (B・C {笑})
瓜でも できる 頃[だ]ものだから (B・C {笑})

ヌスンデモー、アー ナンチュー イワレタカイ。
盗んでも、 ああ なんと 言われたかい？

226 C : ドロボー ッテ ヤンネー チュタモンナー↓
泥棒 って 言われない と言ったものね

(A ンー) ヌスンデモ。

(A うん) 盗んでも。

227 A : ナニカ ヘンカ ケァセバ[32] ソノー (B・C {笑})
なにか 返事[を] すれば その (B・C {笑})

マー エーンダ チュー ゴトデ オレー
まあ いいんだ という ことで 私は

228 B : アー ソンナ ハナシモ アッタワネ？
ああ そんな 話も あったよね。

229 A : ヌスンダ ゴト アッタワイ↓。(B ナイ)
盗んだ こと[が] あったよ。(B ない)

北海道 09-4

ト ユーノワ アノ X3 ツァンカ°ナー↓ スイカデ ネー
と いうのは あの X3 さんがね スイカで[は] ない

ウリ ムイテ タベッタンダヨ。(C ンー)
瓜[を] むいて 食べてたんだよ。(C うん)

ソレ アノ X4 サン イタッタベー。
それ あの X4 さん[が] いただろう?

(C ンー) アノシトワ イヤ コンバン、
(C うん) あの人は いや 今晚[は]

アントキ ナンデ アソコサ イッタツタカ
あの時 なんて あそこへ 行っていたか

コンバン アノー (B {笑}) オツキミダガラー
「今晚[は] あの (B {笑}) お月見だから

アソコニ アッカラ ヌスンデクベジャ、 ユッタタンダ。
あそこに あるから 盗んでこようよ」 [と]言ったんだ。

(C ンー) ダー コツツァー ワレワレワ マー
(C うん) だが こちらは 私たちは まあ

コドモダガラナ オッカナインダ。
子どもだからな おっかないんだ。

イヤー ダイジョーブダガラー シトツ マー、
「いや 大丈夫だから ひとつ まあ

北海道 09-5

アー イッテコイジャ、 ホッテ モッテキタゲンド
ああ 行ってこいよ」 そして 持ってきたけれど

エーサ モッテキランネー〔33〕デサー↓ (B・C {笑})
家に 持って帰れないでね (B・C {笑})

{笑} カクシテ ホテ ツキ°ノ アサー アノー マー
{笑} 隠して そして 次の 朝 あの まあ

X 4 サン イヤー ユーベ オツキミニ
X 4 さん〔は〕 「いやあ 昨晚 お月見に

ドロボー キタハデ〔34〕 ヌスマレチャ。(C アー)
泥棒〔が〕 来たので 盗まれたよ。(C ああ)

ヤ エンキ° イーカラ〔35〕 ヨガッタゲンドモ (C ーン)
まあ 縁起〔が〕 いいから よかったけれども (C うん)

ココサ コモコモト シタ ヤツオ ナクナッタダ
ここに こもこもと した やつが なくなったんだ」

オレ ヌスンデルモノ ウチエ ワルイ ッテサー。
私〔が〕 盗んでいる〔んだ〕もの うちへ 悪い ってね。

{笑} (C {笑})
{笑} (C {笑})

230 B : ホーユー
そういう

北海道 09-6

231 A : ヤー オツキミチュー コトワ ムカシ アー
まあ お月見という ことは 昔 ああ

232 B : オツキミー ンー。
お月見 うん。

233 C : アー オツキミノ バンニ (A ****) (B *****)
ああ お月見の 晩に (A ****) (B *****)

ヌスンデモー ヌスンダ ッテ ユワンネー (A アー)
盗んでも 盗んだ と 言われない (A ああ)

ッテ ユワレ、 ッテナー↓。
と 言われる ってね。

234 A : ンー、 ナント、 ユッタカナ、 ナンカ ユー**
うん なんと 言ったかな、 なんか 言う**

235 B : ソーユー ハナシワ アッタワネ? (C ンー ***)
そういう 話は あったよね。 (C うん ***)

ヌスンダ コトワ ナイケドモ↓。
盗んだ ことは ないけれども。

236 A : ソーユー ソノー マー シューファーカ° アッタヨーダナ?
そういう その まあ 風習が あったようだね。

(B ンー) ンー。
(B うん) うん。

237 C : ソレモ イマ ダンダン ウスレ
それも 今 だんだん 薄れ

238 B : ソレモー ダンダントネー↓ (C ー)
それも だんだんとね (C うん)

イツツチュー コト ナク ナグナッテ
いつという こと[も] なく なくなって

ハー モー ヤンナク ナッタヨネー↓。
はあ もう やらなく なったよね。

239 A : デ アレ、 ソノジブンニワ アノー
それで あれ[は] その頃には あの

240 B : ハナスイタケデ。 コンバン オツキミダッター
話だけで。 今晚 お月見だったな

ナンテ ユーク°ライノモンデー (A アノー)
なんて 言うくらいのもので (A あの)

カタクー マモンナク ナッタヨナ?
固く 守らなく なったよね。

241 A : ササマメ。 (C ー)
ササ豆。 (C うん)

オツキミニ クーンダ ト ユー ゴトデー ユンデテ
お月見に 食べるんだ と いう ことで ゆでて

ソノー、オー ダイズオー タベタワナ? (C ンー)
その 大豆を 食べたよね。 (C うん)

ソイツ イマ ホレ タベナイガラナ。
そいつ[を] 今[は] ほら 食べないからね。

ソーユー モノ。 ンダガラ オツキミモ シゼン シゼン
そういう もの[は]。 だから お月見も 自然 自然[に]

242B: ナグナッタ*?

なくなった*

243A: ソーユー ゴトガラ マー ヤメタンデ ナエーガナー
そういう ことから まあ やめたので[は] ないかな

コレ。
これ[は]。

244C: シゼント ムカシノ モー (A ンー) (B ンー)
自然と 昔の もう (A うん) (B うん)

ナンチューカ シキタリー ナグナツテクル
なんというか しきたりが なくなってくる

(A スイキタリナ?) (B ナクナツテ)
(A しきたりね) (B なくなつて)

ナグナツテキタワナ? (B ンー)
なくなってきたよね。 (B うん)

09↑

北海道 10-1

245 A : マー オソラクー ソーユー、 マー、
まあ おそらく そういう まあ

↑10

オ オラン ウチデワ マー、 カザツタナンチュー
× 私の うちでは まあ 飾ったなどという

ゴト メギラニ アツタンダ? アケ[°]テワ
こと[は] / / / / あったんだ。 あげては

マー カヤ、 カヤナンチュー ゴトデー ヤッター ゴトワ
まあ カヤ カヤなどという ことで やった ことは

キートツタンダ。
聞いていたんだ。

246 B : ウチラ コドモタチ チーサイ ジブンニワナ
私たち[は] 子どもたち[が] 小さい 時分にはね

(A ー) オーツキサマダカラナ (A ー)
(A うん) お月様だからな (A うん)

クモッテル バンワ ミエナクテ
くもっている 晩は 見えなくて

コンバンワ ミエナイワ ナンチュッテ (A ー ー)
今晚は 見えないわ などと言って (A うん うん)

ヤッタ コトカ[°] アル。
やった ことが ある。

北海道 10-2

247 A : マー アレ キューレキデ ヤル モンダガラー
まあ あれ[は] 旧暦で やる ものだから

(B シー) チョード エー ドキモ ヤレナイ トキモ
(B うん) ちょうど いい 時も やれない 時も

アンデ ナイカ? (C アルワナー↓)
あるので[は] ないか? (C あるよな)

ト オモッタゲドモナ? シー。
と 思ったけどもね。 うん。

248 C : イマ モ ソンナ ゴトモ ナグナッタシ
今[は] もう そんな ことも なくなったし

249 B : ナンニモ ナグナッタネ?
なんにも なくなったね。

250 C : ナンニモ ナグナッテ タダ (A シー)
なんにも なくなって ただ (A うん)

クルマデ ワカイ シト**** デカケル ッテ ユーカ
車で 若い 人**** 出かける と いうか

251 A : シー ソーユー ソノ マー デカケル ゴトカ°
うん そういう その まあ 出かける ことが

オーイモンダガラ ケッキョク ソーユーフニ
多いものだから 結局 そういうふう

ハー モー ムカシノ マー ギョー ジツツユーノガ
はあ もう 昔の まあ 行事というのか

シキタリチュノワ モー ナニモカニモ
しきたりというのは もう なにもかにも

コレ ナグナツチャッタスイ
これ[は] なくなっちゃったし

252C：スタレッチャッタダナ？ (B ー) ー。
すたれちゃったんだね。 (B うん) うん。

253A：スタレ スタレタンダ。 ー。
××× すたれたんだ。 うん。

254B：ナクナツタネ？ (A ー)
なくなったね。 (A うん)

10↑

—— 中 略 ——

255A：ー、 マ イマノ カーチャンダジド ドレダケ
うん まあ 今の 主婦たちと どれだけ

↑11

サー アル。 ダイブ サー アルベ。
差が ある？ だいぶ 差が あるだろう？

C サンダジト イマノ カーチャンノ シュフニ ナツタ
C さんたちと 今の 主婦の 主婦に なった

ジダイトサー↓。

時代と[では]ね。

256 C : ナニモ カーサラダッテ ドコエモー デナイ。

なにも 主婦だって どこへも 出かけない。

トナリサ イグク[°]ライデ。(A ンー)

隣へ 行くくらいで。(A うん)

ヤッパリ シドイカラー。 {笑}

やっぱり [隣へ行くといっても遠いので]ひどいから。 {笑}

(A ン、 ンダベナー アー アー アー) (B アー)

(A うん だろうな ああ ああ ああ) (B ああ)

ソンナニ (B ンー ソーダネ?) ヨー、タッシモ ナイシ。

そんなに (B うん そうだね) 用足しも ないし。

(A ンー) (B ンー) ンー。

(A うん) (B うん) うん。

ムカシワ デンワモ ナイカラ ヨータシニ アルッテ

昔は 電話も ないから 用足しに 行って

トナリヘン アルッテ {笑} (A ンー) アソNDER。

隣あたり[に] 行って {笑} (A うん) 遊んで。

{笑} (A ンー) ワチラワ シュート イナイガラ

{笑} (A うん) 私は 舅[が] いないから

北海道 11-3

ゼン デタ コトニ ナルワナ？
×× 外出した ことに なるわね。

トナリヘンーデモ ブラックデモ チョーカイナンカデモ
隣あたりでも 集落[内]でも [集落の]常会なんかでも

(B ハイ) デタホーダワナ。(A ンー ンー ンー)
(B はい) 出たほうだよね。(A うん うん うん)

ウチノ ジッチャンワ
うちの おじいさん[=夫]は

フイナンカワ ハタラキニ イッテ イナイシ
冬なんかは 出稼ぎに 行って [家に]いないし

キョグ ジョーカイナントワ カンズ デタナ？
結局 常会など[に]は 数[多く] 出たね。

257 A : ンダガラサー↓ マー (C マー) ムカシワサ (C ンー)
だからね まあ (C まあ) 昔はね (C うん)

イマド ツカッテ トーチャンワ トーキカン
今と 違って おとうさん[=夫]は 冬季間

ホドント イネンダガラ (B イナイ アー)
ほとんど [家に]いないんだから (B いない ああ)

デー マー トナリキンジョノ ツキアイナントワ
それで まあ 隣近所の 付き合いなどは

イマド ツカウト オモーンダ**ナ? (C ンー)
今と 違うと 思うんだ**ね。 (C うん)

イマノ カーチャンノヨメニサー↓ (C ンー)
今の 主婦のようにね (C うん)

シマ アレバ マー トーチャント サー、アー
暇[が] あれば まあ おとうさん[=夫]と さあ

デートデ ナイナー アソビサ デルナンチュー ゴトワ
デートで ないな 遊びに 出るなどという ことは

ナカッタ*****。
なかった*****。

258C : ンー ナイワ。
うん ないよ。

259B : ソーユー コトワ (A ンー)
そういう ことは (A うん)

260C : ントニ エンワ ナンニモ ソーユー コトワ ナイワイ。
本当に /// なんにも そういう ことは ないよ。

(B ンー) ヨータシダッテ モイワ[36] パシャンダガラ。
(B うん) 用足しだって 茂岩[へは] 馬車だから。

(A ンー) ンー ソンナ コトワ デキナガッタワナ?
(A うん) うん そんな ことは できなかったよね。

261A : デ コドモノ キョーイクダッテー テンデ ツカ°ウベ。
 それで 子どもの 教育だって てんで 違うだろう？

262C : テンデン チカ°ウシナ？ (A ンー)
 てんで 違うしね。 (A うん)

キョーイクナントモ キョーイクヨリモ
 教育なども 教育よりも

ツカウ コトナントバカリ カンカ°エテ
 [子どもを仕事に]使う ことなどばかり 考えて[いた]

イソカ°シー、マキ°レニ。
 忙しまぎれに。

263A : ソーダナー。(C ンー) カネ ケーザイニ
 そうだね。(C うん) ×× 経済[的事情]に

オワレテルモンダガラ コドモノ キョーイクチュー ゴトワ
 追われているものだから 子どもの 教育という ことは

ゼンゼン (C ゼンーゼン) マー
 全然 (C 全然) まあ

ガッコノ センセーマカセダッタベ。(C ンー)
 学校の 先生任せだっただろう？ (C うん)

ダー センセートノ ツナカ°リモ ナカッタベ。
 だが 先生との つながりも なかっただろう？

264 B : ナイネ。(A ナ?) ンー。
ないね。(A ね?) うん。

265 C : コドモ ソダテタンデ ナクテ ソダッタンダガラ。
子ども[は] 育てたので[は] なくて 育ったんだから。

{笑} エー ネー モー ナケ[°]ツパナシニシテ↓。

{笑} ええ ねえ もう ほうりっぱなしにして。

266 A : マー ソレコソ ガッコー (B チカイカラネ?)
まあ それこそ 学校[が] (B 近いからね)

ツカイカラコソ センセーカ[°]タト セツパンシタ[37]インノ
近いからこそ 先生方と 折半したようなものの

Bサンノ バアイワ

Bさんの 場合は

267 B : エー シナイネ?
ええ しないね。

268 A : コドモ ガッコーサ オクッテッタツキリデー
子ども[を] 学校へ 送っていったきりで

アトノ コトワ センセーマカセダッタ ト オモーンダ。
あとの ことは 先生任せだった と 思うんだ。

269 C : ヨルー ヨルン ナレバ スコシ ホレ
××× 夜に なれば 少し ほら

北海道 11-7

コドモカ° ベンキョースレパー (A ンー)
子どもが 勉強すれば (A うん)

オシタリーワ (A ンー) シタゲドナ?
教えたりは (A うん) したけどね。

270A : ダガラ イマノ
だから 今の

271B : ウチワ モー ベンキョーチュー コトワ コドモタチニ
うちは もう 勉強という ことは 子どもたちに

ゼンーゼン。 ベンキョーシナサイ ナンテ ユッタノワ
全然。 勉強しなさい なんて 言ったのは

ズット シタノ ホーダカラ。 (C ンー)
ずっと 下の ほう[の子ども]だから。 (C うん)

ウイノ ホーノ コワ モー ベンキョーナンテ シ
上の ほうの 子は もう 勉強なんて ×

デキナクタッテ シャカイサ デテ カネモーケワ チカ°ウ
できなくなつて 社会へ 出て 金もうけは 違う

ナンテ ジツチャン ハ ****
なんて おじいさん[=夫][が] × ****

272C : ムカシノ シトワ ホーユー **ナ?
昔の 人は そういう **ね。

273 B : ハナシカセルモンダガラ ソレ ヨシニシテ
話して聞かせるものだから それ[を] いいことにして

エサ キテ[38] ベンキョーシタナンチュー コト
家に 帰って 勉強したなどという こと[は]

ナカッタガラ。
なかったから。

274 A : ダガラ イマノー イマノ トギト モトノナ？
だから 今の 今の 時代と もとのね

シュフカ[°]サー↓ コドモノ キョーイクト
主婦がね 子どもの 教育と

ガッコーノ センセーノ ツナカ[°]リナゾ
学校の 先生[と]の つながりなど

ゼンゼン ナカッタモノー。
全然 なかったもの。

275 B : ダッテ イマー (C イマワナ?) イマニ
だって 今は (C 今はね) 今×

ウチシーニ イル オッキーノナンカネー↓ (A ー)
うちに いる 大きい[ほう]の[子]なんかね (A うん)

ガッコー トーイカラ (C ー) (A ー)
学校[が] 遠いから (C うん) (A うん)

コワク [39] ナッカラ アルイテンダガラ。
 疲れて くるから 歩いて[学校へ通って]いたんだから。

(C ンー) (A ンー ンー) トチューデ
 (C うん) (A うん うん) 途中で

コシカケテ (A ンー ンー) ホシテ
 [道路わきに]腰かけて (A うん うん) そして

フ フルシキオ シロケ[°]テ ホレコソ カバンダッタ [40]
 × ふろしきを 広げて それこそ かばんだった

アノコロワ。(A ンー ンー)
 あの頃は。(A うん うん)

カバン シロケ[°]テ ベンキョー ア ア アノ
 かばん[を] 広げて 勉強[を] × × あの

アシタノ コトノ ヤツワ ヤッタ チュンダ↓。
 明日の ことの やつは やった と言うんだ。

ンダガラ (A ンー) ウチサ キテ カバンオ
 だから (A うん) うちに 帰って かばんを

シロケ[°]タッチュー コトワ ナカッタ。(C ンー)
 広げたっていう ことは なかった。(C うん)

11↑12

276A : マダ オヤモナー マー ベンキョーセー ナンチュー
 また 親もね まあ 勉強しろ などという

(B ー) シトモ イナイ。

(B うん) 人も いない。

オソラク ツカウ コト センモンダガラー↓。

おそらく [仕事に]使う こと 専門だから。

277C : ー ツカウ コト カンカ°エテ

うん 使う こと[を] 考えて

278A : ケアーッテキタラ オメアー イチネンセーカラ

[学校から]帰ってきたら あなた 1年生[の時]から

ホノ イモノ カワー ムケー ソラ コメ トケ°

その「ジャガイモの 皮を むけ、 そら 米[を] とげ」

ダッタガラ。(B {笑}) ソーダッタベダ?

だったから。(B {笑}) そうだっただろう?

(C ー ソーダ) ワレワレワ ソー ソー サレタンダガラ。

(C うん そうだ) 私たちは ×× そう されたんだから。

279C : テー ナイカラ シゼン、ナ? コドモオ ツカウ。

人手が ないから 自然[に]ね、 子どもを 使う。

280A : ダガラ オンナキョーダイ ナカッタモンダカラ

だから [私は]女兄弟[が] なかったものだから

ナンキンマエー[41] アー ゴハン タカセラレタスイ

南京米[の] ああ ごはん[を] 炊かせられたし

北海道 12-3

イモスイリダンコ°〔42〕モ イモモチ〔43〕モ ツクッタモンダ。
イモすりだんごも イモ餅も 作ったものだ。

(C ホンダ) ダー ナンキンマイダ ボロボロスル
(C そうだ) だが 南京米だ〔と〕 ほろほろする

オラ マー ****
私〔は〕 まあ ****

(C ンー) (B ンー) ソーユー ゴトダッタガラナー。
(C うん) (B うん) そういう ことだったからね。

ベンキョーニナント ゼンーゼン イマノヨーニ マー
勉強になど 全然 今のようにな まあ

281C：ネッシンニナ？ (B アー)
熱心にね。 (B ああ)

282A：ベンキョーヤレ ナント。 ターダ アルカシトケバ
勉強しろ など。 ただ [学校へ]通わせておけば

エー ト ユー ゴトデー。 マー ンダガラ
いい と いう ことで。 まあ だから

イマノ コドモノ キョーイクノ テードト
今の 子どもの 教育の 程度と

テンデ ハナシ ツカ°ウ。 イマ ロクネンセーニ
てんで 話〔が〕 違う。 今 6年生〔の教室〕に

オラー エッタッテ ゼンゼン ハナシ ワカランモン。
私は 行ったって 全然 話[が] わからないもの。

283 C : * * * * *
* * * * *

284 A : ゼンゼン。 モー ゼンゼンダ？ ナンニモ モー
全然。 もう 全然だ。 なんにも もう

イエル シトツモ ナイワ↓。
言える[ことは] 一つも ないよ。

12↑

— 中 略 —

285 C : ダガラ チョット ドマズク トキ アルヨ。
だから ちょっと とまどう 時[が] あるよ。

↑13

ワーレワレワナー↓。
私たちはね。

286 A : ドマズク。 ダー オシエテケバ ナンテ
とまどう。 だから 教えてくれ なんて[言われたって]

ヘタニ オセランネー * * *。 (C ホントダワ)
下手に 教えられない * * *。 (C 本当だよ)

ジッチャン ホラ マツカッテ ギャクニ コドモカ°
「じいちゃん ほら まちがって」[などと] 逆に 子どもが

北海道 13-2

287C : {笑} ホントニ ピント コナイ↓。

{笑} 本当に ピンと こない。

288A : ソーユー ゴトデー、 マー モトノ シュフト ユーノワサー↓
そういう ことで、 まあ もとの 主婦と いうのはね

イマノ シュフノ サガ°サー イマワ オメアー
今の 主婦[と]の 差がね 今は あなた

289C : ホントニ カワッタ **ナ?

本当に 変わった **ね。

290A : ヨーユー シャクシャクダ。(C ンー)

余裕 シャクしゃくだ。(C うん)

ケーザイモ ヨユー アルカー シゴ°トノ ミンモ
経済も 余裕[が] あるから 仕事の 面[で]も

ソーユー ウエ アルカソート (C アー)
そういう 上[の学校へ] 行かせようと (C ああ)

コドモノ カンシンモ モデルシ。
子どもの 関心も 持てるし。

291C : ソーダ。 イマノ オヤワナ?

そうだ。 今の 親はね。

292A : ガッコノ センサー、 ンダー ガッコノ センサーモ

学校の 先生、 そうだ 学校の 先生も

北海道 13-3

モー ソノー オヤガラ イワレガラ
もう その 親から 言われるから

ムカシノ ガッコ センセート ツカッテサー
昔の 学校[の] 先生と 違ってね

ヒジョーニ ベンキョーシテ スーダン ウエノ センセーダトヨ↓。
非常に 勉強して 数段 上の 先生だとよ。

293 C : ジブンカ° ソーシテ ツカワレタガラ
自分が そうして [仕事に]使われたから

シゼン コドモオ ツカウ ッテ ユー コトシカ
自然[に] 子どもを 使う と いう ことしか

(A ンー) カンカ°エテナカッタモナ? (B ンー)
(A うん) 考えてなかったものね。 (B うん)

コドモノ キョーイクデ イマノ オカーサンダチワ
子どもの 教育で 今の おかあさんたちは

ジブンカ° ヤレテモ コドモ ツカナイデ
自分が 言われても 子ども[を] 使わないで

ベンキョー、オー、ノ ホーエ イグケンド。
勉強の ほうへ いくけれど。

294 A : ダカラ ワシノ ガ
だから 私の ×

北海道 13-4

295 C : ホーユー ジダイワ チカ°ウ↓。
そういう 時代は 違う。

296 A : ワシラ マー ガッコー チカカッタモンダガラ
私[は] まあ 学校[が] 近かったものだから

ガッコー イク マエニ イナキミ[44]ー (C ソーダ)
学校[へ] 行く 前に いなきびを (C そうだ)

スヌクッテ[45]イタガラ ウス シトツ ツイーテ
////////いたから 白[を] 一つ ついて

ソノマエニ アサメシマエーニ アノ
その前に 朝食前に あの

ガッコーカラ ミズクミ[46]ダ。
学校から 水汲みだ。

297 C : シー ミズワ
うん 水は

298 B : ミズクミワ *** ヤッタワネ?
水汲みは *** やったよね。

299 C : シー ミズクミ ニワハキ
うん 水汲み 庭掃き

300 B : カワカラ カツイダカラネ?
川から 担いだからね。

301C : ゴーキン カケサセテ、 ウチラモ コドモー
ぞうきん[を] かけさせて、 私たちも 子どもを

(A エー) オ ガッコーエ ヤッタンダガラネ？
(A ええ) × 学校へ 行かせたんだからね。

302A : ソレカラ
それから

303C : テー ナイカラ シゼン ハタラカネッカナンナイシ
人手が ないから 自然[に] 働かなくてはならないし

フタリデ。
二人で。

304A : アー フロ フロタキダベ。
ああ ×× 風呂焚きだろう？

305C : フロタキ。 カイツテキタラ (A *****)
風呂焚き。 [学校から]帰ってきたら (A *****)

ンマノ クサカリ、 サセテ
馬の 草刈り[を] させて

306A : ンマノ クサ、 ナー。 フロナンテ イッシューカンク°ライ
馬の 草、 ねえ。 風呂なんて 1週間くらい

タテツパナシダ。 クマネンダ。
[同じ水を]入れっぱなしだ。 [新しく水を]汲まないんだ。

307C : {笑} クマネンダ。 ホントニナー。

{笑} 汲まないんだ。 本当にね。

308A : ソーダ イマ マイバンダド オメアー

そうだ 今[は] 毎晩だぞ あなた

(B ー) (C ンダネー)

(B うん) (C そうだね)

ホイカ° フロミズ クムノ ヤーダガラー

それが 風呂水[を] 汲むの[が] 嫌だから

タテカエシテ

マックレー

[水を汲みかえないで] 焚きかえして 真っ黒い

マー ユルシ (C ホントナー)

まあ [お湯に]入るし (C 本当ね)

トコロカ° ソノコロ オメアー、 フロニ アカリヤ ナイワエ。

ところが その頃 あなた、 風呂に 明かりは ないよ。

(C ー) テサク°リデ ハイッタンダー？

(C うん) 手さぐりで 入ったんだ。

オソラグ ローソク タテナイデ クライ トキバカリ

おそらく ろうそく[も] つけなくて 暗い 時[に]ばかり

ハイットッタベ？

入っていただろう？

北海道 13-7

309 C : クライヨ。 ソレモ ソトダベシ (A ソト) ンー。
暗いよ。 それも 外だろうし (A 外) うん。

(A アー) ヨク モー ホントニ ナントモ オモワナイデ
(A ああ) よく もう 本当に なんともしらないで

ホーユー ミンナ ソーユーフンダガラ ナントモ オモワナイデ
そういう みんな そういふうだから なんともしらないで

イッショークンメー ハタラカナッキャナンナイ (A ***)
一生懸命 働かなくてはならない (A ***)

ト オモッテ ヤッテキタンダヨナ? ****
と 思って やってきたんだよね。 ****

310 B : ** ウチワ ソーデー ナイカラ。
** うちが そうでは ないから。

ノーカ シナカッタカラ。 コドモン コロカラ。
農家[を] しなかったから。 子どもの 頃から。

311 C : ンー ノーカデ ナイカラ チカウワナ?
うん。 農家で[は] ないから 違うよね。

312 B : ソシテ ウチノナ? ツズキサ フロ ツクッテタカラ
そして 家のね 続きに 風呂[場を] 作ってあったから

(A ンー) ソトデモ ナカッタシ (A ンー)
(A うん) 外でも なかったし (A うん)

313C : ウチラワ ソト ウチヤ
私たちは 外。 うちは

314B : ミズワ フベンドッタケドモナ? イッ
水は 不便だったけれどもね。 ××

315C : ハタケカラ カイッテキテモ カワ イッテ
畑から 帰ってきても 川[へ] 行って

ミズ クマネツカラネ。 フロ ズインブ
水[を] 汲まねばならないからね。 風呂[は] ずいぶん

ホントニ (A ンー) ナンテカ クローワ シタワネ?
本当に (A うん) なのというか 苦労は したよね。

イマ (A ンー) カンカ°エタラ↓。
今 (A うん) 考えたら。

ヨク ヤッタッテユーク°ライ。
よく やったというくらい。

316A : インダガラ ソノー マー カケランブー[47]、ダツタガ
だから その まあ 掛けランプだったか

オラン トキワナー↓。(C ンー カケランブダ?)
私の[子どもの] 時はね。(C うん 掛けランプだ)

モトワ カケランブーデ ナイ (C カンテラ[48])
もとは 掛けランプで[は] ない (C カンテラ)

ケンテラダッタエド マー ワレワレ ジダイニワ
カンテラだったけれど まあ 私たち[の] 時代には

マー ソノー ジョージ イルー アー マー イマ ソノ マー
まあ その いつも いる ああ まあ 今 その まあ

ナンチュカ ソノ ダイドコロー (C ンー) ケン、 ンー
なんというか その 台所 (C うん) 兼、 うん

チャノマダッタダガラ。 マー ベツニ チャノマダナンテ ベツニ
茶の間だったんだから。 まあ 別に 茶の間だなんて 別に

ナカッタガラ。 オキヤクサン キタッテ ホゴダッタダガラ。
なかったから。 お客さん[が] 来たって そこだったんだから。

ソッテ ネンドコニワ テランプ[49] ツケタワナ？
そして 寝床には 手ランプ[を] つけたよね。

(C コナシテ モッテ アルッテ)
(C こんな[ふうに]して 持って 回って)

ンー モッテ アルッテ。
うん 持って 回って。

317C : {笑} モッテ アルッテ。
{笑} 持って 回って。

13↑

— 中 略 —

北海道 14-1

318A : アー テッパンノヨーナ マイデ
ああ 鉄板のような[ものを] 巻いて

↑14

シン タテテー ソシテー ボー タテタ ヤツ
芯[を] 立てて そして 棒[を] 立てた やつ[を]

アケ[°]テー ヒズオ コンド カゲデ アルッタモンダナ？
上げて /// 今度 掛けて [持って]回ったものだね。

319C : カンカ[°]エテ アルッタモンダ。
//////// [持って]回ったものだ。

320A : ダー ムロン ベンジョナンテ アカリ ナカッタベ。
だから もちろん 便所なんて 明かり[は] なかっただろう？

321C : ベンジョモ アカリナンカ ナイシー
便所も 明かりなんか ないし

322B : ンーン ナイネ？
うん ないね。

323A : ナ？ ベンジョサ アカリ ツケテ
ね。 便所に 明かり[を] つけて

ベンジョーシタナンチュー コト
用を足したなどという こと[は]

オソラク オラワ ナカッタ**。
おそらく 私は なかった**。

北海道 14-2

324 C : ソレモ ソトダカラ (A ソト) クラクテナー↓。(B ンー)
それも 外だから (A 外) 暗くてね。(B うん)

325 A : モー ダイタイ ワレワレ ジダイニワ
もう だいたい 私たち[の] 時代には

ベンジヨ コサエーテアッタガラ。 ンー。
便所[が] 作ってあったから。 うん。

マー ダイブー、ブンカ ススンデ
まあ だいぶ 文化[が] 進んで

ベンジヨモ マー ユカイダナンテ マー ハッタゲド
便所も まあ 床板なんて まあ 張ったけれど

モトワ ソンデ ナカッタガラナ? (C アー)
もとは そうで[は] なかったからね。(C ああ)

マー カンタンナ ベンジヨ アッテモ
まあ 簡単な 便所[が] あっても

326 C : アナ ホッテ タンダ (A アナ ホッテ**)
穴[を] 掘って ただ (A 穴[を] 掘って**)

ハシー イタ ワタシタク°ライド ナイノ。
端に 板[を] 渡したくらいで[は] ないの。

(A ソレデモ ジョーッタガラ) (B ンー)
(A それでも 上等だったから) (B うん)

ワチラ コドモン トキニナ？
私たち[が] 子どもの 時に[は]ね。

327 B：アー↓ コドモノ トキワ ソーダッタワネ？
ああ 子どもの 時は そうだったよね。

328 C：オンボエテル。
覚えている。

329 A：ソーシテ ヤー シンブンカ°ミナド ジョートーデー
そうして ああ 新聞紙など[は] 上等で

ザッシナンテ アンマリ ナガッタモンダガラー
雑誌なんて あまり なかったものだから

ザッシノ アル カミナント キッテ ブラサケ°ダ
雑誌の ある 紙など[を] 切って ぶら下げた[のは]

ジョートーノ ホーダッタド。
上等の ほうだったぞ。

330 C：ホントダナ？
本当だね。

331 A：アー ソーユー ジダイ トーッテキテ (C ンー)
ああ そういう 時代[を] 通ってきて (C うん)

アー ダカラ イマー ソレオ カタツツンダッテ
ああ だから 今は それを 語るということだって

北海道 14-4

オメアーナ? (C アー) ワキャイ モノワ ホンニモ
あなたね (C ああ) 若い 者は 本当に

332C: ホンニモ シナイワ。(A シナイダロー) シナイワ。
本当に しらないよ。(A しらないだろう) しらないよ。

マコ^ラニ ユッテ キカシタッテ
孫たちに 言って 聞かせたって

ホン^ーナ コト ナンテ ユッテ {笑}
「そんな こと」 なんて 言って {笑}

ホンニ シナイヨ。(A ヤー)
本当に しらないよ。(A ああ)

333B: ナインダカラ。ソーユー ミニ アワナイカラ
ないんだから。そういう 目に あわないから

シラナイダケナンドワ↓。
知らないだけなんだよ。

334C: コドモニ *** コドモニ サシタノワ ヤッパリー
子どもに *** 子どもに させたのは やっぱり

335A: イヤ アッタンダ。アッタンダエド ケーザイカ°
いや あったんだ。あったんだけど 経済[状態]が

ドートクダガラッテ
////////////////

336 C : カギランプソージグライナモンダッタゲド

掛けランプ掃除くらいなものだったけど

ウチラ マキハコビト カケランプソージグライシカ
私たち[は] 薪運びと 掛けランプ掃除くらいしか

コンドモニ * * * * * * * * * * カラ。

子どもに * * * * * * * * * * から。

337 B : マキ ハコンデ カギランプ マックロニ ナッテ

薪[を] 運んで 掛けランプ[の] 真っ黒に なって[いる]

(B {笑}) ホヤ (A * * *) ンー

(B {笑}) ほや[を] (A * * *) うん

ホヤミカ°キ[50]

ほやみがき[をした]

14↑

—— 中 略 ——

338 A : マー デンキ ツク マエダッタラナー↓。 (C アー)

まあ 電気[が] つく 前だったらね。 (C ああ)

↑15

339 B : アー、 ソートー シドカッタヨネ?

ああ、 相当 ひどかったよね。

340 A : マー ホノ セキユーダッテ マテー[51] シテタンダガラ。

まあ その 石油だって 大切に していたんだから。

モー オソラク ポンボン モサナインダガラ。
もう おそらく ほんほん 燃さないんだから。

341C : ホントダナー。(A アー?) ムカシワ
本当だね。(A ああ?) 昔は

マテーニ マテーニ ツツテ イマ** {笑}
大切に 大切に と言って 今** {笑}

ケンヤクダナンテ リッパナ ゴト ユーゲントモ
儉約だなんて 立派な こと[を] 言うけれども

ムカシワ マテーニ シネート ダメダガラ ナンテ ユワレテナ?
昔は 大切に しないと だめだから なんて 言われてね。

342A : シー。ダガラ マー ソーユー マー デン、デンキテ
うん。だから まあ そういう まあ ×× 電気って

アカリノ クルシミワナ? マー カナシンデイテ
明かりの 苦しみはね まあ なげいていて

デンキ ツイター ドーダッタエー。
電気[が] ついて どうだった?

343C : デンキ ツイタ トキヤー マー ホントニ ビックリ
電気[が] ついた 時は まあ 本当に びっくり

**** {笑}

**** {笑}

北海道 15-3

344 A : オラト イッショニ ツイタンダガラ。

私と 一緒に [電気が] ついたんだから。

*** (B アー) コゴワ

*** (B ああ) ここ [=石神地区] は

オラヨリ ハヤインダナー↓。

私より 早いんだね。

345 B : イチネン ハヤインデショ? (A アー) アー。

1 年 早いんでしょ? (A ああ) ああ。

346 A : ソレ コノマシクテー [52]

それ [が] うらやましくて

347 B : デンキュー ツイタ トキネー (C ーン) マー コナーナニ

電球 [が] ついた 時 [は] ね (C うん) まあ こんなに

アカルクテ シ アノ シルノヨーニ ナッタガラネー↓

明るくて × あの 昼のように なったからね。

(C {笑}) コンドワ ヨルデモ (C ホントニ)

(C {笑}) 今度は 夜でも (C 本当に)

シン アノ ナニシゴトデモ デキル ト オモッタ。

×× あの 何仕事でも できる と 思った。

348 C : ナンーデモ デキッ ト オモッタヨ ナー↓ (B {笑})

なんでも できる と 思ったよ ねえ (B {笑})

北海道 15-4

ホントニ ソノトンジワ オモッタヨ。
本当に その当時は 思ったよ。

349 B : ソシテ コンダ ヤッパ ヨンデモ、 ヨル、 アノ
そして 今度は やはり 夜でも、 夜、 あの

メンヨーノ ケートリ
綿羊の 毛取り

350 C : ケートリナ? {笑}
毛取りね。 {笑}

351 B : コドモト ジブンラト
子ども[の]と 自分たち[の]と。

352 A : アー アー コー ヤッタガ イトリナー↓。
ああ ああ こう | 動作をしながら | やったか 糸取り[は]ね。

353 C : コー イト ソソカシテ[53]ナ?
こう | 動作をしながら | 糸[を] ほぐしてね。

354 A : アノ アノコロワ ジゲツ ソーダッタガラ
あの あの頃は / / / そうだったから

メンヨーッテ ケオ トッテ ソノー アー
綿羊って 毛を 取って その ああ

355 C : シー ケー カッテ。
うん 毛を 刈って。

356 B : エー。 ソシテ クツシタ アンデ、クレタリー
ええ。そして 靴下[を] 編んでくれたり

357 A : クズシテ クツシタ アンダリー (B ンー)
崩して 靴下[を] 編んだり (B うん)

アマレバ ソノー ノーキョーデ エー カクホシテ * * * * *
余れば その 農協で ええ 確保して * * * * *

358 B : ダカラ イマノ ウチノ (A * * * * *) (C アー)
だから 今の うちの (A * * * * *) (C ああ)

オッキー コワ イトトリデモ ミシンデモ ナンデモ ヤッタ。
大きい 子は 糸取りでも ミシンでも なんでも やった。

(A ンー) アマリ ツカワレタガラ チッチェンダ ッテ
(A うん) あまり 使われたから 小さいんだ と

ユーケドー。
言うけど。

359 A : マー アレ デンキ デンキ ツカナカッタカラ
まあ あれ ××× 電気[が] つかなかったら

ソレマデ ヨ ヨナベワ デキナイワナ？
それまで × 夜なべは できないよね。

360 C : デキナイワ。 クラクッテナ？ (B ナ？)
できないよ。 暗くてね。 (B ね)

北海道 15-6

361A : ソレワ マー ワレワレノ ヨナベ (C ンー) ダツタンダ。
それは まあ 私たちの 夜なべ (C うん) だったんだ。

(C ンー) ダ、 ソレ マエニワ
(C うん) だが それ[の] 前には

モー オソラグ ヨナベモ マー ソーマ
もう おそらく 夜なべも まあ 相馬

362B : デキナカッタワナ？
できなかったよね。

363A : ソーマツチュノワ モー ヨイ トコ
相馬というのは もう よい ところ

オンナノ ヨナベ チュー ウタ アッケンドモー
女の 夜なべ という 歌[が] あるけれども

ソレオ オンナノ ヨナベテ ツケチャッテ
それを 女の 夜なべと つけてしまって

イライ イロケノ アッ トコッタ ッテ ユワレタゲンド
[それ]以来 色気の ある ところだ と 言われたけれど

ヨナベカ° ソーマデワ ヤッタ ト ユー
夜なべが[=を] 相馬では やった と いう

(C ンー) (B ンー) ソレカ° ホッカイドーサ
(C うん) (B うん) それが 北海道に

キテモ ヨル ヨナベ、 オソラク マー *****
来ても 夜[に] 夜なべ[を] おそらく まあ *****

ホトント サシタビ[54]ナンテ ヨナベダッタベ。
ほとんど 刺し足袋など[は] 夜なべだっただろう？

364 C : オヤダチワー ヨナベバ[55] シタンダヨナ？
親たちは 夜なべを したんだよね。

365 A : ンー シタナー。 ダ ワレワレモ
うん したね。 だから 私たちも

366 C : ワチラノ ダイワー ア ワチラ ヨナベナント
私の 代は ああ 私[は] 夜なべなど[は]

シナカッタナー。
しなかったね。

367 B : イトトリク°ライ イト トルク°ライノ モンダワナ？
糸取りくらい 糸[を] 取るくらいの ものだよね。

(A シナガッタ)

(A しなかった)

368 C : アノー コー プンケシテー (B ンー) デテ
あの こう 分家して (B うん) 出て

カテ モッテカラ↓ (A ンー)
家庭[を] 持ってから (A うん)

タダ デンキ ツイテカラ ヨル ホレ アカルイカラ
ただ 電気[が] ついてから 夜 ほら 明るいから

メンヨーノ (B アー) ケーナンカ トッテ
綿羊の (B ああ) 毛なんか[を] 取って

369 B : メンヨーノ ケークライノ モンダネ?
綿羊の 毛くらいの ものだね。

370 C : コンド サンボン ヨリアワセテ (B ンー) ケイトニー、ナ?
今度 3本 より合わせて (B うん) 毛糸にね。

371 A : ケイトニ シテナ? *****
毛糸に してね。 *****

372 C : スンノワ ヨル シタッタゲド。 (A エー ンー)
するのは 夜 していたけれど。 (A ええ うん)

カゲラーンプジダイニワ デキナイ モンダモノ。
掛けランプ[の]時代には できない ものだもの。

(A ンー) クラクテー。

(A うん) 暗くて。

15↑16

373 A : マー ヨナベー、 ワレワレ マー ツマゴ°[56]ー
まあ 夜なべ[に] 私たち[は] まあ つまごを

ヤッパリ ツクッタ オンボエ アンダガラ。 (C ンー)
やっぱり 作った 覚え[が] あるんだから。 (C うん)

イマデモ ツクレッケドモナ? (C ンー) (B アー)
今でも 作れるけれどもね。 (C うん) (B ああ)

マー オソラグー ンー コリヤ ショーパイニンデ アリヤー
まあ おそらく うん これは 商売人で あれば

シルマカラ ヤッタゲンド ヨルシカ ヤッテナカッタベ。
昼間から やったけれど 夜しか やっていなかっただろう?

(C ンー) デー ナワナイワ ヤッテナイナ?
(C うん) それで 縄ないは やっていないね。

374 C : ナワナイモ シナイ ワチラ。 (A ウチナドー)
縄ないも しない 私[は]。 (A うちなどは)

375 B : テ テデワ ヤンナイネ?
× 手では やらないね。

376 C : テデワ シナイ。
手では しない。

377 A : ウチノ カーチャンナ コレ センモンニ ヤ ヤッタ。
うちの おかあさんは これ[を] 専門に × やった。

(C アー ヤッタ) * * * * * モンダガラ。
(C ああ やった) * * * * * ものだから。

378 C : キカイダッタモンナー↓。
機械だったものね。

北海道 16-3

379 A : ナ ナオルノ ジョーズダワー。 シー ワレワレワー
× [縄を]なうの[が] 上手だよ。 うん 私たちは

マー ジャッカン ヤッタゲンドモー (C シー)
まあ 若干 やったけれども (C うん)

マー キカイ ハイッタモンダガラ。
まあ 機械[が] 入ったものだから。

380 C : キカイ ハイッタモノ
機械[が] 入ったもの

381 B : アー キカイニモ
ああ 機械にも

382 A : マ ウチノ バーチャンナ オラノ バイモ
まあ うちの おばあさん[=妻]は 私の 倍も

モジョラコイテ[57]ヤツタノ。
縄ないをしていたんだよ。

383 C : アー ヤッパリ チーサイ ウチカラナ?
ああ やっぱり 小さい うちからね。

384 A : アー * * * * * ヤッタガラ (B {咳})
ああ * * * * * やったから (B {咳})

385 C : ナー、 ナワ ナツタリ * * * * *
×× 縄[を] なったリ * * * * *

386 A : ソデー アノ ワラデ ヤツタカッテノー、
それで あの 薬で やったかというと、

スイデン ツクッテナイ、スキ°ダッタチュー。
水田[を] 作ってない、 昔だったという。

387 C : アー スケ° カッテキテナ？
ああ 菅[を] 刈ってきてね。

388 A : スキ°ナー ツカッテ。 ンー。 (B アー)
菅[を]な 使って。 うん。 (B ああ)

ソーシテ ヨナベニ モジアワセ ヤツタ ツツッテンダガラ
そうして 夜なべに 縄ない[を] やった と言っているんだから

アー (B ンー)
ああ (B うん)

389 C : ホントダ。 ズット ムカシノ シトワ ミンナ ヨナベダモ。
本当だ。 ずっと 昔の 人は みんな 夜なべだもの。

(A ンー) オヤダチャー (B ンー) モジッタゲンドモ↓。
(A うん) 親たちは (B うん) 縄ないをしたけれども。

390 A : テ ゴーリワ ツクンナカッタカイ。
そして 草履は 作らなかったかい。

391 C : ゴーリモ ツクンネ ワチラノ ダイニワ。
草履も 作らない 私の 代には。

392 A : ウチノ バーチャン ゴーリモ ツクツタスィー
うちの おばあさん[は] 草履も 作ったし

ヤランノワ X 5 ノ パーサンミタイニ
しないのは X 5 の おばあさんのように

インチコ[58]ダトカ (C ー) (B ー ー ー ー)
イチコだとか (C うん) (B うん うん うん)

ソーヂュー モノワー ツクンナガッタ↓。(B ー)
そういう ものは 作らなかった。(B うん)

393 C : ワチラ ホンケノ バーチャン ゴーリワ
私[は] 本家の おばあさん[が] 草履は

ツクッター、ノ モラッテワ {笑} インチコモ
作ったの[を] もらっては {笑} イチコモ

ゴハン イレル インチコダナンテ アンデモラッテワ
ごはん[を] 入れる イチコだなんて 編んでもらっては

モッテキー キー シタガラ ナンニモ
持てき 持てき したから なんにも

394 B : フンヂューッテ ナカッタカイ。 {笑}
不自由って なかったかい? {笑}

395 C : ー ツクリカタ シラネー。
うん 作り方[は] 知らない。

396 A : チョード イイドモ イマ イチコノ ハナシ デタゲンドモ
ちようど いいけれども 今 イチコの 話[が] 出たけれども

(C ンー) ワレワレワー フタツ ミッツノ ドキニー

(C うん) 私たちは 二つ 三つの 時に

(C ンー) ソノ イチコデ ソダッタ***。

(C うん) その イチコで 育った***。

397 C : ホントダモ。 コンナナー? イチコ
本当だもの。 こんなね イチコ[で]。

398 A : マー イチコニ ナッタノワ エー ホーダゲンド
まあ イチコに なったのは いい ほうだけれど

オラ ハコサ。

私[は] 箱だ。

399 C : イチコニ ナッタカ。 ハコダヨ (B ンー) ンー。
イチコに なったか。 箱だよ (B うん) うん。

ハコデ ソダテタ。

箱で 育てた。

400 A : ンダガラ イチコニ ナンノワ マダ イー ホーナンダ。
だから イチコに なるのは まだ いい ほうなんだ。

(C ンー) ***** (C ンー)

(C うん) ***** (C うん)

ハコエ オソラクー マー ンマレ ナンカケ°ツー
箱へ おそらく まあ 生まれ[てから] 何か月[か]

ンマレテ スク°、デワ ナイナ？
生まれて すぐでは ないね。

401 C：ソーダナ？ ヒ アイタラー[59] ハー イレタ。
そうだね。 日[が] 明けたら はあ 入れた。

402 A：ホシテ アルクマデ イレタンダガラ。
そして 歩くまで 入れたのだから。

403 C：ニー アルクマデ モー トシヨリナンカ イナカッタラ
うん 歩くまで もう 年寄りなんか[が] いなかったら

オ オサー マイテ ソレコソ ヒボオ カケテ ハコサ。
× 緒を 巻いて それこそ 紐を かけて 箱に[入れた]。

404 A：ホシテ (C ニー) マー アサー ハタケニ デ トギニ
そして (C うん) まあ 朝 畑に 出る 時に

チャント スミスオ カケテ ソシテ ホゴサ イレテ
ちゃんと おしめを かけて そして そこに 入れて

ガワサ ツッペ[60]オ カッター
周囲に 芯張り棒を かって

ソシテ デテッタモンダ。 (C ソーダナー)
そして 出ていったものだ。 (C そうだね)

北海道 16-8

ソシテ エ チューカンニー ヤショケニ〔61〕

そして × 中間に // // // //

コノ ハコカラ ダサレテ コヤッテ

この 箱から 出されて こうやって | 動作をしながら |

ノマセテナー↓。

[乳を]飲ませてね。

405 C : コナ シテナー↓。 {笑}

こんな[に] | 動作をしながら | してね。 {笑}

406 A : ホカシテ ノマシテ (B {笑})

寝ころがせて 飲ませて (B {笑})

ホシテ マダ デテイッテ オシルニ キテ

そして また 出ていって お昼に 帰って

ワーッテ ションベンタ ユケ° アカ°ル ヤツオ

わあっと 小便した 湯気[が] 上がる やつを

(C ー) アケ°テ イレテ

(C うん) とりあげて [新しく]入れ[かえ]て

マタ イレテ (C ンダ ンダ) ソシテ ホシテ ノマセテ

また 入れて (C そうだ そうだ) そして そして 飲ませて

ホッテ ノラサ イッテモンダヨ?

そして 野良[仕事]に 行ったものだよ。

407 C : ソマツナ ソダテカタ シタヨナー?

粗末な 育て方[を] したよね。

408 B : ハー カワイーソーダッタネ?

はあ かわいそうだったね。

409 C : イマガ ミタラ ソダテタンデ ネー、ソダッタンダワ↓。 {笑}

今から 見たら 育てたのでは ない、育ったんだよ。 {笑}

410 A : ソレ オレ イマー カンカ°エテル

それ 私[は] 今 考えている[のだけれど]

アノ X 6 ナー アノ X 7 ババカ° (C ー)

あの X 6 ね あの X 7 おばあさん[の子]が (C うん)

オレ アソコサ イッタラ オマエー ナクンダウェヨー↓。

私[が] あそこに 行ったら あなた [赤ん坊が]泣くのだよ。

(C ー) ホーシテ ハコ ユスツタツテ

(C うん) そして 箱[を] 揺すったって

ダメルサナ? (C ー) *****

//////// (C うん) *****

16↑17

チジ ノミタクテ ナグ ト オモッタラ ナーニ

乳[が] 飲みたくて 泣く と 思ったら なあに

コゴカ° (C *****)

ここが | 股のあたりを示して | (C *****)

北海道 17-2

グチャグチャニ ナッテ ネーテンノ ワガンネーデ
グチャグチャに なって 泣いているの[が] わからないで

コーヤッテ ユスッタモノー。
こうやって | 動作をしながら | 揺すっ[てい]た[のだ]もの。

411C : ナーニシテ アレ アノー
なんで あれ あの

412A : * * * * * アレ フケツナ マー
* * * * * あれ[は] 不潔な まあ

413C : トリカエテヤル ッテ ユー キモチ ナカッタモノダカ
取りかえてやる と いう 気持ち[が] なかったものだか

イソ {笑}
×× {笑}

414B : イソカ°シカラダネ?
忙しいからだね。

415C : イソカ°シカラ シナカッタモンカ
忙しいから しなかったものか

416A : イソカ° イソカ°シーカラ ソレデ トーッテタンダベ ミンナ。
××× 忙しいから それで 通っていたんだろう みんな。

417C : ミンナ ソーダッタカラ。
みんな そうだったから。

北海道 17-3

418 A : オシルニ トリカエルノ イー ホーダッタド。 オー
お昼に 取りかえるの[は] いい ほうだったぞ。 うん

419 C : オヒ ンー オヒルニ アケ°ルンダケド
×× うん お昼に とりあげるのだけれど

420 A : アサカラ バンマデ アンナー ゼンゼン アゲナイ シト
朝から 晩まで あんな 全然 とりあげない 人[が]

アッタ チュンダ。
あった というんだ。

421 C : ソーダ。(A ダガラ マー) オヒルニ イツカイ アケ°テ
そうだ。(A だから まあ) お昼に 1回 とりあげて

マタ バンマデ
また 晩まで

422 A : ソーユー ソダテカタ シタンダッテ マー
そういう 育て方[を] したのだって まあ

423 C : ナーndaッテ
なんだって

424 B : ウチワ ソンナ ソダテカタ シナカッタカラ↓。
うちは そんな 育て方[は] しなかったから。

425 A : シナカッタ
しなかった？

426 B : シー。

うん。

427 C : ウチラワ シタナ。

私は したね。

428 B : ハタケノ デナイカラ↓。(C シー)

畑の[=に] 出ないから。(C うん)

429 A : ソレダケ ユット (B エー) マー

それだけ 言うと (B ええ) まあ

430 C : ノーカデ ナイカラ

農家で ないから

431 A : ノーカドー、 ノーカデ ナイノ

農家と 農家で ないの[とでは]

サー アッタンダナ? (C シー)

差が あったんだね。(C うん)

432 B : セナカサ オンブシテー シゴト ジブンデ ヤロー ト オモエバ

背中に おんぶして 仕事[を] 自分で やろう と 思うと

ジャマン ナッテ デキナイカラ (C シー)

[子どもが]じゃまに なって できないから (C うん)

コンドモワ セナカサ オンブシテ アサガラ バンーマデ。

子どもは 背中に おんぶして 朝から 晩まで。

北海道 17-5

ソノカリ カタサ ショイドーシ ショッテ。(C アー)
そのかわり 肩に 背負いどおし 背負って。(C ああ)

ソンナン ショッテタラ アルカナク ナンデ
そんなに 背負っていたら [子どもが]歩かなく なるので[は]

ナイカー ッテ ユワ トナリカラ ユワレルタケ
ないか と ×× 隣[の人]から 言われるだけ

(C *****) (A ***)

(C *****) (A ***)

ショッテ シコ°ト シタンダ↓。{笑}
背負って 仕事[を] したんだ。{笑}

433 C : ウチラワ ハコサ イレテ ソンダテタナ? (B ン)
私は 箱に 入れて 育てたね。(B うん)

ソノ オヒルーニ イッカイ アケ°テ マタ パンワ
その お昼に 1回 とりあげて また 晩は

クラク ナッテ モー ハ オオ イソカ°シーモンダカラ。
暗く なって もう はあ ×× 忙しいものだから。

434 B : ソシタラ コドモ トシコ°ニ ナッテナ (A ンー)
そしたら 子ども[が] 年子に なってね (A うん)

ワタシワ (C ンー) フタリニ チチ ノマシタカラ
私は (C うん) [一度に]二人に 乳[を] 飲ませたから

北海道 17-6

(A ー) イヌダカ ネコダカ ワカンネー チュッテ
(A うん) 犬だか 猫だか わからない と言って

ジブンデ ハー モー ホンート カンカ°エタッタ。
自分で はあ もう 本当[に] 考えていた。

シトカッタネー↓。(C イーヤー ホンートダナー)
ひどかったね。(C いや 本当だな)

435 A : ムカシガラ アー テンキカ°ワリ アメカ° フツテクル、
昔から ああ 「天気変わり[で] 雨が 降ってくる、

セナカノ コカ° ナグ、(B・C {笑}) アー
背中の 子が 泣く、(B・C {笑}) ああ

ダイドコロデワ サカナカ° コケ°ル ツタ ッテ
台所では 魚が 焦げる」 と言った と

ユードモ {笑} ソレダケ イソカ°シク インコ°イアンタナ？
いうけれども {笑} それだけ 忙しく 動いていたのだね。

コトバ[62]ニ アッタワ↓。(B アー)
ことばに あったよ。(B ああ)

436 C : ホンートー イソカ°シー イソカ°シーンデ トーッテキタナ？
本当[に] 忙しい 忙しい[という]ので 過ごしてきたね

ワガイ トキダラ↓ (B ー)
若い 時なら (B うん)

北海道 17-7

イマノヨニ キカイ デルマデカ°
今のように 機械[が] 出るまでが

437 A : ソーシテ ホーシテ コノ シメシ ソノモノモ ドーダ
そうして そうして この おむつ そのものも どうだ

イマノ シメシト
今の おむつと[比べれば]

モンダイデ ナイベヤー。
問題で ないだろう[=問題にもならないだろう]

438 C : シメシ。 [笑] ホントニ ムカシノ シメシワ
おむつ。 [笑] 本当に 昔の おむつは

(A アレーニワ ワレワレ) ハンテン キタ
(A あれには 私たち) はんてん[を] 着た[あとの]

アレトカ。 (A ンー)
あれ[=布]とか。 (A うん)

439 B : ダッタワネ。
だったよね。

440 C : フトンノー、ネ？
布団のね。

441 B : アー フトンノ **** シタワネ？
ああ 布団の **** したよね。

442A : ナニホド ア シキシ[63] アテタ
どれほど ああ 当て布[を] 当てた

アツイ モノ カゲタガ ドーカ
厚い もの[を] かけたか どうか

443C : ナー↓ マックロナー モー ホント シロイー モノナンカ
ねえ 真っ黒な もう 本当[に] 白い ものなど[は]

ゼンゼン シナイモノ。
全然 しないもの。

444A : ホンデ アレ、 マタヤケ シナイデ コンドモ
それで あれ、 おむつかぶれ[も] しないで 子ども[を]

ソダテタ ツンダモノ マー イマノ コドモワ
育てた というんだもの まあ 今の 子どもは

445C : マタヤケモ ソレモ シナイ。 {笑}
おむつかぶれも それも しない。 {笑}

446A : ヨワイノカ
弱いのか。

447C : ナンチュガ (A アー) アノ ハコ イレテモ
なんというか (A ああ) あの 箱[に] 入れても

アノ コーユウ ワラブトン ツクッテ
あの こういう 薬布団[を] 作って

448 B : シー。アレデ ヨカッタンデ ナイカ？
うん。あれで よかったので[は] ないか？

449 C : オシメ シナイデ、オシメ タダ コー
おしめ[を] しないで、おしめ[を] ただ こう

モッコニシテ[64] (A シー) ソシテ アノー ワラブトンノ
当てただけにして (A うん) そして あの 藁布団の

ウエニ アケ^レテ オシッコ シタノワ シネン
上に あげて おしっこ[を] したのは 自然[に]

ワラブトンサ (A ココ トールワ)
藁布団に (A ここ[を] | 動作で示しながら | 通るよ)

トーッカラ アレ ヤケナカッタンデ ネーノ？
通るから あれ[で] かぶれなかったので[は] ないの？

450 B : シー コドモワナ？ (A *****)
うん 子どもはね。 (A *****)

451 C : イマノヨーニ ゴムカッパ シタラ ヤケルワ↓。
今のように ゴムカッパ[を] したら かぶれるよ。

452 A : シンダ シンダ ***** アー アー ヤケルカモシランナ？
そうだ そうだ ***** ああ ああ かぶれるかもしれないね。

453 C : アレ ワラブトン フタツモ ミッツモ ツクッテテ
あれ[は] 藁布団[を] 二つも 三つも 作っていて

オヒルニ アカッテキタラ ホレ アケテ (A ンー)
お昼に あがってきたら それ[を] とりあげて (A うん)

ワラブトン コンド トリカエテ (A {笑})
藁布団[を] 今度 とりかえて (A {笑})

ハタケ デテイグ トキナ? (A ンー)
畑[に] 出ていく 時[に]ね。 (A うん)

カワイタ ワラブトン、ニサ コ オシミー (A {笑})
乾いた 藁布団にね こう おしめを (A {笑})

イチマイ シイテ コシカケラセツカラ
1枚 敷いて 腰かけさせるから

ヤケナカッタモンダモンナ?
かぶれなかったものだものね。

454 A : ホデ マー スクスク スクスク ソダテツタンダガラナー↓。
それで まあ すくすく すくすく 育っていったのだからね。

(B・C {笑})

(B・C {笑})

17↑

北海道中川郡豊頃町1978注記

〔1〕 オツネン

「年を送り新しい年を迎える間」のことであるが、「冬中」の意で使われている。「年末の頃」の意の場合もある。

〔2〕 ムロ

室。野菜などを冬の間保存するために、台所の床下などに作ってある、特別の収納場所。

〔3〕 ムロイリ

「ムロイレ」(室入れ)の「レ」のエ母音が狭く、「リ」に近く聞こえる。

〔4〕 イマー

「イマー」(今)と聞こえるが、単に「マー」と言おうとしたのであろう。

〔5〕 イモ

馬鈴薯。ジャガイモ。北海道で「イモ」と言えば、馬鈴薯を指す。

〔6〕 ハー

間投的用法で、軽く感情を添える気持ちの表現。東北地方に多い。福島県相馬方言の名残であろう。

〔7〕 ブラグ

部落。集落。二宮地区内は、石神一・小川・久保など8つの小集落に分かれている。それらの小集落を指して言う。

〔8〕 ハンブン コシテガラ

「人生の半分を越した」という表現で、40歳くらいを過ぎてからのことを指している。

〔9〕 マーデ

「まるで」の「ル」が弱まって、「マーデ」と発音されている。総じて、ラ行音は弱まりやすく、促音・撥音・長音となったり、消失することもある。

〔10〕 ナント

「など」と言う時に、「ナント」をよく使う。福島県相馬方言の「ナンツォ」が持ち込まれたものであろう。

〔11〕 ダー

「ダガラ」（だから）の発音が弱くなって、「ダー」くらいに聞こえる。

〔12〕 ニセ

福島県相馬地方では、「ニセ」はボラの小さいものを指すようであるが、ここでは、酒の肴とか接待のごちそうを指すものと思われる。「ミセ」のようにも聞こえる。

〔13〕 ヤンドロク

宿の主人。新年会二次会の会場当番となった家の主人。

〔14〕 カタイ

堅実な。几帳面な。物事をいい加減にしないで、伝統を重んじ、誠実に行動しようとする考え方を言う。揶揄する気持ちはなく、むしろほめことばのようである。ここでは、そのまま「固い」を用いた。

〔15〕 パーリ

ジョッパリ。強情を張ること、または人。強情張り。

〔16〕 ダイユズリ

代譲り。息子夫婦に財産を譲って隠居すること。

〔17〕 オヤカ^カカリ

親がかり。結婚後であっても、まだ親から財産分与を受けずに、親の経済管轄下にある間のことを言う。

〔18〕 カルタトリ

かるた取り。百人一首遊びのこと。ただし、北海道では“下の句かるた”であって、下の句だけを読んで、下の句だけが変体仮名で書かれた木札を取る。3人で1チームを作り、ゲームを競う。

〔19〕 ノージョー

農場。二宮尊親が引率してこの地区に移住、開拓をしたので、尊親にちなんで「二宮農場」と呼ばれた。二宮地区の入口に、「これより二宮農場」の立派な標識が立っている。略して単に「農場」とも言われる。

〔20〕 ホービキ

宝引き。以下の談話中にあるように、数人が集まって人数分の紐を用意し、一人ずつ交代でその紐を引っばる。一つだけ「当たり」があって、

その紐を引き当てた人が賞金または賞品を全部受け取る仕組みの遊び。

〔21〕 ソーマ

福島県相馬地方を指す。二宮は相馬地方出身者による団体入植地。相互に交流もあり、二宮の人々にとって相馬は依然としてふるさとである。ことばも風習も相馬のものが持ち込まれ、継承された。

〔22〕 ショーキ°

将棋。「キ°」は「ジ」に近く、「ショージ」のように聞こえる。

〔23〕 イナボツキ

稲穂つけ。稲の豊穡を祈念して、餅で稲穂の形を作る小正月の飾り物。

〔24〕 ノーノハジメ

農の始め。正月11日の初耕式。屋敷の隅を二鋤三鋤耕すまねをして、幣^{ぬき}を立て、洗米・塩などを膳に載せて供え、そこでお茶を飲み、焼いた鏡餅を食べる。

〔25〕 タラブツ

俵物。俵をかたどった小正月の飾り物。

〔26〕 カセドリ

小正月の晩の行事の一つとして、福島県相馬地方から伝えられたもの。『相馬方言考 改訂版』（新妻三男，相馬郷土研究会，1973年）によれば，「旧正月十四日の行事。子供だちが「こんこん」と鼻をならして家毎にまはり，お年玉に餅や銭の恵を受ける。（中略）古来「かせぎどり」の略ともいひ，「かしどり」の訛ともいひ判明せず。或は枷取りか。枷（かせ，かし）は「わづらひ，ほだし」の意なれば，それを取除くといふ行事ではないか。」とある。以下の談話中にあるような，子どものできない家に云々といったことは書かれていない。

〔27〕 イロ

趣旨。意味。

〔28〕 トンプク°チ

戸口。家の玄関先の外側。

〔29〕 ソージュウ

「ソーユー」（そういう）の「ユー」が「ジュー」のように聞こえる。福

島県相馬方言の発音の特徴の一つ。相馬では、「ジェー」(家),「ジュギ」(雪)のような発音も聞かれた。

[30] オカ[°]タ

緒方か。温泉湯治の旅館名か。

[31] カド

節目。節句がおりおりの節目になっていることを、このように言い表した。

[32] ヘンカ ケァセバ

返事をすれば。「ヘンカ ケス」は「返事を返す」ことであり、普通、子どもが親に向かって「口答えする」の意で使われる。ここでは、声をかけられて名を問いただされても、それに返事をしさえすればいい、あるいは、「いただいてまいります」などと言えればいい、というようなことを言っている。

[33] モッテキランネー

カ変動詞は「コランネー」ではなく「キランネー」が使われ、一段活用化の傾向が観察される。

[34] キタハデ

来たので。「ハデ」「ハンデ」は、道南の一部および東北地方で使われる。福島県相馬方言が持ち込まれたものであろう。

[35] エンキ[°] イーカラ

縁起がいいから。お月見の晩に物を盗まれることは縁起のよいこととされた。

[36] モイワ

茂岩。豊頃町の中心地。役場があり、また商店などがある。二宮小学校から約10km。

[37] セツパンシタ

子どもを学校へ行かせはするが、あとは先生任せにしたことを、親と先生が責任を分け合ったということで、「折半した」と言い表したものか。

[38] エサ キテ

家に帰って。「家」を「エ」と言い、家へ帰ることを「来る」で表す。

〔39〕 コワク

「コワイ」は、「きつい」「疲れる」「くたびれる」の意。「恐ろしい」ことは「コワイ」でなく「オッカナイ」と言う。

〔40〕 フルシキオ シロケ[°]テ ホレコソ カバンダッタ

「風呂敷を広げて」と言いかけたが、自分の学校時代と違って、息子の学校時代にはすでにかばんになっていたことを思い出して、言い改めた。

〔41〕 ナンキンマエ

南京米。中国や東南アジアなどから輸入していた米の俗称。二宮ではのちに美田が広がるが、当時は米の入手が不十分で、「南京米」と呼ばれる輸入米を使っていた。

〔42〕 イモスイリダンコ[°]

イモすりだんご。生のジャガイモを煮てすりつぶしてだんごのようにしたもの。

〔43〕 イモモチ

イモ餅。ジャガイモの粉（でんぷん）に、米や粟などを混ぜ、ついて餅のようにしたもの。

〔44〕 イナキミ

いなきび（稲黍）。栽培して食用とした。

〔45〕 スヌク[°]ッテ

「スヌク[°]」とは、いなきびの穂から実を落とし、乾燥させることか。

〔46〕 ガッコーカラ ミズクミ

小学校のそばに水汲みのための共同井戸があった。そこから水を汲んで運んで持ち帰るのも、子どもの仕事の一つであった。

〔47〕 カケランプ

掛けランプ。天井から吊り下げて使うランプで、部屋全体の照明のために、電灯が普及するまで使われていた。灯芯には2分芯、3分芯、5分芯があった。

〔48〕 カンテラ

カンテラ。ブリキ製の携帯用照明器具。綿糸を芯として、石油などの油に浸して火をともした。ろうそくは貴重品で、電灯が普及するまで、ど

の家庭でも日常生活の必需品であった。

[49] テランプ

手ランプ。手で持ち回ることができるように作られたランプ。家中どこへでも持って回ることができるので、便利であった。

[50] ホヤミカ[°]キ

ほやみがき。ランプのほや（火屋）が煤で汚れるため、ランプの掃除には子どもの小さい手が大いに役に立った。「ホヤミカ[°]キ」は、子どもの毎日の大事な仕事であった。

[51] マテー、マテーニ

丁寧に。大切に。大事に。入念に。ここでは、大事に使うことから「儉約する」の意に用いている。東北地方で広く使われるが、福島県相馬方言由来の語であろう。

[52] コノマシクテ

うらやましくて。「コノマシー」は「うらやましい」の意。福島県相馬方言由来の語。

[53] ソソカシテ

ほぐして。「ソソカス」は「ほぐす」の意。糸のまわりをやわらかくして解きほぐすこと。福島県相馬方言由来の語。

[54] サシタビ

刺し足袋。厚い布を重ね合わせて細かく刺し縫いをし、補強した足袋。

[55] ヨナベバ

夜なべを。「バ」は目的を表す格助詞「を」に当たる。いくぶん強調的な表現。

[56] ツマコ[°]

つまご。藁で編んだ雪の時期の履物。

[57] モジョラコイテ

縄ないをして。「モジル」「モジョル」は、縄をなうことを表す動詞。名詞「縄ない」は「モジアワセ」と言う。

[58] インチコ

イチコ。えじこ（嬰兒籠）。藁製のかごで、中に乳児を入れておいたり、

飯櫃を入れて保温用とする。

[59] ヒ アイタラ

日が明けたら。産後の忌みが明けたら。生後30日ばかり経った頃、子どもを初めて神社参りに連れていく。

[60] ツッペ

北海道では「栓」の意で用いられることが多いが、ここでは「芯張り棒」のことであろう。乳児が勝手に外に出ないように、芯張り棒で閉めておいたのである。

[61] ヤショケニ

朝と昼の中間で「小昼飯」にあたることから、「夜食」と称したものか。あるいは、「あわただしく」「突然」「無理やりに」といった副詞であろうか。

[62] コトバ

伝承的な決まり文句。

[63] シキシ

当て布。四角い形をした継ぎ当て。衣類の破れたところ、あるいは弱ったところに当て布をする。形が色紙に似ていることから言う。

[64] オシメ タダ コー モッコニシテ

「モッコ」は「おしめ」の意と思われる。おしめをきちんと当てるのではなく、「おしめを簡単に当てただけにして」ということであろう。

Ⅱ. 青森県弘前市 1979

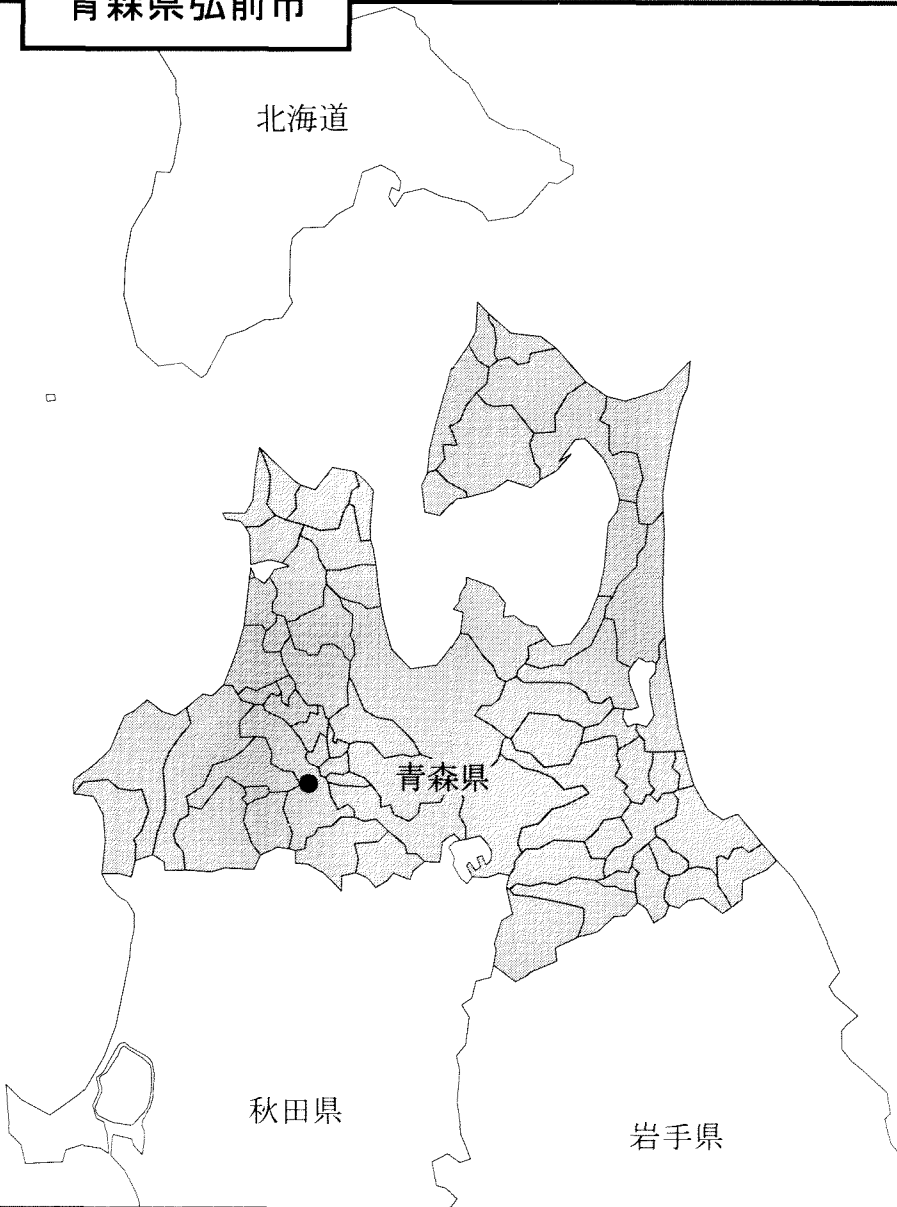
青森県弘前市

北海道

青森県

秋田県

岩手県



青森県弘前市1979話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	石場 キミ
	工藤 善衛
	成田 富登美
収録担当者	小寺 正剛
	佐々木 隆次
文字化担当者	佐々木 隆次
共通語訳担当者	佐々木 隆次
解説担当者	佐々木 隆次

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	成田 隆司
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

青森県弘前市1979解説

収録地点名

あおもりけんひろさき し わかどうちょう かめのこうまち
青森県弘前市若党町、亀甲町

収録地点の概観

位置

弘前市は、青森県中西部、津軽平野の南東寄りに位置する。若党町と亀甲町は、旧・弘前市内のほぼ西北部に互いに隣接している。

交通

弘前市は、青森市から南西へ約40km、奥羽本線で約1時間のところにある。また、市内には国道7号線が走っており、1979(昭和54)年には青森市との間に東北自動車道が開通した。若党町と亀甲町は、弘前駅から北西へ約2km、バスで亀の甲町停留所下車。

地勢

弘前市は、津軽平野の南端にあり、東に奥羽山脈の八甲田連峰、西に青森県最高峰の岩木山、南に秋田県にまたがる白神山地を望む内陸型地域である。また、市内北西には県内最大流域面積の岩木川が流れている。気候は、冬が長く夏が短い日本海型気候である。

行政区画

明治維新後、1889(明治22)年の市制施行により弘前市となり、1955(昭和30)年に中津軽郡清水村・和徳村・豊田村・堀越村・千年村・藤代村・新和村・船沢村・高杉村・裾野村・東目屋村を編入、1957(昭和32)年には南津軽郡石川町を編入し、現在に至る。

戸数・人口

1980(昭和55)年1月1日現在、弘前市の世帯数は51,900戸、人口は174,058人である。

産業

弘前市は、江戸時代初期から明治維新に至るまでの260年間、津軽藩の城下町であり、津軽地方の政治・経済・文化の中心として、指導的役割を果たしてきた。現在は、津軽平野の中心都市として、米・リンゴの集散地となっている。

また、市内には5つの大学があり、専門学校なども多く有する。公務員や会社員、商業に携わる人々が多い。

なお、若党町と亀甲町は、弘前城の大手門（通称・亀の甲門）を正面として、藩政時代から藩士の住んだ町であり、現在は、武家屋敷保存のため、弘前市仲町重要伝統的建造物保存地区になっている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

青森県のことは、東北方言のうち北奥方言に属し、西の津軽方言と東の南部方言に大別される。

弘前市のことは、いわゆる代表的な津軽弁であり、そのうちでも旧・弘前市内はその中核をなす。マスコミの発達で共通語の影響は多くなりつつあるが、まだ老年層には津軽弁の古態を保っている人が多い。隣接の南部方言の影響はきわめて少ない。

津軽方言地域内ではほとんど特徴に差はないが、青森市および津軽半島沿岸部では早い調子で乱暴な感じがあるのに対し、弘前市は一般にゆったりとした柔らかい感じである。特に女性にその傾向が強い。

音韻

- (1) 「イ」と「エ」が混同する。

イマ、エマ（今、居間）

トイ、トエ（樋）

ウエル、ウイル（植える）

- (2) 連母音の「アイ」「アエ」「オイ」「イエ」「ウエ」は「エァ」[e:]になることがある。

アゲァ（赤い）

カケァル（考える）

オセァ（遅い）

メァル（見える）

ヘァ、フエァ（笛）

- (3) 「シ」と「ス」は一般に区別がない。

スス (獅子, 寿司, 煤)

ハス (橋, 蓮)

- (4) 「チ」と「ツ」は一般に区別がない。さらに語中・語尾の「チ」は有声化して「ズ」となることが多い。

ツツ (乳, 土, 筒)

ツズ オヤ (父親)

マズ (町)

- (5) 「ジ」と「ズ」は一般に区別がない。

ズブン (自分)

コンズ (小路)

スンズ メ (雀)

ズカ° (図画)

- (6) 「セ」は「ヘ」になりやすい。

ヘン ベ (煎餅)

メヘ ヤ (店屋)

- (7) 「ヒ」は「ヘ」「フ」あるいは「ス」になることがある。

ヘ グ, フ グ, ス グ (引く)

ヘ トリ, フ トリ, ス トリ (一人)

- (8) 語中・語尾の「リ」「レ」は「エ」になることがある。

タエ ネア (足りない)

トエ ル (取れる)

アエ (あれ)

ダエ (だれ)

- (9) 「クウ」「グウ」「ク°ウ」, 「フエ」「フエア」「フィヤ」は老年層に残っている。

タエクウ (大火)

マグウ (真桑)

マク°ウ (漫画)

フエ (塀)

フェア, フェ (笛)

フィヤクテン (100点)

- (10) 語中・語尾のカ行音・タ行音は濁音になる。

カギ (柿)

カグレル (隠れる)

オドゴ (男)

マンダ (また)

オト (音)

- (11) 語中・語尾のガ行音は鼻濁音である。

クキ° (釘)

- (12) 語中・語尾のザ行音・ダ行音・バ行音に入りわたり鼻音が観察されることがある。

カンズ (火事)

エンダ (枝)

カンベ (壁)

- (13) 濁音が清音化することがある。

カンツカ ← カンジカ (鯀)

オンツサン ← オンジサン (おじさん)

- (14) 動詞の終止形・連体形の活用語尾「ウ」は「ル」になることが多い。

ヌル (縫う)

カル (買う)

- (15) 形容詞の終止形・連体形の活用語尾「イ」は消滅することが多い。

メンズラス (珍しい)

オガス (おかしい)

- (16) 形容詞の連用形の活用語尾「ク」は「フ」になることが多い。

アガフテ (赤くて)

クロフテ (黒くて)

- (17) 形容動詞の連体形の活用語尾「ナ」は「ダ」となる。

キレーダ, キレンダ, キレンダダ (きれいな)

ジョンズダ (上手な)

- (18) 長音・撥音・促音は完全に発音せず、標準語に比べて半分ほどの長さになることが多い。

トロ（灯籠）

クタ（食った）

文法

- (1) 普通は、主格・目的格の助詞を省略する。

クルマ アル（車 [が] ある）

ジェンコ モラタ（お金 [を] もらった）

特にとりたてて提示したり、強調したりする場合は、「バ」「ゴト」「キャ」「ダキャ」「バダキャ」を使う。

ワバ ボル（私を追う）

ワゴト スカル（私を叱る）

ワキャ ボラエダ（私は追われた）

ワダキャ スカラエネネ（私は叱られないよ）

ワバダキャ ボネネ（私を追わないよ）

ワサダキャ モテコネ（私には持ってこない）

- (2) 名詞に接尾辞（指小辞）の「コ」がつく。

ヤネコ（屋根）

イヌコ（犬）

モジコ（餅）

- (3) 可能表現は「ニエ」、不可能表現は「アエネ」の形式をとる。

クルニエ（来ることができる）

コラエネ（来ることができない）

- (4) 自発表現は「サル」を使う。

ヨマサル（〔自然に〕読める）

- (5) 現在の存在・継続の「である」「ている」は「テラ」「デラ」を使い、過去の存在・継続、過去完了の「であった」「ていた」「であった」「でいた」は「テアッタ」「デアッタ」を使う。

アッテラ（ある）

オエデラ（置いてある）

フッテアツタ (降っていた)

フト エデアツタ (人 [が] いた)

- (6) 形容詞・形容動詞の過去形は、それぞれ「クテアツタ」「デアツタ」を使う。

ネクテアツタ (なかった)

シズガデアツタ (静かだった)

- (7) 場所・方向を示す「サ」を使う。

エサ エル (家にいる)

ヤマサ エグ (山に行く)

- (8) 理由表現「ので」「から」は「ハンデ」「ハデ」「ドゴデ」を使う。

カタハンデ エ (勝ったからいい)

シベテエグダハデ (滑っていくのだから)

ゲダタドゴデ ユキ ツグ (下駄だから雪 [が] つく)

- (9) 仮定条件・確定条件は「バ」を使う。

カデバ モヘケドナ (勝つならおもしろいけれどな)

キサ ノボテレバ オヤ キテアテ シャベラエダ

(木に登っていると親 [が] 来たと言われた)

- (10) 逆接条件は「ケンドモ」「ケンド」「ケドモ」「ケド」「バツテ」「バテ」を使う。

アギダケンドモ アクビサエネ (飽きたけれどもあくびできない)

ワガネダケドモサ (わからないけれどもね)

スアエ エドゴマデ エグバツテ マゲル

(試合 [は] いいところまでいくけれど負ける)

- (11) 推量は「ベ」「ベー」「ビョン」を使う。

エッタベナ (行っただろうな)

ホンダベー (そうだろう)

ノマヘルンダビョン (飲ませるんだろう)

また、「エンタ」「ケンタ」を使うことも多い。

ムスダエンタ (虫のようだ)

ムスダケンタ (虫のようだ)

(12) 意志は「ペ」「ペー」「ベス」を使う。

ヌッテミルペ (乗ってみよう)

エグペー (行こう)

エグベス (行こう)

(13) 文末のことは標準語よりも数が多く、さまざまなニュアンスがある。

クルンダベサー (来るんだろうね)

ソレカ° ホントノ サガナエズバダノセア

(それが本当の魚市場なんだよ)

マネジャ (だめだよ)

エッタベナー (行っただろうな)

タエスタ キレンダダネ (たいへんきれいだよ)

ウレルンダノー (売れるんだよ)

ワノンダオン (私のだよ)

キレンデアッテエ (きれいだったよ)

キレンダ ワラスコデエ (きれいな子だよ)

スラネッキャ, スラネケア (知らないよね)

ヘドエモンダヨー (ひどいもんだよ)

ソヘバ マネド (そうするとだめだぞ)

ソヘバ マネヤ (そうするとだめだよ)

(14) 特有の敬語は少ない。そのほとんどは丁寧語である。これらはごく親しい者同士でも日常的に使っている。

アリス (あります)

アリセア (あります)

アリサネ (ありますよ)

ホンデス (そうです)

ホンデゴス (そうでございます)

ワエデゴエス (私でございます)

ホンデステス (そうでございます)

エギマス (行きます)

オギヘン (起きません)

ワエデゴエヘン (私でございません)

エネサ (いいですね)

エネスア (いいですね)

エネハ (いいですね)

カゲヘ (書きなさい)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。)

青森県弘前市1979凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

？ 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタンダナー↓

よく やったんだなあ。

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

× × × 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

///

〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//// 「文字」 なんですネ。

[]

〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

=

〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| |

〈全角〉

注意書きなど。

例：| A に対して |

[]

〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「青森18-1」は CD トラック番号が18で、その1ページ目ということである。「青森18-1」「青森18-2」……「青森18-4/19-1」……「青森33-3」の

ように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分のトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑18, 18↑19, ………32↑33, 33↑のように表示される。

第1巻のCD（73分32秒）には、青森県弘前市の談話、【弘前の昔の風物詩】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラック No.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
18	p. 160・ℓ . 1	p. 163・ℓ . 15	0:02:25
19	p. 163・ℓ . 17	p. 168・ℓ . 1	0:02:26
20	p. 168・ℓ . 3	p. 172・ℓ . 3	0:02:19
21	p. 172・ℓ . 5	p. 175・ℓ . 11	0:02:13
22	p. 175・ℓ . 13	p. 180・ℓ . 7	0:02:37
23	p. 180・ℓ . 9	p. 184・ℓ . 13	0:02:22
24	p. 184・ℓ . 15	p. 188・ℓ . 5	0:02:15
25	p. 188・ℓ . 7	p. 192・ℓ . 9	0:02:21
26	p. 192・ℓ . 11	p. 196・ℓ . 17	0:02:12
27	p. 196・ℓ . 19	p. 201・ℓ . 1	0:02:10
28	p. 201・ℓ . 3	p. 205・ℓ . 9	0:02:32
29	p. 205・ℓ . 11	p. 209・ℓ . 7	0:02:24
30	p. 209・ℓ . 9	p. 214・ℓ . 1	0:02:21
31	p. 214・ℓ . 3	p. 218・ℓ . 15	0:02:33
32	p. 218・ℓ . 17	p. 222・ℓ . 15	0:02:01
33	p. 222・ℓ . 17	p. 224・ℓ . 19	0:01:15
計			0:36:26

青森県弘前市1979談話

収録地点

あおもりけんひろさき し わかどうちょう かめのこうまち
青森県弘前市若党町，亀甲町

収録日時

1979(昭和54)年7月7日

収録場所

青森県弘前市亀甲町 話者C氏自宅

話題

弘前の昔の風物詩

話者

A	男	1911(明治44)年	(収録時68歳)	元・銀行員
B	男	1920(大正9)年	(収録時59歳)	元・会社員，自営業
C	女	1911(明治44)年	(収録時68歳)	自営業，主婦

調査者

男	(収録談話中に発話なし)
男	(収録談話中に発話なし)
女	(収録談話中に発話なし)

収録時間 (CD)

36分26秒

【弘前の昔の風物詩】

話し手

- | | | | |
|---|---|--------------|----------|
| A | 男 | 1911(明治44)年生 | (収録時68歳) |
| B | 男 | 1920(大正9)年生 | (収録時59歳) |
| C | 女 | 1911(明治44)年生 | (収録時68歳) |

- 1 B: ヘロサギーデモ サマザマダ コー オモスレア マ
弘前でも さまざまな こう おもしろい まあ

↑18

フーブツ テ ストラ[1] エガベガナ
風物 と 言ったら よいだろうかな

コー ** サマザマダ アノー モノウリダノテ
こう ** さまざまな あの 物売りだのといって

メンズラスノ アッタンデヘンガネスア。
珍しいの[が] あったので[は]ありませんか。

レー マ イー クー ハナスニ ナルパテ アノ
あれ まあ ええと 食べる 話に なるけれど あの

ロスヤノ アノ ムスメコデ ズテンシャノ ケツサ
ロシアの あの 娘で 自転車の 後ろ[の荷台]に

ハゴ ツケデー ソエゴト キレコデ コー クルンデー
箱[を] つけて それを 布切れで こう くるんで

青森 18-2

ナンテ サガブガド モッタキャ タベテ オエスイ
なんと 叫ぶかと 思ったら 「食べて おいしい」

アレァ ベッコーヤギ〔2〕ダケドモ {笑} イー
あれは ベっこう焼きだけでも {笑} ええと

(A ロスヤパンダナ) ロスヤパンデス アノー
(A ロシアパンだな) ロシアパンです あの

ナンタケナー イー ホラ メカ^カホンミンタ モンデ
なんと言ったかな ええと ほら メガホンみたいな もので

タベテ オエスイ イー ナン ナントガ テ
「食べて おいしい ええと ×× なんとか」 と

コー シャベテアッタデ ヘンガー。
こう 言っていたので〔は〕 ないですか。

2 A : アレ キョーダエダエノ フタリデア。
あれ 姉妹だよね 二人だよ。

3 C : オラホノ マズ〔3〕サ キスタガステー。
私の 町〔=浜の町〕に 来ましたかね。

4 A : エヤ スナカワマズ〔4〕ノ ホーネ エダンダ アレァ。
いや 品川町の ほうに いたんだ あれは。

アズダ。
あっち〔=品川町〕だ。

5 C : ハマノマズサダキャ コヘネア。
浜の町には 来ませんよ。

6 A : コネ。 ウー ア キレーダ ワラスコデア。
来ない。 うん ああ きれいな 子どもだよ。

7 C : ヤッパス オドゴンドテ オナゴ°ワラハンド
やっぱり 男たちって[いうのは] 少女たち[に]

ミニ ハエモンダナー。 オラダバ ***
目をつけるのが 早いものだな。 私なら ***

8 A : エヤ アノ ロスヤズンズノサ アノー ワゲア ムスメコノ
いや あの ロシア人というの[は]ね あの 若い 娘の

ドギ タダ キレンダダ モンデ ネネ。
時[は] ただ きれいな もので[は] ないよ。

トス エゲバ コンダ ブダブダド ナッテスマッテ
年[が] いくと 今度は ぶだぶだと なって[=太って]しまっ

マネケドモス (C ワエダケンタネスー {笑})
だめだけれどもね (C 私のようなだね {笑})

エーヤセア Cノ カーサンダケンナ
いや Cの おかあさん[=C]のような[のは]

チャナベコ[5]ダデバナ。
かわいらしいじゃないか。

マツマツ ナンバエモ フトグ フトグ ナッテ
もつともつ 何倍も 太く 太く なって

ブダブダド ナラネ ロスヤズンズノア。
ぶだぶだと なるね ロシア人というのは。

ムスメコノ トギァ キレンダデア アノ パンウリモ。
娘の 時は きれいだよ あの パン売りも。

ロスヤバン ウッテ キタ〔6〕 ヘトモ
ロシアバン〔を〕 売って〔=売りに〕 来た 人も

キレーンデアッテア。
きれいだったよ。

9 B : ** ナンダガサ ウリゴ°エコ アレー エー
** なにか 売り声〔が〕 あれは ええ

ゲンマエパンノ ホヤホヤダ テ
「玄米パンの ほやほやだ」と〔言って〕

ロスヤパンダ テ サガンデ クルンダエネスア。
「ロシアパンだ」と 叫んで 来るのだよね。

18↑19

ヘバ コンダ ホス フトア
すると 今度は 欲しい 人は

パン ケー パン ケー テ サガベバ ホラ
「パン〔を〕 くれ パン〔を〕 くれ」と 叫ぶと ほら

ズテンシャダモノ スク° トマエスデバ。
自転車だもの すぐ 止まるじゃないですか。

ヘバ コンダ ウスロノ キレコ アケ°デー フタコ
すると 今度は 後ろの 布切れ[を] 上げて ふた[を]

アゲデー ナガガラ ダスンダオン。
開けて 中から [パンを]出すんだもの。

ホントネ ホカホカテ ユケ° タズエンタ
本当に ほかほかと 湯気[が] 立つような

アノー コー イロノ クロエ パンダンダエネスア。
あの こう 色の 黒い パンなんだよね。

ニャ マ カテ クタ ゴドモ アルバテ
いや まあ 買って 食べた ことも あるけれど

ズブ メ ド モテ クエステア。
ずいぶん おいしい と 思って 食べましたよ。

10A：ナンニアサ パン メンダガサ ソノ ロスヤノ
なあに パン[が] おいしいのか その ロシアの

ムスメコガラ カウ キ ナッテ カウンダガ
娘から 買う 気[に] なって 買うのか

ソエダキャ ワガネンダケドモサ。
それは わからないけれどもね。

アノ ムスメッコニ ヘガレデ カッタンデサネ
あの 娘に ひかれて 買ったんですよ

ナンモ メ パンデ ネンデサネ ソレア。
なにも おいしい パンで[は] ないんですよ それは。

ロスヤノ クロパンダモノ メァ ワゲ ネベナ。
ロシアの 黒パンだもの おいしい わけ ないだろうよ。

オラダラ (C ドー) ズット オボエデルオン。
私は (C ××) ずっと 覚えているもの。

11C : ドーステ ソノ マンダ ロスヤズン エスタバ
どうして その また ロシア人[が] いたのですかね

ヘロサギネア。
弘前に。

12A : オレ ダエサ カダテキタンダガサ レア。
ほら だれに ついてきたのか ほら。

13B : エヤ トニカグ マ コセギア ナンモ ワガアネケンドモ
いや とにかく まあ 戸籍は なにも わからないけれども

フタリダガサ サンニン エデアッタオンネスア。
2人か 3人 いたものね。

14A : フタリデサネ ステ ソエサ オヤ ツデルンデサネ。
2人ですよ そして それに 親[が] ついているんですよ。

青森 19-4

オヤド サンニン キテルンデア ハハオヤド。
親と 3人[で] 来ているんだよ 母親と。

15C : オラ オボエデアンダバ スタハンデ ソスタ
私[が] 覚えているのは だから そういう

ガイズンテヘバ アンダダジ ズテンシャサ ノッタ
外国人というと あなたたち 自転車に 乗った

オーガミ[7]テ アッタベ シラネノ。
狼って[いう人が] いただろう 知らないの。

オナコ°ワラハンドダバ シラネッキヤ。
少女たちなら 知らないよね。

(A アレ アーユノワ ジュンスイ[8]セ ナ)
(A あれ ああいうのは 純粹よ な)

スタケンドモ ソレア ジョーセノ ガッコー[9]
だけれども それは 城西の [小]学校[を]

アダラスグ カイツグスル タメニ (A ウン)
新しく 改築する ために (A うん)

ワダシラ アノ ギンジュグ[10]ノ コヤサ (A ウン)
私たち[は] あの 義塾の 小屋に (A うん)

シャグヤネ エッタキャー。 (A ソー ソー ソー)
借家に 行ったよな。 (A そう そう そう)

青森 19-5

アノ モノオギノ デゴバゴデゴバゴド
あの 物置きの でこぼこでこぼこと[した]

アノ ド ドマサ ツグエ オエデ
あの × 土間に 机[を] 置いて

アノトギ スタハンデ X1ズ ソノ ガイズンノ
あの時[は] だから X1という その 外国人の

アノ センセガ エダンダデバス。 (A ソー ソー)
あの 先生が いたのではないですか。 (A そう そう)

アノコロノ ササモリジュンゾ[11]サマダバ サンジューダエノ
あの頃の 笹森順造様なら 30代の

ニャ ソーソータル フトデアッタナ。
いや そうそうたる 人であったな。

ショーカ°ッコーログネンノ トギダベ。
小学校6年の 時だろう。

ソレ カヨッタモンダデバス ギンジュグマンデ。
それ 通ったものではないですか 義塾まで。

(A ウンダ) スタハンデ ギンジュグノ オモエデテバ
(A そうだ) だから 義塾の 思い出というと

アノ ガッコノ ヘトダズ ナントナグ アノコロノ ヘト
あの 学校の 人たち なんとなく あの頃の 人[は]

ナツカスグ オモエダ エマデモ。

懐かしく 思えた 今でも。

19↑20

16A : シン ダヨ。 アノ コヤネ エデ
うん そうだよ。 あの [義塾の] 小屋に いて

ゲダ ハエデ ベンキョサヘラエダダオン。

下駄[を] はいて 勉強させられたんだもの。

アレ ガッコ デギルマンデダガラ アエ
あれ[は] 学校[が] できるまでだから あれ[は]

ロッカケ°ツク°レア エッタベナ。

6 か月くらい 行った[=通学した]だろうな。

17C : カヨッター。 (A カヨッタダオン) ソノトギネ
通った。 (A 通ったんだもの) その時に

X1ド (A シン ダ シン ダ エタンダ)

X1と[いう] (A そう そう そう 行ったんだ)

スト エデー ソレガラ コンド アノトギノ ギンジュグワ

人[が] いて それから 今度 あの時の 義塾は

ケンドーガ° ヘドエ アノー ケーゴデアッタヨー。

剣道が ひどい あの 稽古だったよ。

ガラスノ アノー マンドコガラ オラ ミンデランダオノッ。

ガラスの あの 窓から 私[は] 見ていたんだものね。

へバ ジュンゾサマ デデキテ
すると 順造様[が] 出てきて

ニャー エー オドゴデノ エマ オモッテモ。
いやあ いい 男[ぶり]でね 今 思い出しても。

スタキャ ソノ ジュンゾサマサー ナ ア
そしたら その 順造様に × ×

オヤガダ アッタキャ、 ニーサン
兄[が] あったよね おにいさん[の]

アサダダンシャグ[12]ス アノトギノ ダンシャグダ。
浅田男爵ですよ あの時の 男爵だ。

ソステ ジエアカ° ワガドーチョダキャ (A ソー ソー ソー)
そして 家が 若党町だよね (A そう そう そう)

スロイ ツリメンノ サンジャグ スメデ アルグ フト
白い ちりめんの 三尺[帯を] 締めて 歩く 人[が]

アルノサ エノ マエ。 (A ンー)
いるのね 家の 前[を]。 (A うん)

ドゴノ ダンナサマダベ ド モッタキャ
どこの 旦那様だろう と 思ったら

アサダダンシャグカ° ササモリノ ズッカサ アスブニ
浅田男爵が 笹森の 実家に 遊びに

キテランダ ト。 テ ジュンゾサマカ° キテ
来ているんだ と[いう]。 そして 順造様が 来て

アー X 2 ノ ズッチャド オラ
ああ 「X 2 の おじいさん[=Cの義父]と 私[は]

ガッコ エッショダオナ ッテ ジュンゾサマ シャベタノ
学校[が] 一緒だものな」 と 順造様[が] 言ったの

デギル フトデセア テ ナンボステモ マゲルンダ ド。
「できる 人でよ」 と 「どうしても 負けるんだ」 と。

サンジュツテバ エツモ X 2 ノ オズチャノ
「算術というと いつも X 2 の おじいさんの[=は]

フィヤクテンダ ド マンテン。
100点だ」 と 満点。

ナンボ カズ キ ナテモ カダエネデアッタンデー ッテ
「いくら 勝つ 気[に] なっても 勝てなかったんだよ」 と

ソノ エマノ カネカメ[13]ノ ドゴネ
その 今の カネカメの ところに

ズビン[14] サイショニ タッタ ドギ ナラッタンダ
時敏[小学校が] 最初に 建った 時[に] 習ったんだ

ッテ ショツチュ シャベテアッタンダ。
と[言って] しょっちゅう しゃべっていたんだ。

18A: ンダ。 オノ シャグヤニ エダ ズギー
そうだ。 私が 借家[=義塾]に いた 時

アノー エズバン サガンデアッタノワ ヤッパリ
あの いちばん 盛んだったのは やっぱり

ケンドーダオナ ギジュグワ。(C アー ケンドデアッター)
剣道だものな 義塾は。(C ああ 剣道だった)

アノトギ ホレ ギジュグニ エタ トギニ
あの時 ほら 義塾に 行った 時に

ニトーリユー ツカタダアーンデ。
二刀流[を] 使った人がいた。

ソレガ° ハカ°ヨスズローテ キョージュ アッタデショー
それが 羽賀与七郎という 教授[が] いたでしょう

ヘロダエノ アレ ギジュグノ エッキセーダオナ。
弘前大学の あれ[は] 義塾の 1 期生だものな。

ステ ニ ギジュグニ エダ トギガラ
そして × 義塾に いた 時から

ニトーリユーデアアッタンダズケンドモ
二刀流だったんだというけれども

ソノ ニトーリユーズ モノナ ッテ ミンデ
その 二刀流という ものはな と 見て

オモシェ モンダナ ド モッタリステナー。〔笑〕
おもしろい もんだな と 思ったりしてな。〔笑〕

アノトギ ホントニ サガンデアッタ ギンジュグワ。
あの時 本当に 盛んだった 義塾は。

20↑21

19C : サガンデアッタ。 ソノトギデハネ
盛んだった。 その時ですよ

ジャンコノ フト ホレ X 1 セア ゴト
田舎の 人〔が〕 ほら X 1 × を

グルグルハット テ スタノー。 ソノコロデスデバ
ぐるぐるハット と 言ったの〔は〕。 その頃ではないですか

マーズ センダイワー サイガワノ メーサン マコタロームス
まず 「仙台は 齋川の 名産 孫太郎虫」

テ アレ オボコノ ムスナオスサー
と〔言って〕 あれ〔は〕 赤ん坊の 虫治し〔の薬〕ね

ムス トルノ。 ガムスダケンタ モノ クスコサ
虫〔を〕 取るの。 蛾虫のような もの〔を〕 串に

トステサ アレ クンダエデ ノマヘルンダビョン。
通してね あれ〔を〕 砕いて 飲ませるんだろう。

アエ ムス オギルテバ オボコア
あれ〔は〕 虫〔が〕 起きるといって 赤ん坊は

青森 21-2

ミズオドス ガバット コー オカクマダガ ナニカデ
みぞおち[が] がばっと こう 横隔膜か なにかで

オサエルンデスベア ソヘバ コンド キ
押されるんでしょう そうすると 今度[は] 気[を]

ウスナツタミタイニ ナモ ショ ナグナルンデスベア。
失ったみたいに なにも 正気[が] なくなるんでしょう。

ソレゴト フセク° クスリダラスワ。
それを 防ぐ 薬らしいですね。

21A : アノ マコ°タロムス ウリニ キタ ズサマ ダイブ
あの 孫太郎虫[を] 売りに 来た おじいさん[は] だいぶ

ナカ°グ キタヨ。(C ナーケ°ァ ナケ°ァ ナケ°ァ)
長く 来たよ。(C 長い 長い 長い)

ダイブン トス エグマンデ
だいぶん 年[が] いくまで

オラダズ ブーット オボエデルモノー。
私たち[は] ずっと 覚えているもの。

21B : レー スカグダ (A ソーソ) ハゴコ ショッター
ほら 四角な (A そうそう) 箱[を] 背負って

ショッテデ ネーナ カンズデ ガバンダケエニ ステ カンズデ
背負ってで[は] ないな 担いで かばんのように して 担いで

青森 21-3

ソエガラ アノー マゴ°タロームステ カイダ アゲ ズデ カイダ
それから あの 孫太郎虫と 書いた 赤い 字で 書いた

アノ マ ツセー ノボリコセア ハダコ タデデ。
あの まあ 小さい のぼりよ 旗[を] 立てて。

ソエデ アノー スケ°カ°サ カプテー キエスタデバ。
それで あの 菅笠[を] かぶって 来たではないですか。

アエデ マンダ ホエ トス エッタ フトンドダバ
あれで また ほら 年[が] いった 人たちなら

ヨグ カッター ワラハンドサ ノマヘデアッタオナー。
よく 買って 子どもたちに 飲ませていたものな。

22A：オヤ オヤ ウッテ ウッテ カッタ モンデセア ミンナー。
おや おや うんと うんと 買った もんですよ みんな。

23C：アエデモ マンダ ウレルンダベノー マイートス クルンダヨー。
あれでも また 売れるんだろうね 毎年 来るんだよ。

24A：アノ ナカ°ネン キタモンダモノー。(C アー)
あの 長年 来たもんだもの。(C ああ)

デ ヤッパリ アノ マゴ°タロームス。
それで やっぱり あの 孫太郎虫。

ワダス ヤッパリ エンショーニ ノゴツテルノワ
私[が] やっぱり 印象に 残っているのは

マス カワンカネーダナー。 エズコ^ノ マスウリ
「鱒 買わなかね」だな。 越後の 鱒売り[を]

アンダダズ ワガネガ。 (B オナコ^ノバリ)
あなたたち[は] わからないか。 (B 女ばかり?)

メラハンドセア メラハンドバリダンダ。 ソステ テンビンサ
娘たちよ 娘たちばかりなんだ。 そして 天秤に

マス エレデ カズイデ カスリノ キモノコ キテ
鱒[を] 入れて 担いで 緋の 着物[を] 着て

アゲア オンビ スメデ マス ヨガンスカネ テ
赤い 帯[を] 締めて 「鱒 ようございますかね」と[言って]

アレホンド キタデバ ホカブリコ ステー。
あれほど 来たでは[ないか] ほおかぶり[を] して。

21↑22

アレ キ ツガネガナ。
あれ[は] 気[が] つかないかな。

アレ ズダイモ ズーイブン。
あれ[は] 時代も ずいぶん[昔のことでした]。

スナノカ^ワノ マスデスヨ。 エズコ^ノガラ キタノ。
信濃川の 鱒ですよ。 越後から 来たの。

カワマスセア。 ソエゴソ スオズゲニ スタノ モテキテー。
川鱒よ。 それこそ 塩漬けに したの[を] 持ってきて。

アレ オラタズ ズンブ
あれ[は] 私たち[が] ずいぶん

スタハンデ アノー オラダズノ オガズテバ
だから あの 私たちの おかずというと

マスト オツユド ダエゴダベ。(C サイコーダヨー)
鱒と おつゆと 大根だろう。(C 最高[のおかず]だよ)

ウー ソ ソレー サイコーノ アレダデバナ。(C アー)
うん × それは 最高の あれではないか。(C ああ)

アド ナンモ ネンダモノ。
ほか[は] なにも ないんだもの。

デ ガッコサ ベント モッテエグ テバ
それで 学校に 弁当[を] 持っていく というと

マスト ダイゴンズゲ モテエゲバ
鱒と 大根漬[を] 持っていくと

マ サガナデサネ マスダタテ。
まあ 魚ですね 鱒とはいっても。

サガナツユ モノワ キチヨーヒンデアッタデバナ
魚という ものは 貴重品だったではないか

ソノコロ ワレワレノ ツセア トギツユ モノワ。
その頃 私たちの 小さい 時という ものは。

ハダゲニデツァ デギダ モノバリ ヨゲ
畑に× できた ものばかり たくさん

クテルモンダドゴデ ホレー。
食べてるものだから ほら。

25B : ヤ マ マス クテバダキャ ドーステ ナンボガ
やあ × 鱒[を] 食べるといえば どうして いくらか

オーヤゲデ ネバ カエネンデセア。 (A {笑})
金持ちの家で ないと 食べられないですよ。 (A {笑})

スタテ タドエニ アリスタデバ。
だって たとえに あったではないですか。

オランドダバ レー ニスダノ イワステ ホラー コンダ
私たちなら ほら 鯨だの 鰯といって ほら 今度は

ツット エー ドゴ[15]ア アブラメダノ ナンダガサ コー
ちょっと いい ところは アイナメだの なにか こう

ダンナノ サガナド オ オランド サガナコド マ
旦那の 魚と × 私たち[の] 魚と まあ

エマダバ イワスア ズンブ タゲァ モンダケドモ
今なら 鰯は ずいぶん [値段の]高い ものだけでも

ニスンダケァ ホントニ メッタニ
鯨は 本当に めったに

カエネグ ナエスタデバー。
食べられなく なったではないですか。

26C：タドエニ アリサネ。
たとえに ありますよ。

スタハンデ ニスコ イワスコ ワダケ クダベ
だから 「鯧 鰯 私が 食べるだろう」

ソノマエニ アルキヤー。
その前に あるよね。

タイ ソイ アブラメ ダンナシュ ク。
「鰯 ソイ アイナメ 旦那衆[が] 食べる。

ニスコ イワスコ オラダキャ クー テ スンダモノ。
鯧 鰯 私が 食べる」 と 言うんだもの。

27B：ニヤ ホントニ ソスタ アノ アレー タドエ
いや 本当に そういう あの あれ たとえ[が]

チャント アタダエネスア。
ちゃんと あったのですね。

28A：エワスワー タイシューノ サガナデアッタオナー。
鰯は 大衆の 魚だったものな。

ナンボ トエダ モンダガサ ソレー。
どれだけ とれた ものか それ。

29B : ニャ マー マー アエデモ ワ オモスレー ド
 いや まあ まあ あれでも 私[が] おもしろい と

モッタノ アノ イワスウリー。
 思ったの[は] あの 鯛売り。

フター フター フター フター フター フター フター フター
 「一つ 一つ 一つ 一つ 二つ 二つ 二つ 二つ」

テ ンニャ ナンビギズズ ツカンデ
 と[言って] いや 何匹ずつ つかんで

アレァ カンジョスンダガ ワガネケンドモ
 あれは 数えるのか わからないけれども

ニャ マンズ ジョンズダモンダキヤー。
 いや まず 上手なものだね。

ソエデ チャント エズツズズ ホレー カダフタサ サンビギ
 それで ちゃんと 五つずつ ほら 片方に 3匹

カダフタサ ニスギー コー ハゴガラ コー ツカンデ レ
 片方に 2匹 こう 箱から こう つかんで ほら

フター フター フター フター フター フター フター フター
 「一つ 一つ 一つ 一つ 二つ 二つ 二つ 二つ

ア ミツヤー ミツヤ テ ホレ カンジョコステ。
 あ 三つ 三つ と ほら 数えて。

ヘバ マ イッセンニ カルニ ソノ ミツダンドバ
すると まあ 1 銭に 買う[の]に その 三つなのならば

ホラ ゴセンアデ カレバ イー ゴゴ°ニジュゴ テ
ほら 5 銭あて 買えば ええと $5 \times 5 = 25$ と

マ ニジューゴスギク°レア クルダンドビョン。
まあ 25 匹くらい くるんだらう。

ニャ アノ サガナウリ マンダ エギ エ モンデネスア。
いや あの 魚売り[は] また 活き[が] いい もんですね。

22 ↑ 23

30A : ヤ ムガス スタンデ ワトグ[16]ノ エズバサ エゲバ
やあ 昔[は] だから 和徳[町]の 市場に 行くと

アノ サガナウリンドバリ アズマルンダベ。
あの 魚売りたちばかり 集まるんだらう。

アレア ホントノ サガナヤダンデナ。
あれは 本当の 魚屋なのでな。

エマノ サガナヤズ モノ タンダ モテキテ
今の 魚屋という もの[は] ただ [魚を]持ってきて

コレ ナンボ コレ ナンボ テ。
これ なんぼ これ なんぼ と。

アノ エギ マメスボリノ ムゴーハズマギ ステ
あの 粹[な] 豆絞りの 向こう鉢巻[を] して

青森 23-2

ヤル ドゴ エッスンタスケセアナ。
やる ところ[は] 一心太助[のようだ]よな。

アー アスタエンタ モンデアタオン
ああ ああいう ものだったもの

ムガスノ エズバサ エゲバ サガナウリダテ
昔の 市場に 行くと 魚売りだと[いうと]

エギ ゲンキ エフテー ゲンキ エフテー
粹[で] 元気[が] よくて 元気[が] よくて

ソレガ° ホントノ サガナエズバダノセア。
それが 本当の 魚市場なんだよ。

エマダケァ ハー ナモ ゼンゼンナ
今は はあ なにも 全然な

サガナウリデ ネヤ サガナヤコ[17]ニ ナテスマテ
魚売りで[は] ない 魚屋こに なってしまつて

(B オロスヤデサネ)

(B [今は]卸屋ですね)

マネグナテ マネグ ナテマツタナ。
××××× だめに なってしまったな。

31B：オロヘバ エンダモノ ナンモ ホレ。
卸せば いいんだもの なんにも ほら。

32A : スタハンデ ヤッパリ ソノ ニスンデ アエダケンドモ
だから やっぱり その 鯨[の話]で あれだけれども

エマ ナンモ キセツ ネベ。
今[は] なにも 季節[感が] ないだろう。

ムガス ニスンテバ ハルサギノ ニスンテバ
昔[は] 鯨というと 春先の 鯨というと

ドーロ アリテモ アノ ニスン ヤグ ニオイコデ
道路[を] 歩いても あの 鯨[を] 焼く 匂いで

ニヤナツ アー アノ ハズニスン ハッテキタ テ
いやな ああ あの 初鯨[が] 入ってきた と

スク° ワガタモンダデバナ。 (B ニヤ マンダ)
すぐ わかったもんでないかな。 (B いや また)

エマ ナンモ マネオン。
今[は] なにも だめなもの。

33B : マンダ アレー アノ マンダ カンズノゴセア ンニヤ
また あれ あの また 数の子よ いや

アレァ マンダ ナンマンダデ レァ アノ アラテ ケバ
あれは また 生で あれは あの 洗って 食べると

マンダ コレァ マンダ メアフテアッタモンダオセネスア。
また これは また おいしかったものですね。

青森 23-4

トコロカ° コンダ ホラ アンマリ ヨゲ クナ ツ
ところが 今度は ほら あまり たくさん 食べるな と

スノ。 ヘバ ホラ ニスンノ アノ ハラサ
言うの。 すると ほら 鯨の あの 腹に

コー スロエ アレー ムスコ ハチュルンダエネスア。
こう 白い あれ 虫[が] 入っているんですよね。

ホラ ソレ ハテルドゴデ ナンマンダデ クナ ト。
ほら それ 入っているので 生で 食べるな と。

ニャ トコロカ° ソノ ナンマデ クー
いや ところが その 生で 食べる

アノ カズノゴノ アンズダバ
あの 数の子の 味は[おいしくて]

エマ カンズノゴ クタタテ マーデ ハー
今 数の子[を] 食べたとして まるで はあ

キノコバダケンタ モンダオン。
木の切りくずみたいな ものだもの。

34A：ンダベ。 ゼンゼン アズカ° ネケア。
そうだろう。 全然 味が ないよな。

カンズノゴ キチヨーヘンダタテ エマ クンダケア
数の子[は] 貴重品だとして 今 食べるなら

ナモ アズモ ナモ ネー。
なにも 味も なにも ない。

35C : ソノ カンズノゴア ホッカエドーガラ トエダ モンデ
その 数の子は 北海道から とれた もので

ヘンベネー。 (B {笑}) {笑} エマ サガナ
ないでしょうよ。 (B {笑}) {笑} 今 魚[は]

オーストリヤ[18]ダズガサテ ワ ガイコグノ
オーストラリアだとかいって 私[は] 外国の

ナマエ シャベレバ アレッ オアダズ エッタエ
名前[を] シャベると 「あれ 私たち[は] いったい

ドゴノ サガナ
どこの 魚[を食べてるんだろう]]][と]

マーンズ ソンデセア。
まず そう[いう具合]ですよ。

23↑24

36B : ニヤ ニホンデダバ ニスンテ スパテ ガイコグダバ
いや 日本では 鯨と 言うけれど 外国は

ヘバ ナンテ スタモンダベ。
すると なんと 言うもんだろう。

37C : ナーンテ ヘスベ。 ヤスナ ヨーキ°ダベサ エマ。
なんと 言うでしょう。 /// 養魚だろうね 今[は]。

アユデモ ニスデモ ズンコーテギニ
鮎でも 鯨でも 人工的に

フカサセデル モンダベサー
孵化させている ものだらうね

スゼンノ ニスダノ アユデ ヘンネ エマー。
自然の 鯨だの 鮎で[は] ないですよ 今は。

38B：ンダダベノー。
そうだらうね。

39A：ナンニモカモ ミナ カワタジャ。
なにかも みんな 変わったよ。

ハダハダテバ アノ プリコ[19]
鯨というと あの プリコ[を]

ガッツラガッツラガッツラテ カンダモンダデバナッ。
がつつらがつつらがつつらと かんだものではないか。

アノ アレ ナンモ ネアグナッテマツタンデ ホレ。
あの あれ なにも なくなってしまったんだよ ほら。

アノ ショユコサ ツケダ アノ ハダハダ。
あの 醤油に 漬けた あの 鯨[が]。

40C：アノ プーリダキャ ハー エグネバ カマエネ モンデセア。
あの プリコは 歯が よくないと かめない もんですよ。

(A ウン) オヤコーゴスタ アニ スタハンデサ

(A うん) 親孝行した 兄[が] だからね

バサマ プリ クテ テ
おばあさん[が] 「プリコ[を] 食べたい」 と

スタド。 エマダケニ エリバ ナンモ ネハンデ
言ったと[いうことだ]。 今のように 入れ歯[が] なにも ないから

バサマ バサマ オメ クネエゴスナ ッテ
「おばあさん おばあさん あなた 食べられますか」 と

ドレドレ ヤコグ ステヤー テ
「どれどれ やわらかく してやろう」 と

カンズッタ カスコ カヘダゼァ (A {笑})
かじった かす[を] 食べさせたよ (A {笑})

オヤコーゴダ ッテ {笑} ソロホンド プリズ モノ
「親孝行だ」 って {笑} それほど プリコという もの[は]

フダン オラダズノ クツサ ショッチュ ハイタ モンデヘセァ。
ふだん 私たちの 口に しょっちゅう 入った ものですよ。

41A：ハイタ ハイタ。 メクテ アノ スタズコ メンダンダ。
入った 入った。 おいしくて あの 煮汁[が] おいしいのだ。

42C：アレダテ ニル コツ アルノ。
あれだって 煮る こつ[が] あるの。

43B : マ テンポダアンタ ハナス スケンドモス
まあ とっぴなような 話[を] するけれどもね

オエノ ヘカ[°]レア チェッコスロバキヤニ エルワグス。
私の 息子は チェコスロバキアに いるわけですよ。

ソエデ オットス ホラ ヤスミ モラテ
それで おとし ほら 休み[を] もらって

アスミニ キタワゲダ ハズネンブリデ。
遊びに 来たわけだ 8年ぶりで。

ソエデ ママ ソノ トンズ クタ モノ
それで まあまあ その 当時 食べた もの[を]

テアダリスダエ クタケンドモ ブリコ ネンデタワゲ。
手当たりしだい 食べたけれども ブリコ[が] なかったわけ。

(A ネァグナテマタナ アレ ナ) スタケアス
(A なくなってしまったな あれ な) そしたらね

ブリコ デダラ オクテクロ テ ステァ ロ。
ブリコ[が] 出たら 送ってくれ と 言った ほら。

ソエデ コンダ デダ トギネ コンダ アノ ビニルノ
それで 今度は 出た 時に 今度は あの ビニールの

フグロサ ハイタ ブリコ フタフグロ カテキテ
袋に 入った ブリコ[を] 2袋 買ってきて

コークビンデ オクテヤエスタネ。 (A オー)
航空便で 送ってやりましたよ。 (A ほう)

ホレ トーガデ ツグドゴデ。
ほら 10日で 着くので。

ニャ スタキャ マフテアッタ ド。
いや そしたら おいしかった と。

24↑25

44A : アー スタア スタハンデ ホレ ムガスタバサー
ああ ××× だから ほら 昔ならね

ミンナ コー キセツカ° アッタデバナ。
みんな こう 季節[感]が あったではないか。

サガナデモ ク タベモンデモ ナンデモサ。
魚でも × 食べ物でも なんでもね。

アギニ ナレバ ナニ デル ハルサ ナレバ
秋に なんと なに[が] 出る 春に なんと

ナント デル ナズ ナンニ デル
なんと [=なにが] 出る 夏[は] なに[が] 出る

ソエガラ サガナニスロ ヤサイニスロ クダモノニスロ
それから 魚にしる 野菜にしる 果物にしる

ミンナ コノ キセツカンカ° アッテサ
みんな この 季節感が あってね

アギニ ナレバ カギ デデクルトガ テ
秋に なんと 柿[が] 出てくるとか と[いうのが]

アッタデショー。ソステ アノ エズカツガラ ズーット
あったでしょう。そして あの 1月から ずっと

ネ ネブタ[20] トッテ
× [夏の]ネブタ[を] 通って[=過ぎて]

オヤマサンケ[21] オワッテ ジョバツズ
お山参詣[が] 終わって じょうば槌[を]

タダグヨーニ ナル キセツニワ
叩くように なる 季節[=晩秋初冬]には

ナニカ° デギル キミア デギルツズガサ
なにが できる とうもろこしが できるとかね

キミノ ヤグ ニオイコ ス スルトガ ソーユーヨーナ
とうもろこしの 焼く 匂い[が] × するとか そうというような

エマノ ヨノナガ キセツカンツユノワ マツタグ
今の 世の中[には] 季節感というのは まったく

ナグナテスマッテ オモエデカ° ナグナルンダエナ。 ***
なくなってしまっ 思い出が なくなるんだよな。 ***

45B: ソエガラ モ フトツ アレー オモスレア
それから もう 一つ あれ おもしろい

ナ ナズニ ナレバ サ サルマワス キタキヤナ。
× 夏に なんと × 猿回し[が] 来たよな。

ヘバ ホラー ソゴアダリノ アノ ヨツカドデー
すると ほら そのあたりの あの 四つ角で

アノ ズサマ タエゴコ タダゲバ マンダ サルア
あの おじいさん[が] 太鼓[を] 叩くと また 猿は

マンダ サマジャマダ ゲー ヤテメヘデ アレー。
また さまざまな 芸[を] やってみせて あれ。

46A : ニャ アノ サルコ マンダ ジョンズダンダナー。
いや あの 猿[は] また 上手なんだな。

ツツチェ サルコダンデスヨ。 ツツチェ サルコデ トコトコテデ
小さい 猿なんですよ。 小さい 猿で トコトコといって

アノ タエゴコ タダゲバ ソノトーリ オド オドリコ
あの 太鼓[を] 叩くと そのとおり ×× 踊り[を]

オドッターリ テンブ ウッターリ〔22〕 スンダオナ。
踊ったり とんぼ返り[を] したり するんだものな。

アレ モー ホントノ アレア フーブツシデアエシタヨ
あれ[は] もう 本当の あれは 風物詩でありましたよ

コツツァ クル。
こっちへ 来る。

47B : マンズ マ ナンカ[°]ズニ ナレバ ナニア クル
 まず まあ 何月に なんと なにが 来る

ナンカ[°]ズニ ナレバ ナニ クル テ
 何月に なれば なに[が] 来る と

ソエガラ アノ アレー ワンツカ コー ヘロイ ドゴサ エゲバ
 それから あの あれ わずか こう 広い ところに 行くと

アノー スナズンデ アレー ツート コー ゲートコ ヤルズ
 あの 中国人で あれ ちょっと こう 芸当[を] やるのが

アノー アツタリ スタモンダケス。
 あの あったり したものだったね。

(A アレ スナテンズナセー)

(A あれ[は] 支那手品よ)

スナテズナテ ステアツタベナ。
 支那手品と 言っていただろうな。

48A : カンオカイサ ヨグ キタ スナテズナ。
 観桜会に よく 来た 支那手品。

アレー アノ キ キレゴト マナグサ サステ
 あれは あの × 錐を 目に 刺して

49C : アンタタズ カナ タダシテルネハ[23]。
 あなたたち 仮名[を] 正していますね。

オラダバ シナテンズマ[24]。(A {笑})

私なら 支那テズマ。(A {笑})

テンズナデ ヘナネ。 シナテンズマ キタ テ
テジナで[は] ないですよ。「支那テズマ[が] 来た」 と

スノス ウー。

言うのよ うん。

50A: テンズマダ。 テンズマダオナ。 ンダ。 アエ ジョンズデナ
テズマだ。 テズマだものな。 そうだ あれ[は] 上手でな。

(B ジョンズダ) オラ ビックリ スタナ。

(B 上手だ) 私[は] びっくり したな。

25↑26

51B: ニャ アノ ナケ[°]ァ カダナ ドヤテ ノムンズ
いや あの 長い 刀[は] どうやって 飲むんだろう

アリヤー。 ハテエグンデアナー。

あれは。 入っていくんだよな。

52A: キリデ マナグ ドンズグケスー
錐で 目[を] つつつくのです

スタケア アレダバ オシエダケ アレー。 ウッテ オヘバ
そうしたら あれは 教えたつけ あれ。 うんと 押すと

キ キリ ヘコムンダオ (B・C {笑})

× 錐[が] 引っこむんだもの。(B・C {笑})

アノ エッコノ ナガサ ハテエグノセ。 (B・C {笑})

あの 柄の 中に 入っていくのよ。 (B・C {笑})

ンデネバ マナグ ツブレデパナ。 (B・C {笑})

そうでないと 目[は] つぶれるじゃないか。 (B・C {笑})

ウッテ キレコ ズート ハテエグノセ
うんと[押すと] 錐[が] ずっと 入っていくのよ

ナンボ オツケデモ エンダンダ アリヤー。 {笑}

いくら 押しても いいのだ あれは。 {笑}

アエダバ テンズ アエダバ アエダバサ
あれなら ××× あれなら あれならね

タネアガス ステ スラヘスタネ。
種明かし[を] して 知らせましたよ。

(C {笑} テンズマダモノ タネコ タネコ アレスベネー)

(C {笑} 手品だもの 種[が] 種[が] あるでしょうよ)

ワ ムッタド ソノ トラック[25]ノ ソゴサ エテ
私[は] いつも その トラックの そこへ 行って

アレ スナテンズマ ミルンダエナー。 (B {笑})

あれ 支那手品[を] 見るんだよな。 (B {笑})

エッショケンメ ミダキャ
一生懸命 見たら[=見ていたら]

オシエダ。

[手品をしている人が私に]教えた。

ソノ キリデ マナグ ドズグダバ オスエスタネ。

その 錐で 目[を] つつくのなら [私に]教えましたよ。

53B : ソエガラ レァ タンケ° コー ニキ°リコズスミンタ アノ
それから あれは たいてい こう 握りこぶしみたいな あの

カネノ タマ ノンダリ スタケスー。

金属の 玉[を] 飲んだり したっけ。

54A : ウン ソエ カダナ ノムス ホレ。

うん それ[は] 刀[を] 飲むし ほら。

55C : ヘバ マサガ マンダ テンズマノ ソノ キリダケネ
すると まさか また 手品の その 錐みたいに

タマコ ツセアグ ナルンデ ヘンベア。

玉[が] 小さく なるので[は] ないでしょう。

56B : {笑} マサガナー ニャ ミンナサ メヘルンデセー。カ

{笑} まさかな いや みんなに 見せるんですよ。×

(C タネ アルサ) ンダベガナー。

(C 種[は] あるよ) そうだろうか。

(C ノンド ハバゲデ ドヘスー) (A {笑})

(C 喉[に] 入りきれないで どうします) (A {笑})

青森 26-4

ニャ ノンドアナ アレ オキグ ナルンダビョン。
いや 喉[の]穴[は] あれ[は] 大きく なるんだろう。

57C : ソレ トグベツ ナニガノ トギ ソスタノ
それ[は] 特別 なにかの 時[に] そういふもの[を]

モヨオス モノ クルンダベサー。(B ソンダ)
催す もの[が] 来るんだろうね。(B そうだ)

ヘバ フダンサ エマダケネ トラックモ ジンドシャモ
すると ふだんね 今のように トラックも 自動車も

ジョヨシャモ ナンモ アルガネ トギ
乗用車も なにも 通らない 時

ダズンツケ[26]ノ クルマノ オド ガラガラガラガラガラテ
駄賃付けの 車の 音[が] ガラガラガラガラガラと

ス ンマノ スンズ チャラチャラテ ナテ
× 馬の 鈴[が] チャラチャラと 鳴って

アスコ (B チャラチャラデ ヘナネー)
あそこ (B チャラチャラで ないですよ)

ガラガラ (B ガランガランド ナルンダサネ) アー。ソステ
ガラガラ (B ガランガランと 鳴るんですよ) ああ。そして

コンダ アスア ガッポガッポテ マノ アスオド スキヤー。
今度は 足は ガッポガッポと 馬の 足音[が] するよね。

ソノアイダネ アメウリ ピーピテ
その間に 飴売り[が] ピーピーと[呼び笛を鳴らして]

キタオン。
来たものね。

58B：トリコアメガー。
鳥こ飴かい。

59C：アー。 トリコアメダベネナ アノ コー タゲコノ
ああ。 鳥こ飴だろうな あの こう 竹の

ホソエンタ モンサ サギコサ ツケデ フーツテ
細いような ものに [その]先に つけて フーツと

コヤテ
こうやって | 口で吹くまねをしながら |

コンダ アドカラ コー ハネコ ツケダリ クツコ
今度は あとから こう 羽[を] つけたり 靴[を]

コー シュート コー ツケダリ シテー
こう シューと こう つけたり して

ソリヤ オモスロクテ オラ カネ エタモンダモノ。
それは おもしろくて 私[は] 買いに 行ったもんだもの。

26↑27

60B：ンニヤ マンダ レー ジョンズデ。
いや また あれ 上手で。

61C：イロコ ツケダヨー。

色[を] つけたよ。

62A：ソノ イロ ツケネバ トリコニ ナネベサ。

その 色[を] つけないと 鳥に ならないでしょう。

アレ フツツケルノセァ ヨシコデ。 フーッテ フクラバシテ
あれ 吹きつけるのだよ 葦で。 フーッと ふくらまして

アレ ホントネ ジョンズダモンダ。

あれ 本当に 上手なものだ。

ソステ トリコデモ ナンデモ コスラエデマル
そして 鳥でも なんでも こしらえてしまう

ドーブツデモ ナンデモダ。 イヌコデモ ブダコデモ
動物でも なんでもだ。 犬でも 豚でも

ナンデモ コサエデ イロコ ツケルンダンダ。
なんでも こしらえて 色[を] つけるのだ。

アザヤガダ モンデアッタナ。

鮮やかな ものであったな。

63C：ヨミヤネダキャ ネンデアエスタガ。(A ウン?) ヨミヤネ。

宵宮には なかったですか。(A ええ?) 宵宮に。

64A：ヨミヤテ オワ ハママズネ エスタネ

宵宮だって ×× 浜町に いましたよ

アノ トリコノ アメヤ。
あの 鳥の 飴屋[は]。

ソステ ヨミヤサデモ ドゴデモ ミンナ エグノサ。
そして 宵宮にでも どこでも みんな 行くのね。

ナンガ モヨオスモノ アレバ ドゴサデモ エグンダネ。
なにか 催し物[が] あると どこにでも 行くんだよ。

65C：ンデスベア。 (A ウン。アーノ) ソノ ホガネ
そうでしょう。(A うん。あの) その ほかに

ジャンコノ オドサマ[27] ウシロサ ハゴダケンタ モノ
田舎の 男の人[が] 背中に 箱のような もの[を]

ショテ ナケ[°]アー アメモ ウネ アリタヨ。
背負って 長い 飴も 売りに 歩いたよ。

(A ウン アレ アメセア。 {笑}) {笑}

(A うん あれ[が] 飴よ。 {笑}) {笑}

66B：ニヤ アエ (A アエ アメウリセア) アメノ アメウリノ
いや あれ (A あれ 飴売りよ) ××× 飴売りの

ナガデモ アレー アノ スキダシコ アゲデー ノー
中でも あれ あの 引き出し[を] 開けて ねえ

コヤテ[28] アノー ハシサ タグッテー コアッテ
こうやって あの 箸に たぐり寄せて こうやって

ネバラガステ ア アレア マンダ ヨダレコ ツケデ
くっつけさせて ああ あれは また つば[を] つけて

フバアダエナ アレー マー。
引っぱるのだよな あれは まあ。

67A: ソステ アレ ジョンズデナッ。アオー ウスグ
そして あれ[は] 上手でな。 あんなに 薄く

アレー (C {笑}) フッパター ステ コンド
あれは (C {笑}) 引っぱって そして 今度[は]

ハスコノ ドゴ コゴサ アレー
箸の ところ[=部分][が] ここに あれ

クルクルット マワレバ シュシュシュシュット コー デギルベー。
クルクルッと 回ると シュシュシュシュット こう できるだろう。

スタハンデ アメダケ アレー ナンボモ アノ ツデルンデ
だから 鮎は あれは いくらも あの ついてるので[は]

ネンダヨ。 ウスーグ ステ コー ハナコダケニ コー
ないんだよ。 薄く して こう 花のように こう

ツケ ツグルンダモノー アレー。 ソエゴト オランド
×× 作るんだもの あれは。 それを 私たち[は]

コステ ナメルンダー。(B・C {笑}) {笑}
こうして なめるんだ。(B・C {笑}) {笑}

68B：アレ カッテ ナー アレ アメウリセア。
あれ[を] 買って なあ あれ[が] 飴売りよ。

69A：コンド モヨコ ツケルノー トリコアメセア ソレ。
今度 模様[を] つけるのは 鳥こ飴よ それ[は]。

アーユノ ホラ ネアグナツツマツタダネ。
ああいうの ほら なくなってしまったんだよ。

70B：ソエデモ タンキリアメズ モノ
それでも 痰切り飴という もの[を]

ウニ アリテアッタケナー。
売りに 歩いていたっけな。

71A：ウン タンキリアメ アレア ベズセア。
うん 痰切り飴 あれは 別よ。

アレ ノド ツカエレバ マネ テ
あれ[は] 喉[が] つつかえると だめだ と[いって]

アレ タン アノ ナン ゼンソクケ アル フト
あれ[は] 痰[を] あの ×× 喘息気[が] ある 人[は]

ヨグ タンキリアメテ (B ウン)
よく 痰切り飴という[ものを] (B うん)

アノ カテ クテアエスタネ。 スタハンデ (C ソノ)
あの 買って 食べていましたよ。 だから (C その)

アメデモ ホレ エロエロ アルンダンダ。
飴でも ほら いろいろ あるんだ。

27↑28

チョセンアメ アルネ トリコアメ アルネ
朝鮮飴[が] あるね 鳥こ飴[が] あるね

ソレ エワユル コレコレノ アメ アル。
それ いわゆる これこれの 飴[が] ある。

72C : ソノ ホガネ マンダ アリサネ。 ベッコアメ。
その ほかに まだ ありますよ。 べっこう飴。

(A アッ ベッコアメモ アッタ) (B アー アー)
(A ああ べっこう飴も あった) (B ああ ああ)

ニカイデ タベレバ スタマデ オエス
「2回 [= 2 階] で 食べれば 舌 [= 下の階] まで おいしい

ナノガ タンベレバ エッシュカン オイシ テ。
7日 食べれば 1週間 おいしい」と[言って]。

(A・B {笑}) {笑} ベッコアメ テ スタノ。
(A・B {笑}) {笑} 「べっこう飴」と 言ったね。

73A : アノ ベッコアメワ マンダ アメノ シュルイ ツカ^oウンダ
あの べっこう飴は また 飴の 種類[が] 違うんだ

アレー エロコ ツデ レー ピタラット スタ ヤズデ。
あれは 色[が] ついて あれは ベツタリと した やつで。

青森 28-2

アレー (C アメイロコ アメイロ) アレセァ
あれは (C 飴色 飴色) あれ[は]ね

アメエロコダオン。 アゲァノモ アタ
飴色だよ。 赤いのも あった

アゲァ イロコ ツダリ ステ。 ソレカ° ホラ
赤い 色[が] ついたり して。 それが ほら

ナヌガ タベレバ エッシューカン オエスア テ {笑}
「7日 食べれば 1週間 おいしい」と[言って] {笑}

ベッコアメダ ワゲダ コリヤー。(B ニャ)
べっこう飴な わけだ これは。(B いや)

ニガイデ タベレバ スタマデ オエス テナ。
「2階で 食べれば 下まで おいしい」と[言って]な。

74B: ニャ ソノ ホガネ アレー アメコデ モ フトツ
いや その ほかに あれ 飴で もう 一つ

オモイダヘスタネー カダコアメテ アタキヤナ。
思い出しましたよ 型こ飴といって あったっけな。

アノー カダコ ツデ ステ コー アノー ソラ
あの 型[が] ついて そして こう あの それ

イダメネンデ コー カダコ トレバ
痛めないで[=形をくずさないで] こう 型[を] 取ると

アノー マンダ コー モラウネ エー アノ
あの また こう もらう[ことができる]ね ええ あの

カダコアメテ アノ サガナッコノ カダズ スタリ。
型こ飴といって あの 魚の 形[を] したり。

ソルダー アノ ソエデ コンダ ジョンズネ ト トレバ
そうだ あの それで 今度は 上手に × 取ると

ホレー マンダ ケルンダンダ。 ナガナガ ノー アレモ
ほら また くれるのだ。 なかなか ねえ あれも

マンダ ジョンズネ トエネンデ。
また 上手に 取れないで。

マ アメバリ シャベテモ ナンダバテ
まあ 飴[のこと]ばかり シャベっても なんだけれど

Aサンダズ アノー フユネ ベンジャ[29]ダナンテ
Aさんたち あの 冬に ベンジャなんか

ヤレハ ヤタ ゴト ゴヘンナ。
××× やった こと ございませんか。

75A: エーエヤ ソリャ ベンジャワ センモンカデサネ。 ベンジャ。
いやいや それは ベンジャは 専門家ですよ。 ベンジャ[は]。

Cサンモ ヤッタベ。
Cさんも やったろう。

76C : アノトギ オナコ[○]ベンジャ。

あの時[は] 女ベンジャ。

ベンジャネ カワリ ネノサ。

ベンジャに かわり[は] ないのよ。

サンプデスガ (A ウン) ゴンブ (A ウン)

3分ですか (A うん) 5分[ですか] (A うん)

アエ タガサ アタケサ (A ウン) ソステ

あれ[は] 高さ[が] あってね (A うん) そして

エズバン ヘグエノサ ベンジャノ アノ ドンダエテ

いちばん 低いのよ ベンジャの あの 土台といって

コ サンカグネ ナテルキャ。

こう 三角に なってるんだよ。

ソエサ アゲアー オ タデデモアタワゲ。

それに 赤い 鼻緒[を] すげてもらったわけ。

(B ウンダ ウダ) ソステ オドゴンドノ マネ ステ

(B そうだ そうだ) そして 男たちの まね[を] して

ヨゴネ ナテ シューテ コー ハケルワゲサ

横に なって シューッと こう 走るわけよ

77B : ソスタンジ ミンデ コンダ

そういうの[を] 見て 今度は

ジャッパダ オナコ°ダ ジャッパ オナコ°。
男まさりの 女だ[という噂がとんだ] 男まさり[の] 女。

(A ニャ ジャッパダダデバ) ソレモ モ ヘトリ アッタノ
(A いや 男まさりではないか) それも もう 一人 あったの

エズバン X 3 サン。
[ベンジャが]いちばん[うまいのは] X 3 さん。

(A アレナ ホー) アノスト ハイダハンデ
(A あの人か ほう) あの人[が] [ベンジャを]はいたから

ワダス マネ ステ ジス (A ベンジャガー) アイ。
私[は] まね[を] して // (A ベンジャかい) はい。

28↑29

78A: ベン ベンジャテノア マ エマダバ スケートダガ
×× ベンジャというのは まあ 今なら スケートとか

ナンダガテ スタテ ムガス ナッ コ コー
なんとかという けれど 昔[は] なあ × こう

マルグ ヤタ[30]モンダベ。
丸く やったもんだろう。

79B: ソエゴソ ソ ゼンマイダケンタ モンダデバナ
それこそ × ゼンマイみたいな ものではないか

(A エー ゼンマイミタイナノ) サギア アー
(A うん ゼンマイみたいなの) 先は ああ

80A : マエ サギ ハナベサ ソレ ゼンマイコダケンタノ マガサテ
前 先 鼻先に ほら ゼンマイみたいなのが 巻きついて

オラダズダバ スタハンデ ゴンブサ ノタンダ ソラ。
私たちは だから 5分[の]に 乗ったんだ それ。

タガサカ° ゴンブ ゴンブ ゴブノ ベンジャテ
高さが 5分 5分 5分の ベンジャといって

コー ナテルンダ。
こう | ベンジャの形を手で描きながら | なってるんだ。

ステ コンダ ハスガラ ノテクルンダダ
そして 今度は 橋から 乗ってくるんだ

ハス スコス タガクテアッタダ イワキカ°ワノ ハスカ°
橋[は] 少し 高かったんだ 岩木川の 橋が

サガニ ナルワゲダ。 アスコデ ナニホド
坂に なるわけだ。 あそこで どんなに

ノタモンダガサ ワガネジャ ベンジャダバ。
乗ったものか わからないよ ベンジャなら。

81B : ニヤ オランド アレー アノー エズバンチョー[31]ノ
いや 私たち[は] あれ あの 一番町の

サガネ エデ ヌッタモンダデアー。 ニヤ エマダバ
坂に 行って 乗ったもんだよ。 いや 今なら

サグラオドリダテ ナモ ケンドネ ナテマタバタテ
桜大通りだといって まったく 県道に なってしまったけれど

アコ アレー ムガス ツギアダリ ツギアダリテ
あそこ[は] あれ 昔 突きあたり 突きあたりといって

(A ツギアダリテバ ケサツダデバ {笑}) (C {笑})
(A 突きあたりという と 警察ではないか {笑}) (C {笑})

ニャー ソエデモ ホレー アオー アスンデデモ ナモ
いや それでも ほら あんなに 遊んでいても まったく

クルンズ ニクルマバリダベ マ タマーネ アラ
来るのは 荷車ばかりだろう まあ たまに あれは

ノレアエズドシャ アノ エー アサキダガデ ヤテアタ
乗合自動車[が] あの ええ 浅木とかで やっていた

アレー ノレアエズドシャズノ アエシタデバ。
あれ 乗合自動車というの[が] あったではないですか。

アレア マダ タマーネ エズニンズネ アエキヤ ナンカエモ
あれは また たまに 1日に あれは 何回も

ハケデルンデ ネン ド モタエノ。
走るので[は] ない と 思ったよね。

サー コンダ ソラ ベンジャ ハエデ
さあ 今度は ほら ベンジャ[を] はいて

ナワキレコ モテ ソノ ズドシャノ マ
縄切れ[を] 持って その 自動車の まあ

ソノドギダバ ナメァ ワガネンデアタバテ エマダバ
その時なら 名前は わからなかったけれど 今なら

シャベレバ バンバセ ホレ。アレサ ナワコ フカゲデ
言うと バンパーよ ほら。あれに 縄[を] 引っかけて

コンダ スタガラ ノボテキテ
今度は [坂の]下から 上ってきて

ウエガラ エグ トギダバ ダマテデモ
[坂の]上から [すべって]行く 時は だまっけても

シベテエグダハデ コンダ モドリアズノア
すべっていくのだから[いいが] 今度は 戻り[=帰り]というのは

ホラ サガ ノボテコネバ マネドゴデ
ほら 坂[を] 上ってこないと だめなので

ヘバ コンダ スタズサ フカゲデ
すると 今度は そうしたもの[=自動車]に 引っかけて

ニク°ルマサモ アレー ヨグ コー トツカマテー。
荷車にも あれは よく こう 取りつかまて。

82A：ウッテ オラダキャ ハマノマズア ニク°ルマバリダモンダモノ
うんと 私は 浜の町は 荷車ばかりだもんだもの

ムッタド アノ アレサ タズマッテ
いつも あの あれに つかまって

ハー ベンジャノ ベンジャノ ズギ アエサ
はあ ベンジャの ベンジャの 時 あれに

タズマテエグノセア。 アエノ ワラハンドワ ミンナ
つかまっていくのよ。 ああいうの 子どもたちは みんな

ロー ソーユー ゴト スタモンダ。
ほら そういう こと[を] したものだ。

29↑30

83B：ニャ マンズ ナンモ エマダキャ オメア
いや まず なにも 今は あなた

フエタネ オモデネ エデ スベタリ シウンダバ
下手に 表に 行っ て すべったり してるなら

(A チャー) ケカ^ノ モドダオン。

(A 大変だ) けがの もとだよ。

84A：ケカ^ノダバタテ エノズ ナグナルテ *** {笑}
けがならいいけど 命[が] なくなるって *** {笑}

トテモ アブナフテー ソドデアキャ アソバエル モンデ ネット。
とても 危なくて 外では 遊べる もので ないって。

85B：ニャ ソエガラ アレー オスロネ エデ
いや それから あれ お城[=弘前城]に 行っ て

スキー ヨグ ノレスタデバー
スキー[を] よく 乗った[=した]ではないですか

タイカイマデ ヤエスタデバ。
大会まで やったではないですか。

86A: ワ ソノ スキーデ エズバン オモエンデニ ナルノア
私[は] その スキーで いちばん 思い出に なるのは

トーモンカイ[32]ガラ スキー カエデキタノセア ノ。
東門会から スキー[を] 借りてきたのよ ね。

エマダバ アノ キューシャメンダノ アルンタケドモ
今なら あの 急斜面だの あるようだけれども

アコニ アマガジュ[33] アルデスヨ。 アマガジュー。
あそこに ケンボナシ[が] あるんですよ。 ケンボナシ。

アコノ コーキ°ヨコーコ[34]ノ サガノ ヘンダリニ
あそこの 工業高校の 坂の 左に

アマガンジュノ キ アエスデバ
ケンボナシの 木[が] あったではないですか

デッタダ キ。
大きい 木[が]。

ステ オラダズ ツセ トギ ハンズメデ
そして 私たち[が] 小さい 時 初めて

青森 30-3

スキーズ モノ ホラ キタ ズギダンデア
スキーという もの[が] ほら [入って]きた 時なんだよ

オーミナドヨーコーブ[35] デキタリサ ソノアダリ コンダ
大湊要港部[が] できたりね その頃[に] 今度は

トーモンカイガラ スキー カエデキタネー。
東門会から スキー[を] 借りてきたんだよ。

ナンモ ノレネカガリスト コンダ コゴデ フトツツ
全然 乗れないのに 今度は ここで 一つ

スツテミルベ ド モテ アマガジュ スツタノセア。
乗ってみよう と 思って ケンボナシ[のそばを] 乗ったのよ。

アマガジュノ キサ ドット ブツケダキャ
ケンボナシの 木に どっと ぶつけたら

スキー ボッキラド オエデ アエ コマツタナー。
スキー[が] ボキッと 折れて あれ 困ったな。

アエ マンダ モドスネ エグネヨ。 {笑}
あれ[は] また 戻しに 行くのによ。 {笑}

ヤー カダッポ オツツマツタエ。
やあ 片一方 折ってしまったよ。

アヤマネ エツタナー。 {笑} (C {笑})
謝りに 行ったな。 {笑} (C {笑})

青森 30-4

エマ ミレバ タダ コスタ サガコダンダエ ホレー。
今 見れば ただ こんな 坂なんだよ ほら。

ソエデモ ソノコロダバ キューダ サガダンダヨ ソレ。
それでも その頃なら 急な 坂なんだよ それ。

87B：イヤ ソエガラ アレー エマダバ モー プンカザイウンヌンテ
いや それから あれ 今なら もう 文化財云々といって

ダーモ ヌナ ヌナ テ サエル サエデ
だれも 乗るな 乗るな と ××× 言われて

ジェンゼン ヌヘヘンベ。
全然 乗せないでしょう。

オランド ワラハンド ズギダバ アノ
私たち[が] 子どもたち[の] 時なら あの

キューシャメン ヌルエネ ナネバ
急斜面[を] 乗るように ならないと

スキヌリダ テ サエネンデアッタデ ロ。
スキー乗りだ と 言われなかったんだ ほら。

88A：ンダ アスコ マンダ ヌリニグイ ドゴダンデサネ。
そうだ あそこ[は] また 乗りにくい ところなんですよ。

キューシャメン オリル トゴ エタテ
急斜面[を] 下りる ところ[は] いいけれど

スタサ エテガラ コエダペー。

下に 行ってから これ | ぶつかるしぐさをしながら | だろう。

アレデ アブネノセ。 ホリサ エグマンデノ アエダ。

あれで 危ないのよ。 堀に 行くまでの 間。

デンデンデンデンデンテ [36] エガネバ マネダ。

デンデンデンデンデンと 行かねば だめなのだ。

89B : ソエデデ スク°ド コンダ デンデンデンデンテ

それでいて すぐに 今度は デンデンデンデンと

エテガラ ホリダキャー。

行ってから 堀だよな。

ナーニ ミツクルイ スデバナ。 (A {笑})

なんと 水狂い する [= おぼれる] ではないか。 (A {笑})

マーマ ソエデモ アレー アコ ヌルエネ ナネバ

まあまあ それでも あれ あそこ [を] 乗るように ならないと

スキヌリダ テ サエネデアタデ 口。

スキー乗りだ と 言われなかったんだぞ ほら。

エマダキャ オメァ フェダネ コエンサ スキー

今は あなた 下手に 公園に スキー [を]

ハエデエグンダバ キマガエセァ。

はいていくと 怒られるよ。

90A : アー ソンデスガ。

ああ そうですか。

30↑31

91C : ア カンシュネカテ タエスタ サガバエデルンダヨ。

ああ 看守に たいへん しまられているんだよ。

(A アレ) スタハンデ ムガス ノタ

(A あれ) だから 昔 乗った[のに]

コ ワラハンドサ ナースネ オスロデ

× [今は]子どもたちに どうして お城で

ヌヘネンダベナ オゴルノー。

乗せないんだろうな[と] [子どもたちは]怒るの。

オラ ツセ トギ ノッタダモノゴト ホレ。

私[が] 小さい 時[は] 乗ったんだものね ほら。

92A : ヤー オラノ ツセ ズギダキャ ノヘダンダモノ。

いや 私の 小さい 時は 乗せたんだもの。

ドッカラ ノッテモ エフテアッタ。

どこから 乗っても よかった。

93B : ドゴ ノッテモ エンデサネ。

どこ[を] 乗っても いいですよ。

(A ドゴ ノッテモ エ)

(A どこ[を] 乗っても いい)

ソエガラ アレー カメノゴノ コゴノ ホリデー
それから あれ 亀甲[町]の ここの 堀で

シケート ノリスタデバー。 (C ソンダモナモス)
スケート[に] 乗ったではないですか。 (C そうだとも)

タイカイ ヤリスタデバー。 (C オエー[37]) アー。
大会[を] やったではないですか。 (C そのとおり) ああ。

(A ンダ スケート コゴ スタモンダ) アー。
(A そうだ スケート[は] ここ[で] 乗ったもんだ) ああ。

94C : アサマデモ コーリ ハタリ ステレバ ソゴノ X4ノ
朝でも 氷[が] 張ったり していると そのの X4の

コメヤノ X5チャ。 アノ オキー ヘデダベア
米屋の X5ちゃん。 あの 大きい 背でだろう

スケート ハエデ エマ シャベル ナン
スケート[を] はいて 今[で] 言う なに

エマダバ ナンテ ススバ
今なら なんと 言うのでしょうか

コー マカ°タリ コー アス コー アケ°ダリ
こう 曲がったり こう 足[を] こう 上げたり

コー アケ°ダリスト ハーデダ フトデアタハンデ。
こう 上げたりして 派手な 人であったから。

青森 31-3

スケート ジョンズデアタヨ アノスト。

スケート[が] 上手だったよ あの人。

95A : ウーン アレ タイショデ ヤッタンダベ。
うん あれ[=あの人][が] 大将で やったんだろう。

コノ ホリノ スケートワ。(C ターレ ヤッタンダベ)
この 堀の スケートは。(C だれ[が] やったんだろう)

X 4 ヤッテラ テ。
X 4 [が] やってる と[言って]。

96B : オランドモ ソ ソエサ カダテァ ヌツタリ スタモンダオン。
私たちも × それに 加わって 乗ったり したもんだね。

97A : オアダバ ホレ スケートダバ タゲベ。
私は ほら スケートなら 高いだろう。

ジェコ ネドゴデ ベンジャデ ネバ マエヘンナネ ホレ。
お金[が] ないから ベンジャで ないと だめなんですよ ほら。

スタハデ スケートワ ノタ ゴト ネノ。
だから スケートは 乗った こと[が] ないの。

98C : ベンジャサ ツマカワ ツデアエスタガー。
ベンジャに 爪皮[が] ついていましたか。

99A : ツデネース。(B いや) ナンモ ツケヘンジャ。
ついてないです。(B いや) なにも つけないですよ。

- 100 B : ツーダノワ (A アドダ ソレ)
 ついたのは (A あとだ それ[は])

ソラ ソエゴソ ウッテ アドデサネー。
 それは それこそ うんと あとですよ。

ソラ アス ツブテァカル ヤ トゴロカ
 それは 足[を] 冷たがる × ところが

アノ ツマカワ ツダンズ ハグンダバ マエネワゲ。
 あの 爪皮[が] ついたの[を] はくなら だめなわけだ。

ドーステ オメァ ベンジャズ モノア
 どうして あなた ベンジャという ものは

ツマカワデ スベル モンデ ネンダモノ。
 爪皮で すべる もので ないんだもの。

- 101 A : ゲーダダモノ。 サンカグダ ゲダサ カネ ツデ
 下駄だもの。 三角な 下駄に 金属[を] つけて

ヌルンダベァ。
 乗るんだろう。

- 102 C : オラダケァ シンパレ アシサ
 私は しもやけ[が] 足に

キエル[38]ドゴデサ
 切れる[=足がしもやけになる]からね

オエノ オヤ カチャタビゴト ハガヘダ。
私の 親[は] 裏返しの足袋を はかせた。

ワダ イレデ オモデド ウラノ アイダサ。
綿[を] 入れて 表と 裏の 間に。

ワダ ネンデ。ソレデ ベンジャ ノツタンダヨ。
綿[が] なくて。それで ベンジャ[に] 乗ったんだよ。

103A : オラダバ アノ サスター タンビダバ
私は あの つぎあてした 足袋なら

アエダケンドモ ソノ ワダ
あれだ[=はいたことがある]けれども その 綿[を]

イレダリ スタンタ タンビダバ ハエダ ゴト ネジャ。
入れたり したような 足袋は はいた こと ないよ。

104C : マワダ サット ヘレバ ヌグイモノ。
真綿[を] 薄く 入れると ぬくいもの。

アンマリ スンバレ キレデ。
あんまり しもやけ[が] 切れて。

31↑32

105A : サス サスタ タビバガリ オラ ハイダノセ。
×× 刺した 足袋ばかり 私[は] はいたのよ。

106B : ニャ アレ マンダ ベンジャ ヌルテバス
いや あれ[は] また ベンジャ[を] 乗るといってね

サスタ タビデ ネバ ドステ モデネモンダオン。
刺した 足袋で ないと どうして 長持ちしないものなもの。

107A : スタテ アノー エー タビダケ オラ ハゲネンダネナ。
だって あの よい 足袋は 私[は] はけないんだよな。

ハハオヤ ミンナ サ サステバリ ハガ
母親[は] みんな × 刺してばかり ××

イヤ マッコド フトズダンダハデ エ タビ
いや 馬と 同じなんだから よい 足袋[を]

ハエダエダケァ モデル ワゲァ ネーケンドモ
はいたといっても 長持ちする わけは ないけれども

ミンナ サスタ タビバリ ハイダオン。
みんな 刺した 足袋ばかり はいたんですよ。

アエ スタケドモ ハギコ°ゴツタバ エグネンデ
あれ[は] でも はき心地は よくないんだよ

エー タビノ ホ ウッテ ハギヤスندگان。
よい 足袋の ほう[が] うんと はきやすいんだよ。

スタハデ ケッキョグ ジェンコ ネドゴデ ホレ ハゲネドゴデ
だから 結局 お金[が] ないから ほら はけないので

ハハオヤカ° ミンナ。
母親が みんな。

青森 32-3

テ ワラハンドモ ヨゲデアタハンデナ。
そして 子どもたちも 多かったからな。

ドーステ アノ エ タビタキャ エッシュカンモ
どうして あの よい 足袋は 1週間も

ハガヘレバ ハー キスステマルベア。
はかせると はあ 切らしてしまうだろう。

ツンズグ モンデ ネテ。
続く もので[は] ないって。

スタハンデ マ アーユーヨーナノワ ナモ
だから まあ ああいうようなのは なにも

ネグナッツマッタダオンナ。
なくなってしまったものな。

108 C : ベンジャ ハグ トギ ナニ キモノ キテラ。
ベンジャ[を] はく 時 どんな 着物[を] 着ていた？

ズボン ネンデセア。
ズボン[は] ないんですよ。

109 A : キモノ キテラデバナ。
着物[を] 着ていたではないか。

ワダイリ キテラデバナ ミンナ。
綿入れ[を] 着ていたではないか みんな。

110C : ドンブグハンチャ〔39〕 キテ。
胴腹はんちゃ〔を〕 着て。

111A : ウン ハンチャ ハンチャワ ミンナ キタサ。
うん はんちゃ はんちゃは みんな 着たね。

112C : ワダイリノ。
綿入りの。

113A : ワダイリノ ハンチャ。
綿入りの はんちゃ。

114C : パンツ ハイデラー。
パンツ〔は〕 はいていた？

115B : ナステ ハゲスパー。
どうして はきますか。

116A : ナー ツセア トギ パンツダナンテ ソスタ ジャマクセ モノ
なあ 小さい 時〔は〕 パンツだなんて そんな じゃまな もの

ダー ハグ フト アルツセア〔40〕。
だれが はく 人〔が〕 あるものかよ。

117B : マッカ〔41〕 ワエダ モモスギダデバナー。 (A {笑})
股〔が〕 割れた 股引だよな。 (A {笑})

118C : {笑} メリヤスノガー。 オドゴンドダキャ マッカ
{笑} メリヤスのね。 男たちは 股引〔は〕

ハエデヘンジャー。
はいていませんよ。

119B : イヤヤヤ ワラハンドノ ズギダバ ミンナ ソンデサネ。
やあやあやあ 子どもの 時は みんな そうですよ。

スタハンデ カンジェ タツテクレバ ハド
だから 風[が] たってくると [=吹くと] 陰茎[が]

グット ツ ツマテスマルンダン。 (A・C {笑})
グット × 詰まってしまうんだよ。 (A・C {笑})

イヤ マーマ ウー
いや まあまあ うん

ズンブ スタケンドモ アソビモ サマジャマダ コー
ずいぶん だけれども 遊びも さまざまな こう

メンズラスー ゴト エマ オモエバ ホレー
珍しい こと[を] 今 思えば ほら

ナンボ アルガ ワガネ コレアキヤ。
どのくらい あるか わからない これは。

32↑33

120A : ンダナ。 シャベタタテ エマノ コドモダズダケア
そうだな。 シャべったところで 今の 子どもたちは

ワガネオン。
わからないよ。

121 C : エマノ オヤモ ワガネア。
今の 親も わからない。

122 A : ア ホンダベナ。 エマノ オヤモ
ああ そうだろうな。 今の 親も

123 C : ダーエズ ドンブグハンチャダノテ ムツタド
第一 胸服はんちゃだのって いつも

ガッコサ スンガッキニ ナエバ ミンナ
学校へ 新学期に となると みんな

アラタノ キヘルンデセア オヤ。
洗ったもの[を] 着せるんですよ 親[が]。

マエバケ° ヨナベ サネバ サネア マネンデセア。
前の晩[に] 夜なべ[を] ××× しないと だめなんだよ。

ダイエズ アギネ ナレバス ジョンバウズ
第一 秋に となるとね じょうば打ち[を]

サネバ マネンデサネ。
しないと だめなんですよ。

テオリノ フトンノ カカ°ミダベ スギフトンダベ
手織りの 布団の もようだろう 敷き布団だろう

ミンナ アラテ ノリ カデバ ジョンバウズダオン。
みんな 洗って 糊[を] つけると じょうば打ちだよ。

124 A : アレ ナツカスナ アノ ジョンバウズノ オドコナ。
あれ[は] なつかしいな あの じょうば打ちの 音ね。

ナー ミンナ ネレバ ミンナ
なあ みんな[が] 寝ると [じょうば槌を打つ音が]みんな

キコエデキテー ナー アレモ マンダ ヘトツノ アレア
聞こえてきて なあ あれも また 一つの あれは

タムロノ バニモ ナッテアッタソーダナ。 ザイッサ エゲバ
たむろの 場にも なっていたそうだな。 田舎に 行くと

メラハンド ジョンバウズ カツカツテ タダグドゴデ
娘たち[が] じょうば打ち[を] カツカツと 叩くので

コンダ ワゲ モンドア アーヤテ マ マメ モテエテ
今度は 若い 者たちは ああやって × 豆[を] 持っていって

ソレー ニデー タベナカラ アレー ジョバウズサ
それを 煮て 食べながら あれ じょうば打ちに

テズネァネ キタリ ステ ヤテルンダズオナ。
手伝いに 来たり して やっているんだそうだね。

エマ セバ ソーユノワ ナン ゼンゼン
今[は] そうすると そうというのは ×× 全然

オモエデワ ナグナツタ。
思い出は なくなった。

青森県弘前市1979注記

〔1〕スタラ

言ったら。「ス」を「言う」の意で使用するの、津軽ではごく一般的用法。

〔2〕ベッコーヤギ

べっこう焼き。飴をべっこう状にかたどったもの。

〔3〕オラホノ マズ

私の町。ここでは、話し手C氏の出生地である弘前市街の浜の町を中心とした町内を指す。

〔4〕スナカワマズ

品川町。弘前市街の町名で、繁華街に近い。

〔5〕チャナベコ

かわいらしい。「チャナベ」は「どんぐりの実」。「コ」は指小辞（接尾語）。つまり、「チャナベコ」は「小さいどんぐりの実のようだ」と形容したもの。

〔6〕ウッテ キタ

一般的には、「売りに来た」は「ウルニ キタ」と言う。「ウッテ」の「テ」は言いまちがひ。

〔7〕オーガミ

外国人で、長髪のためついたあだ名。

〔8〕ジュンスイ

混血でない外国人。

〔9〕ジョーセノ ガッコー

弘前市立城西小学校。

〔10〕ギンジュグ

弘前市にある私立東奥義塾。現在、中学校と高等学校がある。藩政時代は津軽藩校で「稽古館」と呼んだ。

〔11〕ササモリジュンゾ

笹森順造。1886(明治19)年～1976(昭和51)年。哲学博士。弘前市若党町

出身。旧・弘前藩士の笹森要蔵の六男。1922(大正11)年～1940(昭和15)年、東奥義塾長就任。1946(昭和21)年以後、衆議院議員、参議院議員等各種の要職についた。

〔12〕 アサダダンシャグ

浅田男爵。本名は浅田良逸。1879(明治12)年～1958(昭和33)年。弘前市若党町出身。笹森要蔵の五男。笹森順造の兄。東奥義塾卒業後、陸軍士官学校入学、その後少尉に任官した。のちの陸軍大将男爵浅田信興に見込まれ、その養嗣となる。1927(昭和2)年、襲爵し、1929(昭和4)年、中將に昇進、同年東京湾要塞司令官を最後に退役。1941(昭和16)年から東奥義塾長に就任し、1946(昭和21)年辞任。

〔13〕 カネカメ

屋号。弘前市亀甲町の中村醸造店。

〔14〕 ズビン

弘前市立時敏小学校。

〔15〕 ツット エー ドゴ

ちょっといいところ。ここでは、「程度のよい家庭」の意。

〔16〕 ワトグ

和徳。弘前市街の町名。

〔17〕 サガナヤコ

「コ」は指小辞だが、ここでは小ばかにしたような意味を持たせて使っている。

〔18〕 オーストリヤ

「オーストラリア」の誤り。

〔19〕 プリコ

鱒（ハタハタ）の卵。

〔20〕 ネブタ

現在は「弘前ネブタ祭り」（期間8月1日～7日）と称している。

〔21〕 オヤマサンケ

お山参詣。「ヤマカゲ」とも言う。旧暦の8月1日に村ごとに岩木山へ集団登拝して、平穏無事と豊作を祈願する行事。津軽の年中行事の一つ。

- [22] テンブ ウツタリ
とんぼ返りをしたり。古老間では「とんぼをうつ」の「とんぼ」を「テンブ」と言うのが普通。
- [23] カナ タダシテルネハ
仮名を正していますね。「仮名を正す」とは「標準語的に発音が明瞭である」こと。話者たちが生徒であった頃、標準語の発音をすると「カナタダステル」とむしろ軽く揶揄したという。
- [24] テンズマ
「テズマ」(手品)の「マ」は「ナ」と同段通音。当時の人々はもっぱら「テズマ」と発音した。
- [25] トラック
トラック。ここでは、弘前城郭内にある陸上競技場のこと。
- [26] ダズンツケ
駄賃付け。馬に荷をつけて運ぶこと。また、馬に荷をつけて運ぶ人。
- [27] オドサマ
主に農家の30～50歳の男の人を指して言う。
- [28] コヤテ
話し手C氏が棒に鉛を巻きつけるまねをしている。また、話し手B氏もそのしぐさをしている。
- [29] ベンジャ
昔、当地雪国で流行した雪上をすべるスケートの一種。足をのせる台は下駄状だが、下部は船底の形をして最下部には鉄の棒をはめこんである。弁財船の形に似ているため「ベンジャ」と言う。
- [30] マルグ ヤタ
ベンジャの底部の鉄は先端でゼンマイ状に丸くしてある。
- [31] エズバンチョー
一番町。弘前市街の町名。繁華街の中心地。
- [32] トーモンカイ
東門会。当時の早起き会であり、野球などのスポーツを行った。

- [33] アマガジュ
ケンボナシ（玄圃梨）。この木の花序の枝は肉質が太くなって、初冬の頃地上に落ちる。甘味が強いため子どもたちは拾って食べたようである。
- [34] コーキョコーコ
弘前工業高校。このあたりの坂を「新町坂^{あらまちざか}」と言う。
- [35] オーミナドヨーコーブ
大湊要港部。青森県むつ市大湊。以前、軍港があった。現在は海上自衛隊の基地がある。
- [36] デンデンデンデンテ
凸凹の激しい斜面をスキーで乗る際の擬態語。
- [37] オエー
かけ声的なもの。「そのとおり」は意識である。
- [38] シンパレ アシサ キエル
当地では「しもやけになる」ことを「シンパレ キレル」と言う。皮膚が切れた状態になるため「キレル」を使う。
- [39] ドンブグハンチャ
胴腹はんちゃ。綿入りの袂付きの羽織。襠がなく衿を折らずに立てて黒衿をつけたもの。
- [40] ダー ハグ フト アルツセア
だれがはく人があるものかよ。「フト」（人が）は余分な表現に見えるが、当地では「ダー ～スル フト アルゼア」（だれが～する人があるかよ）は慣用的表現である。
- [41] マッカ
「股」や「股引」など、二股状になっているものを言う。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)

②老年層の男性2人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性2人の対話、または、老年層の女性3人の会話（1時間）

④老年層と若年層との対話、または、両者を含む3人の会話（1時間）

⑤老年層の男性2人の、目上の者と目下の者の対話（2時間）

⑥場面設定の対話（1時間、各場面につき1～3分程度）

場面に応じて、老年層の男性2人の対話、または、老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、

⑧老年層の女性2人の、目上の者と目下の者の会話、（1時間）

または、

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2人の対話（1時間）

を収録する。

①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言の内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楳法華村(→函館市)
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

青森県

- 02a 下北郡川内町 (→むつ市)
- 02b 北津軽郡市浦村 (→五所川原市)
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町 (→栗原市)
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村 (→仙北市)
- 05d 河辺郡雄和町 (→秋田市)
- 05e 湯沢市

山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村 (→常陸太田市)
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村 (→鹿嶋市)
- 08e 古河市

栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町 (→佐野市)

群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町 (→旭市)
- 12b 印旛郡印西町 (→印西市)
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町 (→佐渡市)

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村 (→南砺市)

石川県

- 17a 羽咋郡押水町 (→宝達志水町)

福井県

- 18a 坂井郡芦原町 (→あわら市)
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町 (→南越前町)
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韭崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曽郡開田村

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村 (→揖斐川町)

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町 (→川根本町)
- 22c 磐田郡水窪町 (→浜松市)
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村
- 24b 阿山郡阿山町 (→伊賀市)
- 24c 志摩郡阿児町 (→志摩市)
- 24d 北牟婁郡海山町
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町 (→高島市)
- 25c 神崎郡能登川町
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町 (→甲賀市)

京都府

- 26a 中郡峰山町 (→京丹後市)
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町 (→朝来市)
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

- 31a 鳥取市
- 31b 米子市
- 31c 日野郡日野町

島根県

- 32a 仁多郡仁多町 (→奥出雲町)
- 32b 出雲市
- 32c 浜田市
- 32d 隠岐郡西郷町 (→隠岐の島町)
- 32e 隠岐郡西ノ島町

岡山県

- 33a 勝田郡勝央町
- 33b 新見市
- 33c 岡山市
- 33d 小田郡矢掛町
- 33e 笠岡市

広島県

- 34a 三次市
- 34b 府中市
- 34c 広島市
- 34d 因島市
- 34e 安芸郡倉橋町 (→呉市)

山口県

- 35a 萩市
- 35b 大島郡大島町 (→周防大島町)
- 35c 徳山市 (→周南市)
- 35d 美祢市
- 35e 豊浦郡豊北町 (→下関市)

徳島県

- 36a 鳴門市
- 36b 阿南市
- 36c 美馬郡脇町 (→美馬市)
- 36d 海部郡海南町
- 36e 三好郡東祖谷山村

香川県

- 37a 小豆郡土庄町
- 37b 木田郡三木町
- 37c 丸亀市
- 37d 仲多度郡多度津町
- 37e 観音寺市

愛媛県

- 38a 越智郡大三島町 (→今治市)
- 38b 西条市
- 38c 松山市
- 38d 大洲市
- 38e 宇和島市

高知県

- 39a 室戸市
- 39b 高知市
- 39c 高岡郡檜原町
- 39d 幡多郡三原村

福岡県

- 40a 北九州市
- 40b 遠賀郡芦屋町
- 40c 築上郡新吉富村
- 40d 飯塚市
- 40e 嘉穂郡稲築町
- 40f 福岡市
- 40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町 (→唐津市)

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町 (→壱岐市)

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町 (→新上五島町)

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町 (→阿蘇市)

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村 (→日田市)

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡穎娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

47b 那覇市

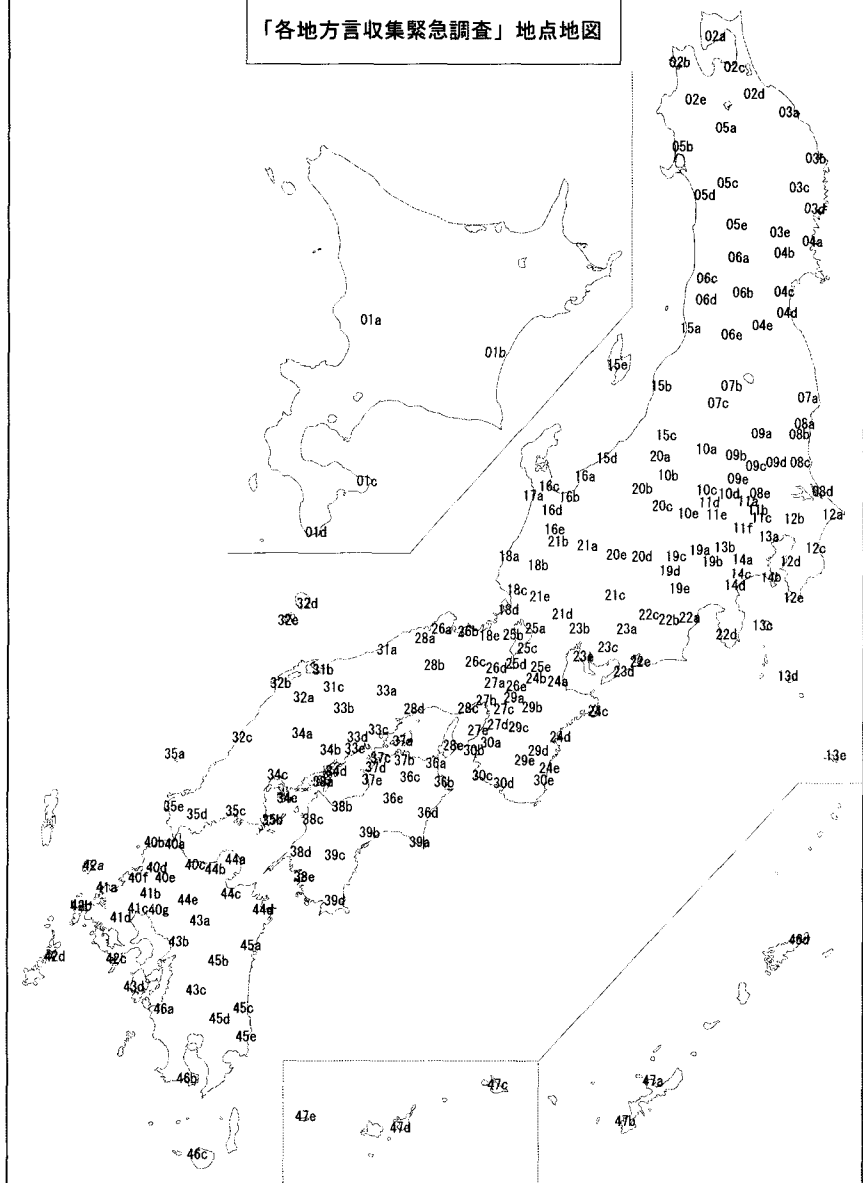
47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

(2005.09.30.作成)

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2004. 06. 30. 作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日
文化庁長官裁定
(昭和62年6月1日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。

ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説明
各 地 方 言 収 集 緊 急 調 査 事 業	主 た る 事 業 費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	調査員、調査補助員等謝金
				旅費	資料
				需用費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会 郵便、電信電話料等
				役務費 使用料及び賃借料	
				委託料	事業の一部を委託して実施する場合(特に認められた場合に限る)
				〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金 普通旅費 費用弁償 特別旅費 消耗品費 印刷製本費 会議費 通信運搬費 会場借上料 器具借上料 〇〇委託費	

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年 7月28日

文化庁次長 決 裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

- (1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話
- (2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話
- (3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話,又は,男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話,又は,老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話,又は,老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは、2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・ 正……収録した生のテープ 1部
- ・ 副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・ 正……手書き原稿 1部
- ・ 副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

NO. 正 <u> </u>	
(副) <u> </u>	
○ ○ 県	各地方言収集緊急調査録音記録票
補助要項 の記号	
1 採録地点	
2 採録年月日	
3 話題・時間	A面 () 分
	B面 () 分
4 話者	
5 採録機種	

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説(初年次のみ)、(3)録音文字化原稿の順で表紙(B4板目紙)を付けて綴ってください。

○	○
〇〇県(昭和 年度)	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
(正)	
又	
は	
副	
調査地点	〇〇〇〇

(3) 文字化原稿の用紙

- | | |
|------------|------------|
| ① 録音内容記録票 | } (別紙のとおり) |
| ② 方言資料割付用紙 | |
| ③ 方言調査解説用紙 | |

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1 年次	① 老年層の男女各 1 人による対話、又は、男女を含む 3 人の会話（ア－(1)）	10	2
	② 老年層の男性 2 人の対話、又は、老年層の男性 3 人の会話（ア－(2)）		1
2 年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性 2 人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性 2 人の対話、又は、老年層の女性 3 人の会話（ア－(3)）		1
3 年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ） （民話が収録できないときは、（注）参照。）		1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の 2 人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1 部
副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2 部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1 部
副……正のコピー 2 部

(1) 録音テープの記録票

NO. 正
—○
(副)

○○ 県

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項
の記号

1 採録地点 _____

2 採録年月日 _____

3 話題・時間 A面 _____ () 分
B面 _____ () 分

4 話者 _____

5 採録機種 _____

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説(初年次のみ)、(3)録音文字化原稿の順で表紙(B4板目紙)を付けて綴ってください。

〇〇県（昭和 年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点 〇〇〇〇

(3) 文字化原稿の用紙

- | | | |
|------------|---|--------|
| ① 録音内容記録票 | } | 別紙のとおり |
| ② 方言資料割付用紙 | | |
| ③ 方言調査解説用紙 | | |

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について〈国語研・言語変化研究部でまとめたもの〉

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の□には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音のカタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kagami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [maːndo] (窓)

カンゴ [kaːgo] (籠) —高知方言など—

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwaʒi] (火事) —九州方言など—

(オ) [je] [dʒe] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) —九州方言など—

(カ) [ti] [di] はティ、ディ, [tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) —高知方言など—

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸeːbi] (蛇) —奥羽方言など—

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イェダ [jeda] (枝) —九州方言など—

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) —岡山方言など—

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [agɛ] (赤い) —奥羽方言など—

上に示した以外の特異な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注 [kɕimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聞き取りが困難な箇所には_____線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを_____線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー(注)→注「カステクロエ」または

「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聞き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聞き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を_____線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聞き取り不能の箇所には、_____線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように()を利用し、発言

が重複する部分に 線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ^トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレ^アー) アト スク^イ モツテクツカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に 線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。チョイット
ナカ^ス キター。

B イヤ イスカ^スインダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分にxxxxxxを付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴ^{ジュ}ー
 ^{xx} ^{xxxxxxxx}
ゴ^{ジュ}ーエングラエー^{ジャツ}カナー。

オ 笑い声などは文字化本文中に（ ）に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを（ ）に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色（モーラ表・音声の特徴）

③ 文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明、判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として、また、平成14(2002)年度からは、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース作成

委員会」として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的によく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な

資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、談話内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の、文字化テキストと、それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行う

が、場合に応じて最低限の変更を加える。

- ⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を２段組に对照させたファイルを作成する。さらに，それを pdf ファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を２段組に对照させたファイルを用いて，文字化の text ファイル，共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑬音声データは，サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit でデジタル化して，音声ファイル（wave 形式）を作成する。そして，それを，文字化と共通語訳を２段組に对照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROM は，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。
- ⑮CD には，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に出向き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字はFDを媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CD から成り，方言談話の音声（wave ファイル），文字化（カタカナ表記，text ファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，text ファイル），文字化・共通語訳を２

段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

刊行計画は下記のとおりである。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本の
ふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子1冊 A5判 約250ページ，CD-ROM 1枚，CD 1枚

巻数	巻名	ISBN
第1巻	北海道・青森	978-4-336-04361-0
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	978-4-336-04374-0
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・佐賀・大分	978-4-336-04378-8
第19巻	長崎・熊本・宮崎	978-4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	978-4-336-04380-1

国立国語研究所資料集13-1

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成

第1巻 北海道・青森

2006年3月30日 発行

編集：独立行政法人国立国語研究所

〒190-8561

東京都立川市緑町3591-2

TEL：042-540-4300（代表）

FAX：042-540-4339

URL：<http://www.kokken.go.jp>

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056

東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>